

令和元年度 業務実績報告書

自 平成31年 4月 1日

至 令和 2年 3月31日

地方独立行政法人広島市立病院機構

目次

「広島市立病院機構の概要」

1 現況	
(1) 法人名	1
(2) 本部の所在地	1
(3) 設立年月日	1
(4) 役員の状況	1
(5) 設置・運営する病院・施設の概要	2
(6) 職員数	2
2 広島市立病院機構の基本的な目標	3

「全体的な状況」

1 総括	4
2 大項目ごとの特記事項	
(1) 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成 するためとるべき措置	4
(2) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	8
(3) 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	9
(4) その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	9

「項目別評価」

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成 するためとるべき措置	
1 市立病院として担うべき医療	10
2 医療の質の向上	35
3 患者の視点に立った医療の提供	54
4 地域の医療機関等との連携	63
5 市立病院間の連携の強化	73
6 保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力	76
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 業務運営体制の確立	78
2 人材の確保、育成	80
3 弾力的な予算の執行、組織の見直し	88
4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり	89
5 外部評価等の活用	93
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 経営の安定化の推進	94
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成する ためとるべき措置	
1 安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充	102

「広島市立病院機構の概要」

1 現況（平成31年4月1日現在）

(1) 法人名

地方独立行政法人広島市立病院機構

(2) 本部の所在地

広島市中区中町8番18号（広島クリスタルプラザ内）

(3) 設立年月日

平成26年4月1日

(4) 役員の状況

区 分		氏 名	役 職 等
理 事 長	常 勤	影 本 正 之	
副 理 事 長	常 勤	松 村 司	本部事務局長
理 事	常 勤	荒 木 康 之	広島市民病院長
理 事	常 勤	平 林 直 樹	安佐市民病院長
理 事	常 勤	高 蓋 寿 朗	舟入市民病院長
理 事	常 勤	西 川 公 一 郎	リハビリテーション病院長
理 事	非 常 勤	相 田 俊 夫	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 副理事長
理 事	非 常 勤	森 信 秀 樹	広島経済同友会 特別幹事
監 事	非 常 勤	寺 垣 玲	弁護士
監 事	非 常 勤	安 部 貴 之	公認会計士

(5) 設置・運営する病院・施設の概要

ア 病院

病院名	所在地	病床数
広島市民病院	広島市中区基町7番33号	一般病床：715床 精神病床：28床
安佐市民病院	広島市安佐北区可部南二丁目1番1号	一般病床：527床
舟入市民病院	広島市中区舟入幸町14番11号	一般病床：140床 感染症病床：16床
リハビリテーション病院	広島市安佐南区伴南一丁目39番1号	一般病床：100床

イ 施設

施設名	所在地	病床数
自立訓練施設	広島市安佐南区伴南一丁目39番1号	自立訓練：定員60人 短期入所支援：定員5人

(6) 職員数（平成31年4月1日）

区分	職員数
広島市民病院	1,797人
安佐市民病院	1,126人
舟入市民病院	274人
リハビリテーション病院・自立訓練施設	238人
本部事務局	55人
合計	3,490人

2 広島市立病院機構の基本的な目標

広島市民病院、安佐市民病院、舟入市民病院、リハビリテーション病院・自立訓練施設では、救急医療や周産期医療、小児医療など市民生活に不可欠な医療や、がん、脳卒中、急性心筋梗塞などの治療を中心とした高度で先進的な医療、さらには感染症医療やリハビリテーション医療を、それぞれの病院の特徴を生かし、積極的に提供するとともに、地域の医療機関等との連携強化に努め、地域医療を支えている。

引き続き、救急医療等広島市の医療施策上必要とされる医療の提供に取り組むとともに、病院の医療水準の維持、向上を図り、より一層高いレベルの医療を提供するなど、地域における中核病院としての役割を積極的に果たしていくことが求められている。

広島市立病院機構は、そうした要請に応えるとともに、自律性、機動性、透明性という地方独立行政法人制度の特長を最大限に生かしながら、高度で先進的な医療の提供、医療に関する調査・研究、地域の医療機関等と連携した地域医療の支援等を行い、市民の健康の維持及び増進に寄与することを基本的な目標とする。

「全体的な状況」

1 総括

地方独立行政法人化6年目となる令和元年度は、独立した法人として、より自律的かつ弾力的な病院経営が実現できる法人制度の特長を最大限に活かして、引き続き本法人の目標とする「市民に信頼され満足される質の高い医療の継続的、安定的な提供」を念頭に、さらなる「医療機能の拡充」、「運営体制の強化」、「安定した経営の維持」に向けて次のことに取り組んだ。

- ① 理事会における幅広い専門的な意見を反映しながら、法人の経営方針や各種施策の実施、規程の改正等について審議を行うことにより、法人の意思決定を慎重かつ適切に行い円滑な病院運営に努めた。
- ② 地域の医療機関との役割分担・連携のもと、救急医療、小児・周産期医療、感染症医療、リハビリテーション医療、災害時の医療を提供した。
- ③ 医療の質の向上については、医療需要の変化、医療の高度化に的確に対応した医療が提供できるよう、医療スタッフの知識の習得や技術の向上、医療機器の整備・更新等の推進、医療スタッフが診療科や職種を越えて連携するチーム医療の推進などにより医療サービスの向上に努めた。
- ④ 業務運営体制の改善については、職員の定数管理や採用、雇用形態等について、地方独立行政法人制度の特長を生かし、看護師の増員や、事務職を段階的に市の派遣職員から法人採用職員に切り替えるなど強化に取り組んだ。
- ⑤ 財務面においては、12月末時点では黒字決算が達成できる見込であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、1月以降収支が悪化し、令和元年度は▲1.9億円の赤字となった。

2 大項目ごとの特記事項

- (1) 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 市立病院として担うべき医療

(広島市民病院)

総合的で高水準な診療機能を有する広島市の中核病院として、救急医療など市民生活に不可欠な医療や、がん、脳卒中、急性心筋梗塞などの治療を中心とした高度で先進的な医療を積極的に提供した。

救急医療については、救急患者等に対する相談機能の充実を図るとともに、救急医療コントロール機能病院として、支援病院と連携し、受入困難事案の特定患者の受入れを行うなど、一次から三次までの救急医療を24時間365日体制で提供した。

がん診療については、保険適用されたロボット手術の施設基準を新たに取得するなどして、がん診療機能の充実を図った。また、がんに関する様々な情報を提供するとともに、がん相談室において患者及び家族の相談に応じた。

周産期医療については、NICU（新生児集中治療室）9床とGCU（新生児治療回復室）24床において、リスクの高い妊産婦や極低出生体重児の医療など総合的で高度な周産期医療について提供した。また、帝王切開を安全かつ速やかに実施するため、総合周産期母子医療センター内に手術室を整備した。

災害医療については、災害時に備え、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保した。また、災害支援ナースの登録や業務継続計画（BCP）に基づく災害訓練を行った。

（安佐市民病院）

広島市の北部だけでなく、市域、県域を越えた北部地域の総合的で高水準な診療機能を有する中核病院として、救急医療など市民生活に不可欠な医療や、がん、脳卒中、急性心筋梗塞などの治療を中心とした高度で先進的な医療を積極的に提供した。

救急医療については、安佐医師会可部夜間急病センターと連携して一次救急医療を適切に運営するとともに、北部地域における実質的な三次救急医療を24時間365日体制で提供した。

がん診療については、がんゲノム医療を開始するなどして、がん診療機能の充実を図った。また、PET-CT（陽電子断層撮影・コンピュータ断層撮影複合装置）や低被ばくCTを活用し、がんの早期発見、転移や再発について精度の高い診断を行うとともに、内視鏡検査室を増設した。

災害医療については、災害時に備え、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保した。また、災害支援ナースの登録や業務継続計画（BCP）に基づく災害訓練を行った。

へき地医療については、広島県北西部地域医療連携センターの運営を開始し、へき地診療所等への医師派遣や、北部地域の医療従事者に対する研修など支援の充実を図った。

新病院での新たな取組の検討については、地域救命救急センターの勤務体制などについて議論を行うとともに、循環器内科と心臓血管外科が一体となった心臓疾患チーム（ハートチーム）を立ち上げた。また、チーム医療体制の充実のため関連診療科を集約配置し、センター化を図るなどの結論を得た。

（舟入市民病院）

小児救急医療の実施に当たっては、市立病院間の応援体制を整えるとともに、重篤で高度医療が必要な患者については、広島大学病院などの三次救急医療機関と搬送・受入れの連携を図るなど、医師会、広島大学等の協力を得て24時間365日体制で小児救急医療の提供を行った。また、緊急度の自動判定が可能となるトリアージシステムを運用し、円滑な診療を行った。

感染症医療の提供については、第二種感染症指定医療機関としての運営体制を維持した。新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、対策マニュアルの整備を行うとともに、

広島市や広島県、近隣の病院等との連携を強化し、患者を受け入れた。また、感染症医療に関する研修等に参加し、職員の専門性の向上を図った。

病院機能の有効活用については、広島市民病院や地域の医療機関と連携を図り、紹介患者を積極的に受け入れた。また、広島市民病院と連携を図りMRI検査予約体制を構築した。

障害児（者）診療相談機能の充実については、医療型重症心身障害児（者）短期入所利用者を受け入れるとともに、障害児（者）への対応に関する研修等に参加し、職員の育成を行った。

（リハビリテーション病院・自立訓練施設）

脳血管障害や脊髄損傷などによる中途障害者の社会復帰や社会参加を促進するため、高度で専門的な医療と自立のための訓練や相談など、生活の再構築のため一貫したリハビリテーションサービスを提供した。

365日切れ目なくリハビリテーション医療を提供する体制を整備し、効果的な回復期リハビリテーション医療を提供した。

広島市民病院と安佐市民病院から急性期医療を終えた患者を受け入れ、高度で専門的な回復期リハビリテーション医療を提供した。患者が退院後に地域で療養や生活を継続できるように、患者一人ひとりに担当の退院支援職員を充てて入院早期から退院支援を行った。身体疾患のために入院した認知症患者に対して、認知症状を考慮した看護計画を作成するなど、ケアの質の向上を図った。

通所リハビリテーションの実施に向け、検討を行い、令和元年10月から退院後も集団コミュニケーション療法及び個別言語聴覚療法が必要な対象者に対し、介護保険による短時間通所リハビリテーションを開始した。また、退院した患者の在宅療養へのスムーズな移行及び継続的な在宅療養の維持を支援するため、令和元年度は訪問リハビリテーションを49人に、訪問看護を45人に実施した。

また、高次機能障害を有する外来リハビリテーション利用者に対して、専門外来を実施した。

提供する支援の充実のため、高次脳機能障害者を対象とする自立訓練（生活訓練）の定員を拡充するとともに、新たな障害福祉サービスとして就労定着支援サービスの実施に向けた検討を行った。

イ 医療の質の向上

医療需要の変化や医療の高度化に的確に対応するため、研修の充実を図るとともに、認定看護師資格など必要とする資格の取得を促進した。

広島市民病院の一般撮影（放射線）システムや自動ジェット式超音波洗浄システム、安佐市民病院のCアームナビゲーションシステムを更新し、計画的な医療機器の整備・更新を行った。

市民に信頼される安全な医療を提供するため、各病院ともリスクマネージャーを配置し、情報共有のための会議や研修会の開催、マニュアルの整備などにより、機構として医療安全対策に努めた。

ウ 患者の視点に立った医療の提供

病院情報の提供について、各病院のホームページの充実を図るとともに、患者等が病院を選択する上で必要な情報の提供等を行った。

入院患者の利便性の向上を図るため、広島市民病院及び安佐市民病院では、地域の歯科医との連携を図り、口腔機能の管理による合併症予防に努めた。

また、各病院ごとに接遇研修等を行い能力向上に努めるとともに、病院給食及び患者満足度のアンケートを実施し、改善が必要と判断されるものについて順次、改善に取り組んだ。

エ 地域の医療機関等との連携

地域の医療水準の向上を図ることを目的として、病院が保有する高度医療機器の共同利用や開放型病床の利用促進について働き掛けを行った。

広島医療圏北部地域における地域完結型医療の提供体制の構築を行うため、安佐市民病院に病院機能分化推進室を設置し、安佐医師会（安佐医師会病院準備担当）とともに、北部医療センター安佐市民病院及び安佐医師会病院（仮称）開設に向けた検討を行った。

舟入市民病院では、地域包括ケア病床を運用しており、地域の訪問看護ステーション等と連携し、高齢者の生活支援にも取り組んだ。

各病院とも、福祉事務所や地域包括支援センター、介護サービス事業所等の福祉機関と連携し、患者の退院後の療養や介護などの支援を行った。

オ 市立病院間の連携の強化

機構内の市立病院が相互に連携し、医療機能を補完し合い、一つの病院群としての病院運営を推進するため、リハビリテーション病院では、広島市民病院及び安佐市民病院からの患者の受入れや広島市民病院からのMRI検査の受入れ、舟入市民病院では、広島市民病院からの外科医等の派遣や患者の受入れなどで連携を図った。

4病院で病院総合情報システムの運用をしており、病院間の円滑な情報伝達、共有化を図った。

カ 保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力

広島市が実施する保健、医療、福祉、教育施策に積極的に協力し、広島市民病院では広島市が進める自殺未遂者の自殺再企図防止支援事業に協力を継続し、入院患者に対し、自殺再企図防止に努めた。また、安佐市民病院では、広島市からの委託を受け、支援体制を構築するとともに、広島市や他の病院と協議を行い自傷患者への早期介入に努めた。

舟入市民病院では、レスパイトケア(重症心身障害児(者)医療型短期入所事業)について、入所者を受け入れた。

(2) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 業務運営体制の確立

令和元年度、理事会を4回開催し、方針決定や目標達成に向けた迅速な意思決定を行った。

平成30年1月に稼働した新人事給与システムについて、社会保険届出関連の電子申請化により、令和元年度、雇用保険の届出申請に関して調整を行い、業務の効率化を図った。

病院経営、医療事務に係る専門知識を有する事務職員を採用した。

また、毎月、各病院長等が出席する経営会議において、主要な課題等について、協議、検討するとともに、理事長が毎月各病院を訪問し、病院の現状把握を行った。

イ 人材の確保、育成

多様な雇用形態を取り入れて看護補助者を確保するとともに、看護補助者に対して業務の質の向上を図るために研修を実施するなど、看護師の負担軽減を図った。

医療技術職の欠員補充を行うため、年度中途での採用試験を実施した。

医師確保の推進については、臨床研修医向け病院説明会でPRを行うとともに指導医体制強化のため指導医資格未取得者を資格取得講習会に派遣し、取得者を中心に研修プログラムの充実を図った。

看護師確保の推進については、説明会・インターンシップの開催や、看護師養成施設への協力依頼を行うとともに、採用内定者の辞退を抑制するため懇談会を実施した。

事務職員の専門性の向上については、病院の外部環境や内部環境の変化及び問題点を把握し、改善のための戦略を立てる能力を習得させ、病院経営に有用な情報を取捨選択できる人材を育成することを目的として、平成30年度に実施した「病院経営スペシャリスト育成カリキュラム」の受講者等を対象に、研修で学んだ内容を継続的に活かせるよう「フォローアップ研修」を3回実施した。

ウ 弾力的な予算の執行、組織の見直し

各病院長の意見を反映させて、医療機器整備を病院の実態や必要性に応じて見直しを行った。

また、広島市民病院において、より迅速な医療安全対策措置をとるための「医療安全管理室」を、安佐市民病院において、北部医療センター安佐市民病院と安佐医師会病院(仮称)の機能分化策検討などのための「病院機能分化推進室」を設置等を行い、組織を見直した。

エ 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり

広島市民病院では介助業務員を育成し、安佐市民病院では看護補助者に対する定期的な研修を実施するなど、看護補助業務の質の向上を図った。

毎月、全職員の時間外勤務時間数を確認し、長時間労働が心身に与える悪影響等についての意識啓発、メンタルサポートに努めた。

オ 外部評価等の活用

監事監査規程に基づく4病院の実地監査及び書類監査、会計規程に基づく内部監査、会計監査人による会計監査を行った。

これらの監事監査、内部監査、会計監査の結果は、理事長が報告を受けた後、理事会へ説明、報告した。

(3) 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 経営の安定化の推進

経営状況・分析を踏まえた病院運営を実施するため、毎月開催する経営会議において、各病院の経営指標の現状と課題及びその対応策を報告し、意見交換を行って、健全な病院運営を行うよう努めた。

経費の削減に向けては、臨床検査管理システムの購入及び保守点検業務などについて長期・複合契約により一括発注するとともに、価格交渉落札方式による調達を推進などを行った。

また、医薬品については、関係部署が共同しての価格交渉や後発医薬品への切替え、後発医薬品の使用量増加の推進を、診療材料については、看護部を中心に共通化、又は、安価な材料への切替えを行った。

収入の確保に向けては、診療報酬制度の改定に対応した適正な施設基準取得及び請求漏れ、査定減の縮減に努めるとともに、医療費個人負担分に係る未収金の発生防止の取組や、回収困難な事案の弁護士法人への回収委託等を行った。

(4) その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

ア 安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充

安佐市民病院整備室に、用地取得のための職員を増員し、執行体制の充実を図った。

北部医療センター安佐市民病院の建設工事に着手するとともに、病院敷地の一部の土地を購入した。

また、安佐医師会病院（仮称）の実施設計が完了した。

項目別評価

<p>第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 市立病院として担うべき医療 市立病院は、それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、本市の医療施策上必要とされる医療を安定的に提供すること。</p> <p>(1) 広島市民病院、(2) 安佐市民病院</p>	
<p>ア 救急医療 広島市民病院は、初期救急から三次救急までの救急医療を24時間365日体制で提供するとともに、引き続き救急医療コントロール機能の中心的な役割を担うこと。また、安佐市民病院は、県北西部地域等の中核病院として、引き続き実質的な三次救急医療を提供すること。</p> <p>イ がん医療 地域がん診療連携拠点病院としての機能強化を図り、高度で先進的ながん医療を提供すること。</p> <p>ウ 周産期医療 広島市民病院は、総合周産期母子医療センターとして、リスクの高い妊産婦や新生児への周産期医療を提供すること。</p> <p>エ 災害医療 災害拠点病院として、災害時に、迅速かつ適切な医療を提供するとともに、災害医療における中心的な役割を果たすこと。</p> <p>オ ヘき地医療 安佐市民病院は、へき地医療拠点病院として、また、市北部地域のみならず、県北西部地域等を対象とした中核病院として、関係医療機関に対する診療や医療従事者の研修等の支援に取り組むこと。</p>	<p>中期目標</p>

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
		記号	評価理由・コメント等	記号	評価理由・コメント等
<p>第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 市立病院として担うべき医療 (大項目) それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供します。</p>	<p>第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 市立病院として担うべき医療 (大項目)</p>				
<p>(1) 広島市民病院</p>	<p>(1) 広島市民病院</p>				

中期計画		令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号							
<p>ア 救急医療の提供 (小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期レベルの一次救急医療から、救命救急センターを備え一刻を争う重篤患者に対する三次救急医療までを24時間365日体制で提供します。 受入困難事案の救急患者を一旦受け入れ初期診療を行った上で、必要に応じて支援医療機関への転院を行う役割を担う救急医療コントロール機能病院としての運営に取り組みます。 医師会が運営する夜間急病センターとの連携、協力の下、一次救急医療の提供体制の適切な運営に努めます。 	<p>ア 救急医療の提供 (小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 一次から三次までの救急医療を24時間365日体制で提供 救急医療コントロール機能病院としての運営 	<p>【一次から三次までの救急医療を24時間365日体制で提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一次から三次までの救急医療を24時間365日提供し、令和元年度は、救急患者31,577人(救急車7,101台、ウォークイン24,476人)を受け入れた。 【救急医療コントロール機能病院の運営】 救急患者の転院受け入れを行う支援病院(34病院)と連携を取りながら、受入困難事案の救急患者の受け入れ等を行った。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年</th> <th>平成30年</th> <th>平成31年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入困難事案の受入人数</td> <td>165人</td> <td>246人</td> <td>217人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【一次救急医療の提供体制の適切な運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 軽症患者の振り分けを推奨するため、院内でのポスター掲示や救急外来でリフレット等を配付することにより千田町夜間急病センターの案内を行うとともに、患者からの待ち時間等についての問合せには電話確認などで対応し、連携を図った。 <p>【救急患者等に対する相談機能の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 接遇マネージャー研修等を行い、医療相談員等のスキルの向上を図り、救急患者等に対する相談機能の充実を図った。また、支援病院との連携を図り、円滑な転院に努めた。 	区分	平成29年	平成30年	平成31年	受入困難事案の受入人数	165人	246人	217人	<p>3</p>	
区分	平成29年	平成30年	平成31年									
受入困難事案の受入人数	165人	246人	217人									

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等
<p>イ がん診療機能の充実(小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域がん診療連携拠点病院として、豊富な治療実績や高度な医療機器を活用し、手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた集学的治療、緩和ケアを行います。 ・化学療法の一環として、通院治療ができるよう、通院治療センターの体制等の充実を図ります。 ・「広島がん高精度放射線治療センター」と連携して質の高い医療を提供します。 	<p>イ がん診療機能の充実(小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術、化学療法、放射線治療と、これらを適切に組み合わせた集学的治療の実施 ・多職種による緩和ケアチーム活動の実施 <p>・がんに関する様々な情報の提供(研修会の開催、がん教育の実施)</p> <p>・がん患者等への相談支援の実施</p> <p>・「広島がん高精度放射線治療センター」との連携</p> <p>・薬剤師外来の充実</p>	<p>【手術、化学療法、放射線治療と、これらを適切に組み合わせた治療の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 診療科ごとに、毎週、キャンサーボード(病理、放射線部門等)を開催し、集学的治療の検討を行った。また、困難事例については、必要に応じて、病院内の専門家によるカンファレンスを行った。 ○ 新規に保険適用されたロボット手術のうち、腹腔鏡下の胃切除術、胃全摘術、嚥門側胃切除術、子宮悪性腫瘍手術、胸腔鏡下の肺悪性腫瘍手術の施設基準を取得し、実施した。 <p>【緩和ケアチームの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 麻酔科医師、外科医師、精神科医師、薬剤師、緩和ケア認定看護師、医療相談員(MSW)で構成。チームは痛みの緩和だけでなく、病気が招く心と身体の不調に積極的に関わり生活の質の向上につなげた。 ○ 緩和ケア外来では、令和元年度に初診76件、再診514件の診療を行った(平成30年度は初診44件、再診419件)。 <p>【がんに関する様々な情報の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療情報サロンにおいて、がんに関する図書等の情報を常時更新し、閲覧ができるようにしている。このほか、同サロンにおいて、毎月、院内の医師や外部講師を招いて、患者、家族の集いを開催した。 ○ ホームページにがん治療に関する情報等を掲載し、周知を図った。 <p>【がん患者等への相談支援の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療支援センター内のがん診療相談室において、がん患者やその家族の様々な相談に応じた。 <p>【高精度放射線治療センターとの連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島がん高精度放射線治療センター(HIPRAC)の要員として、診療放射線技師1名を引き続き派遣した。 <p>また、令和元年度には広島市民病院から82名の患者紹介を行った(平成30年度は65名)。</p> <p>【薬剤師外来の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 投票窓口のお薬相談室で行っていた薬剤師外来を入院支援室に2ブース設 	<p>3</p>

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
		評価理由等	記号		評価理由・コメント等
ウ 周産期医療の提供（小項目） 総合周産期母子医療センターとして、リスクの高い妊産婦や産後出血、胎児に対する医療等、母体、胎児及び新生児に対する総合的で高度な周産期医療を提供します。	ウ 周産期医療の提供（小項目） ・総合周産期母子医療センターの運営	【総合周産期母子医療センターの運営】 ○ 新生児部門は、NICU（新生児集中治療室）9床、GCU（新生児治療回復室）24床で運営し、令和元年度は343名の入院があった。 ○ 産科部門は、一般病棟36床で運営し、令和元年度は962件の出産（うち異常分娩520件）があった。 ○ 帝王切開を安全かつ速やかに実施するため、総合周産期母子医療センター内に手術室を整備し令和元年11月から運用を開始した。令和2年3月末までに37件の手術を実施した。	3		
エ 災害医療の提供（小項目） ・災害拠点病院として、地震や台風等の自然災害、大規模火災等の都市災害等に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等を行い、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保します。 ・災害その他の緊急時における医療救護活動の実施 ・広島市地域防災計画等に基つき、広島市長からの求めに応じて適切に対応するため、自らの判断で医療救護活動を行います。 ・DMAT（災害派遣医療チーム）の派遣要請に基づ	エ 災害医療の提供（小項目） ・災害拠点病院としてのライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等 ・災害その他の緊急時における医療救護活動の実施 ・災害時に迅速かつ適切な医療提供を確保するため、自らの判断で医療救護活動を行います。 ・DMAT（災害派遣医療チーム）の派遣要請に基づ	【災害拠点病院としてのライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等】 ○ 災害時に備え、自家発電設備等ライフラインの機能の維持、患者用の食糧、飲料水の確保、医薬品の備蓄に努め、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保した。 【災害その他の緊急時における医療救護活動の実施】 ○ 令和元年度は、災害支援ナース28名の登録があり、8名の看護師に広島県看護協会主催の講習を受講させた。 ○ 令和元年度の医療救護活動の実績はなかったが、広島県主催によるDPAT（災害派遣精神医療チーム）の研修に医師、看護師及び医療相談員（MSW）が参加した。 【業務継続計画（BCP）に基づく研修・訓練の実施】 ○ 平成31年3月に策定した業務継続計画に基づき、令和元年11月13日に大規模災害を想定したトリアージ訓練、令和2年3月23日に「院内防災訓練」を実施した。	3		

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号																																		
<p>中期計画</p> <p>き、被災地へ医師等を派遣し、被災地の医療活動を支援します。</p>	<p>令和元年度 年度計画</p> <ul style="list-style-type: none"> DMAT（災害派遣医療チーム）の派遣、スタッフの育成 感染症患者診療に係る舟入市民病院との連携 	<p>【DMATの派遣、スタッフの育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> DMATの強化・充実を図るため、医師1人、看護師1人、放射線技師1人に資格取得研修を受講させた。また、DMATを統括する人材を育成するため、医師1人を令和元年5月初旬に統括DMAT資格取得研修に受講させ、インストラクター資格を習得させた。 令和元年9月7日に実施された大規模地震時医療活動訓練に医師3人、看護師2人が参加した。 <p>【感染症患者診療に係る舟入市民病院との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第二类に該当する感染症患者の発生時には、第二種感染症指定医療機関である舟入市民病院の感染対策チームと連携し適切な患者搬送を行うこととしている。 																																				
<p>オ 低侵襲手術等の拡充（小項目）</p> <p>内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」の活用やカテーテル治療とバイパス手術などの外科手術を同時に行うことのできるハイブリット手術室の運用を進め、患者の身体的負担が少ない手術等を拡充します。</p>	<p>オ 低侵襲手術等の拡充（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者の身体的負担の少ない内視鏡手術及び内視鏡的治療の推進 	<p>3.</p> <p>【内視鏡手術及び内視鏡的治療の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者の身体的負担が少ない内視鏡手術等を2,449件行った。 <table border="1" data-bbox="821 779 1061 1310"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内視鏡手術</td> <td>1,934</td> <td>2,060</td> <td>2,148</td> </tr> <tr> <td>内視鏡的 食道</td> <td>51</td> <td>56</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>胃 治療(ESD)</td> <td>264</td> <td>192</td> <td>197</td> </tr> <tr> <td>大腸</td> <td>88</td> <td>83</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>403</td> <td>331</td> <td>301</td> </tr> </tbody> </table> <p>(件)</p> <ul style="list-style-type: none"> 内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」（平成30年10月更新）を活用して143件の手術を行った。 新規に保険適用されたロボット手術のうち、腹腔鏡下の胃切除術、胃全摘術、噴門側胃切除術、子宮悪性腫瘍手術、胸腔鏡下の肺悪性腫瘍手術、良性縦隔腫瘍手術の施設基準を取得し、実施した。 <table border="1" data-bbox="1348 676 1449 1339"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内視鏡下手術 (ダヴィンチ)</td> <td>149</td> <td>112</td> <td>109</td> <td>143</td> </tr> </tbody> </table> <p>(件)</p>	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	内視鏡手術	1,934	2,060	2,148	内視鏡的 食道	51	56	56	胃 治療(ESD)	264	192	197	大腸	88	83	48	計	403	331	301	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	内視鏡下手術 (ダヴィンチ)	149	112	109	143		3.
区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																			
内視鏡手術	1,934	2,060	2,148																																			
内視鏡的 食道	51	56	56																																			
胃 治療(ESD)	264	192	197																																			
大腸	88	83	48																																			
計	403	331	301																																			
区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																		
内視鏡下手術 (ダヴィンチ)	149	112	109	143																																		

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
				評価理由等		評価理由・コメント等	
				記号		記号	
カ 中央棟設備の老朽化への対応(小項目) 救命救急センター、ICU(集中治療室)、中央手術室等、病院の中核機能が集中する中央棟は、築後25年を経過し、建物設備の老朽化が進行していることから、計画的な改修など、老朽化への対応を行います。	カ 中央棟設備の老朽化等への対応(小項目) ・吸収式冷凍機改修 ・水熱源ヒートポンプ型ファンコイルユニット改修 ・滅菌室RO水製造装置改修	【吸収式冷凍機、水熱源ヒートポンプ型ファンコイルユニット及び滅菌室RO水製造装置の改修】 ○ 中央棟地下2階にある吸収式冷凍機を改修した。 工事発注額：3,618万8千円 工期：令和2年3月3日～令和2年6月30日 ○ 中央棟1階、5階の水熱源ヒートポンプ型ファンコイルユニットを改修した。 工事発注額：8,059万円 工期：令和元年12月18日～令和2年5月29日 ○ 中央棟4階にある滅菌室RO水製造装置の改修については、実施設計委託業務の入札が不調となったため、令和2年度に実施することとした。	3				
(2) 安佐市民病院	(2) 安佐市民病院						
ア 救急医療の提供(小項目) ・県北西部地域等の救急医療体制の実態を踏まえ、引き続き実質的な三次救急医療を提供します。 ・医師会が運営する夜間急病センターとの連携、協力の下、一次救急医療の提供体制の適切な運営に努めます。	ア 救急医療の提供(小項目) ・県北西部地域等における実質的な三次救急医療を24時間365日体制で提供 ・一次救急医療の提供体制の適切な運営(安佐医師会可部夜間急病センターとの連携など)	【実質的な三次救急医療を24時間365日体制で提供】 ○ 県北西部地域等における実質的な三次救急医療を24時間365日体制で提供し、令和元年度は、救急車4,623台、救急患者11,348人を受け入れた。 【一次救急医療の提供体制の適切な運営】 ○ 令和元年度に安佐市民病院が受け入れた一次救急患者数は、1日当たり2.8人で、安佐医師会可部夜間急病センター開設以前の平成22年度の4.5人と比べ1.7人減となった。また、同センターが受け入れた令和元年度の1日当たりの患者数は8.1人(開設当初の平成23年度と同数)で、同センターと連携して適切に運営を行った。	3				

中期計画		令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価	
項目		がん診療機能の充実(小)	評価理由等	評価理由・コメント等	
イ	がん診療機能の充実(小) 項目) ・地域がん診療連携拠点病院として、豊富な治療実績や高度な医療機器を活用し、手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた集学的治療、緩和ケアを行います。 ・PET-CT(陽電子断層撮影・コンピュータ断層撮影複合装置)や低被ばくCTを活用し、精度の高い診断を行います。	イ がん診療機能の充実(小) 項目) ・手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた集学的治療と緩和ケアの実施 ・PET-CT(陽電子断層撮影・コンピュータ断層撮影複合装置)や低被ばくCTを活用した精度の高い診断の実施 ・低被ばくCTを活用した健康診断の充実の検討 ・化学療法患者の顎骨壊死の早期発見を旨とした歯科連携の実施	【がん診療機能の充実(がんゲノム医療開始)】 ○ 平成31年4月に「がんゲノム医療連携病院」の指定を受け、令和元年10月から、院内患者のがんゲノム医療を開始した(令和元年度実績11件)。また、令和2年4月から「がんゲノム診療科」を開始するとともに、がんゲノム医療中核病院である岡山大学病院及びがんゲノム医療拠点病院である広島大学病院と連携し、院外からの紹介患者の受入を開始する。 【手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた治療と緩和ケアの実施】 ○ キャンサーボードを毎週開催し、手術や化学療法、放射線治療などについて協議し、これらを適切に組み合わせた治療と緩和ケアを着実に行った。また、月1回、院外専門家の意見を聴きながら実施した。 ○ 特に外来での化学療法については、手術や入院治療に比べ患者の負担が軽減されることや新しい薬剤の登場により適用対象が拡大したことから、積極的に取組んでおり、令和元年度の延べ件数は6,093件と平成30年度の5,416件から677件増加した。 【PET-CTや低被ばくCTを活用した精度の高い診断の実施】 ○ 令和元年度は、PET-CTの撮影を1,433件、CT(PET-CTを除く)の撮影を31,652件行い、がんの早期発見、転移や再発について、精度の高い診断を行った(平成30年度に比べ、PET-CTが58件、CTが4,017件増加)。 【低被ばくCTを活用した健康診断の充実の検討】 ○ 令和元年度においては、CTを活用した健康診断(一次精密検査)の実績はなく、当面は、再検査など、二次精密検査によるCT検査の増加を図る。 【化学療法患者の顎骨壊死の早期発見を旨とした歯科連携の実施】 ○ 平成30年4月1日より、骨吸収抑制薬使用患者の地域連携パスの運用を開始しており、安佐市民病院で口腔管理を行っている患者数は88人で、そのうち11人について地域の歯科医院と連携を実施した。また、令和元年度は、院内で3人の顎骨壊死を早期に発見することができた。	記号 4	記号

中期計画		令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号	記号
		<ul style="list-style-type: none"> 内視鏡検査室の増設 	<p>【内視鏡検査室の増設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 内視鏡検査室を1室増設し、令和元年6月18日より運用を開始したことにより、内視鏡検査及び治療件数が増加となった(内視鏡検査件数13,500件(平成30年度12,456件)、内視鏡治療件数3,202件(平成30年度2,816件)、胃ESD治療(内視鏡的粘膜下層剥離術)件数209件(平成30年度201件)、大腸ESD治療件数213件(平成30年度146件)実施。また、がん患者の待ち期間が8週間後から2~4週に短縮した。 			
<ul style="list-style-type: none"> 災害医療の提供(小項目) <ul style="list-style-type: none"> 災害拠点病院として、地震や台風等の自然災害、大規模火災等の都市災害に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等を行い、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保します。 災害その他の緊急時には、広島市地域防災計画等に基つき、広島市長からの求めに応じて適切に対応するとともに、自らの判断で医療救護活動を行います。 DMA Tの派遣 <ul style="list-style-type: none"> 災害時に迅速かつ適切な医療提供を確保するための業務継続計画(BCCP)に基づき、被災地へ医師等の派遣 	<ul style="list-style-type: none"> 災害医療の提供(小項目) <ul style="list-style-type: none"> 災害拠点病院としてのライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等 災害その他の緊急時における医療救護活動の実施 DMA Tの派遣 <ul style="list-style-type: none"> 被災地へ医師等の派遣 災害時に迅速かつ適切な医療提供を確保するための業務継続計画(BCCP)に基づき、被災地へ医師等の派遣 	<p>【災害拠点病院としてのライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等に努め、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保した。 <p>【災害その他の緊急時における医療救護活動の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度は、災害支援ナース7人の登録があり、4人の看護師に広島県看護協会主催の講習を受講させた。 令和元年度の医療救護活動の実績はなかったが、令和元年9月7日に安佐医師会、消防との救急救護合同訓練を実施するなど、日頃から防災関係機関や地域の医療機関との連携を図っている。 <p>【DMA Tの派遣】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度の派遣実績はなかったが、DMA T隊員を中心とした災害対策チーム会において、災害対策の検討やシミュレーション研修、災害救護訓練の企画立案などの取組を行った(令和元年度は災害対策チーム会を3回実施)。 <p>【業務継続計画(BCCP)に基づき研修・訓練の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成31年3月に策定した業務継続計画に基づき、令和元年9月7日に南海トラフ地震発生に伴う列車脱線事故を想定した救急救護合同訓練を安佐医師会、消防と共に安佐市民病院で実施した(同病院職員は、医師、看護師及び事務職員等35名参加)。訓練では、院内に災害対策本部を立ち上げ、閉院日屋間の想定でトリアージブースを設け、要救護者の受入訓練を実施した。 	3			

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
				評価理由等		評価理由・コメント等	
記号		記号		記号		記号	
<p>工 へき地医療の支援 (小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> へき地医療拠点病院として、市北部地域のみならず、県北西部地域等の医療状況等に応じて、引き続き医師の派遣に取り組みます。 県北西部地域等の医療従事者に対する研修の提供やWEB会議システムの活用により診療の質の向上を支援するとともに、交流の場を提供します。 	<p>工 へき地医療の支援 (小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 広島県北西部地域医療連携センターの設置に伴う支援 県北西部地域等の医療状況等に応じた医師派遣の充実 県北西部地域等の医療従事者に対する研修及び研修の場の提供 県北西部地域等の医師の診療支援のためのWEB会議システムの運用 ICT技術を活用した遠隔画像読影の推進 	<p>【広島県北西部地域医療連携センターの設置に伴う支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年9月に広島県北西部地域医療連携センターの運営を開始し、研修や派遣等の支援を充実させた。具体的には、代診や宿直支援の開始、派遣回数増加、広島大学ふるさと幹医師の受入と研修体制の整備等を行った。 【県北西部地域等の医療状況等に応じた医師派遣の充実】 ○ 北広島町、安芸太田町及び邑南町(島根県)のへき地診療所等へ、延べ198人の医師を派遣した(平成30年度は延べ91人)。そのほか、安芸太田病院から依頼のあった372件の遠隔画像読影を行った(平成30年度は428件)。 【県北西部地域等の医療従事者に対する研修及び研修の場の提供】 ○ 県北西部地域等の医療従事者に研修及び研修の場を提供するため、広島県北西部地域医療連携センター等の研修会を2回開催し、1回目は18施設55人、2回目は16施設72人の参加があった(平成30年度は1回開催し、27施設57人参加)。 【県北西部地域等の医師の支援のためのWEB会議システムの運用】 ○ 安佐市民病院を含む県北西部地域等の8医療機関において、WEB会議システムを活用して医療機関同士のカンファレンスを44回実施した。また、このシステムを利用して、腹部エコーカンファレンスを22回実施した。 【ICT技術を活用した遠隔画像読影の推進】 ○ 安芸太田病院の遠隔画像読影を1日2件実施した。今後は1日当たりの件数を増やすよう安芸太田病院と協議を進めている。 	<p>4</p>				
<p>才 低侵襲手術の拡充等 (小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」を活用した手術の対象領域の拡大や心臓手術における小切開手術など患者の身体的負担が少ない手術の拡充と日帰り手術 	<p>才 低侵襲手術の拡充等 (小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 内視鏡下手術用ロボットを活用した手術の対象領域の拡大 	<p>【内視鏡下手術用ロボットを活用した手術の対象領域の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和元年度は泌尿器科領域において、腎がん22件、前立腺がん91件、膀胱がん12件のロボット支援下手術を実施した(平成30年度は腎がん18件、前立腺がん95件、膀胱がん5件実施)。 ○ 令和元年6月に胃がんに対する腹腔鏡下胃全摘、令和元年12月に直腸がんに対する腹腔鏡下直腸切除・切除術の内視鏡下手術用ロボットの施設認定が完 	<p>3</p>				

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
				評価理由等		評価理由・コメント等	
				記号		記号	
<p>の推進等を行います。</p>	<p>心臓手術における小切開手術など患者の身体的負担が少ない手術の拡充と日帰り手術の推進</p> <p>・クライオアブレーション導入による心房細動アブレーションの実施</p>	<p>了し、保険適用となった（令和元年度末時点で胃がん延べ30件、直腸がん延べ18件実施）。</p> <p>【心臓手術における小切開手術など患者の身体的負担が少ない手術の拡充と日帰り手術の推進】</p> <p>○ 右開胸下小切開僧房弁形成術を4件行い、前半の2件は外部医師の指導の下で、後半の2件は安佐市民病院の職員のみで行った。小切開手術を希望される患者のニーズに応えられる体制を整えた。</p> <p>【クライオアブレーション導入による心房細動アブレーションの実施】</p> <p>○ 令和元年度は、クライオアブレーションを39例実施した（平成30年度は26例実施）。これまでの高周波カテテルアブレーションと比較して、手術時間及び放射線被ばく時間の大幅な短縮が可能となっており、初期成功率や合併症率の悪化も生じていない。</p> <p>※クライオアブレーション：組織を冷凍凝固することで、心筋組織に障害をもたらし、不整脈を治療すること。</p> <p>※高周波カテテルアブレーション：カテテル先端から高周波エネルギーを通過し、心筋を焼灼する治療法のこと。</p>					
<p>力 新病院での新たな取組の検討（小項目）</p> <p>新病院における高度で先進的な医療の実施・拡充等を検討するとともに、その体制づくりや関連業務の検討を行います。</p>	<p>力 新病院での新たな取組の検討（小項目）</p> <p>広島市北部医療センター安佐市民病院開設準備委員会を設置して以下の項目を検討</p> <p>・地域救命救急センター整備の検討</p> <p>・医師、看護師のほか薬剤師、臨床検査技師、医療ソーシャルワーカーを含めた救急患者受入体制の検討</p>	<p>令和元年6月に開設準備委員会を立ち上げ、7月以降16ワーキンググループ（以下「WG」という。）で議論を進めた。また、令和元年度の議論の取りまとめを行い、検討中の項目については引き続き検討を進めていく。</p> <p>【地域救命救急センター整備の検討】</p> <p>○ 救命救命・ドクターヘリWGで、地域救命救急センターの勤務体制（医師9名体制）について議論を行った。看護師、医療技術者の勤務体制及び人員配置については今後も検討を進めていく。</p> <p>【医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師等を含めた救急患者受入体制の検討】</p> <p>○ 救命救命・ドクターヘリWGで、医師の診療体制、薬剤部門等他部門や病棟など組織の垣根を越えた連携等について議論を行った。また、ドクターヘリ搬送患者受け入れ手順案を策定した。</p>	3				

中期計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	令和元年度 年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等 記号
<ul style="list-style-type: none"> ・ 周術期の管理を充実するために周術期管理チームの整備の検討 ・ 循環器内科と心臓血管外科が一体となった心臓疾患チーム（ハートチーム）による医療の推進の検討 ・ 院内がんセンター、脊椎・関節センター等の設置の検討 ・ 365日リハビリテーションが提供できる体制の検討 ・ IOTを活用した看護業務の効率化の検討 ・ 安全な注射管理のための病棟における注射薬の調製の検討 ・ 診療報酬請求事務の委託内容等の見直しの検討及び直営化の調査・検討 	<p>【周術期の管理を充実するために周術期管理チームの整備の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現在、周術期管理チームは、多職種が共同して周術期医療の安全・質の向上を目指し活動している。新病院においては、さらに周術期の管理を充実させるため、放射線科との連携や管理システム（周術期患者管理システム）の導入等について検討を行った。 <p>【循環器内科と心臓血管外科の心臓疾患チームによる医療の推進の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新病院にて掲げる、「循環器内科と心臓血管外科が一体となった心臓疾患チームによる医療の推進」に向けて、実質的なハートチームを立ち上げ、カンファレンスを実施した。 <p>【院内がんセンター、脊椎・関節センター等の設置の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外来WGにおいて、チーム医療体制の充実のため関連診療科を集約配置しセンター化を図る等の結論を得た。 <p>【365日リハビリテーションが提供できる体制の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新病院で365日リハビリテーションを実施するために必要な療法士数等についての検討を引き続き行った。 <p>【IOTを活用した看護業務の効率化の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者の入眠状況の把握により、転倒・転落予防を図ることを目的としたスマートベッドや、タイムリーかつ誤りや漏れのない記録の実現に向けて、患者のバイタルデータ等を自動送信することが可能となるスロットチェックモータを新病院に導入することを検討した。 <p>【安全な注射管理のための病棟における注射薬の調製の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 病棟における安全な注射管理のために、薬剤師全員で注射薬の無菌調整業務を行い、技術の研鑽に努めた。 <p>【診療報酬請求事務の委託内容等の見直しの検討及び直営化の調査・検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事務WGで入院・外来診療報酬算定の業務等の直営化について検討を行った。今後も、引き続き、検討を進めていく。 			

中期計画	令和元年度 年度計画 主 その他(小項目) (7) リハビリテーションの 充実 ・早期リハビリテーション の充実	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等 記号
	<p>・心臓リハビリテーション、 がんリハビリテーション、 言語療法リハビリテーシ ョンの実施</p> <p>(4) 専門外来の実施 ・医療ニーズに応じた専門 外来の実施(特定行為看 護師の専門外来の実施)</p> <p>・薬剤師外来実施の検討</p> <p>(5) 地域講演会の実施 ・アドバンス・ケア・プラ ンニングに関する地域講 演会の開催</p>	<p>【早期リハビリテーションの充実】</p> <p>○ 平成30年度より特定集中治療室に専任の理学療法士を1名配置し、介入プ ロトコルの作成により、8時間以内の実施率は向上した。また、リハビリテ ーション待機期間の短縮を図るため、可能な限り処方翌日に介入できるよう 取り組み、VF検査を当日処方、遅くとも翌日には実施した。この結果、令 和元年度VF検査は805件(平成30年度729件)となった。</p> <p>【心臓、がん、言語療法リハビリテーションの実施】</p> <p>○ 北5病棟に専任の理学療法士を1名配置し、ADLの維持向上、転倒・褥 瘡発生の予防、早期の退院支援等を行うとともに、肺がん、食道がん、胃が ん、大腸がん、乳がん等のリハビリテーションを術後早期から行った。また、 外来小児言語療法を継続するための診察体制を維持した。</p> <p>【医療ニーズに応じた専門外来の実施】</p> <p>○ 特定行為研修修了者による糖尿病患者へのインスリン量の調整及び療法指 導を毎週木曜日に実施した。令和元年度の実施患者数は27人、延べ実施回数 は83回であった。また、認定看護師によるがん患者の指導相談820件、助産 師による助産外来208件、認定看護師による専門外来として、ストーマ外来 573件、もの忘れ外来648件、心不全外来134件、リンパ浮腫外来87件(病 棟往診を含む)を実施した(平成30年度は、がん患者の指導相談645件、助 産外来102件、ストーマ外来618件、もの忘れ外来701件、心不全外来177 件、リンパ浮腫外来54件(病棟往診を含む))。</p> <p>【薬剤師外来実施の検討】</p> <p>○ がん専門薬剤師及び認定薬剤師が、空きスペースを工面して外来がん化学 療法実施中の患者(令和元年度は667人)に副作用確認、患者指導を行った。 今後は、実施場所と人員の確保ができれば、医師の診察前に予約制の薬剤師 外来として取り組むこととしている。</p> <p>【アドバンス・ケア・プランニングに関する地域講演会の開催】</p> <p>○ 地域包括支援センター、社会福祉協議会及び区役所と協力して、アドバン ス・ケア・プランニングや認知症等についての地域講演会を年8回開催し、 地域との関係作りの充実を図った。</p>	3

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
		評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		※ アドバンス・ケア・プランニング：患者本人と家族が医療者や介護提供者などと一緒に、現在の病状だけでなく、将来、意思決定能力が低下する場合に備えて、あらかじめ、終末期を含めた今後の医療や介護について話し合うことや、意思決定が出来なくなってきたときに備えて、本人に代わって意思決定する人を決めておくプロセス			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1. 市立病院として担うべき医療
(3) 舟入市民病院

<p>中期目標</p>	<p>ア 小児救急医療等、小児専門医療 小児救急医療拠点病院として、小児科の24時間365日救急診療を行うとともに、初期救急医療機関及び二次救急医療機関としての医療を提供すること。また、年末年始救急診療等を引き続き実施するとともに、小児診療に特長のある病院として小児心療科等の小児専門医療の充実を図ること。</p> <p>イ 感染症医療 広島二次保健医療圏における第二種感染症指定医療機関として、引き続き感染症患者の受入体制を維持すること。</p> <p>ウ 障害児(者)医療 医療的なケアが必要な重症心身障害児(者)の受入体制の充実を図るとともに、障害児(者)に対する診療相談機能を整備すること。</p>
-------------	---

中期計画	令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	(3) 舟入市民病院		評価理由等		評価理由・コメント等	
<p>ア 小児救急医療の提供(小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小児科の24時間365日救急診療を安定的に提供するため、引き続き、医師会、広島大学等の協力を得るとともに、市立病院間の応援体制の強化に取り組みます。また、重篤な小児救急患者の円滑な搬送を行うため、三次救急医療機関との連携を図ります。 トリアージナースの能力向上を図り、診療体制の強化に取り組みます。 	<p>ア 小児救急医療の提供(小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小児救急医療を24時間365日体制で提供 市立病院間の応援体制の整備及び三次救急医療機関との連携 トリアージナースの能力向上のための研修実施 	<p>3</p> <p>【小児救急医療を24時間365日体制で提供】 ○ 令和元年度においても、医師会や広島大学等の協力を得て、24時間365日体制で小児救急医療を実施した。</p> <p>【市立病院間の応援体制の整備及び三次救急医療機関との連携】 ○ 小児救急医療の実施に当たっては、市立病院間の応援体制を整えるとともに、重篤で高度医療が必要な患者については、広島大学病院などの三次救急医療機関に搬送し(25人)、一方で三次救急医療機関からも積極的に受け入れる(26人)などの連携を図った。</p> <p>【トリアージナースの能力向上のための研修実施】 ○ 小児救急看護認定看護師が中心となって、小児救急看護分野の院内認定制度を導入した。また、トリアージナース育成に関する研修やフォローアップ研修などを制度化し、トリアージナースの能力の向上を図った。</p> <p>さらに、成人のトリアージの導入に向け、院外研修や広島市民病院での実務研修へ外来の看護師を派遣し、取り組んでいる。</p>				

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
		イ 小児専門医療の充実(小項目)		評価理由等		評価理由・コメント等	
イ 小児専門医療の充実(小項目) 小児心療科において、精神療法等の個人療法やグループで治療を行う集団療法に加え、未治療者や治療中断者の重症化防止のための支援について検討を行います。また、小児科のアレルギ-外来と連携し、アトピー疾患専門区による診療の充実を図ります。		イ 小児専門医療の充実(小項目) ・小児科入院患者に対する小児心療科のフォロー体制の充実に向けた検討		【小児科入院患者に対する小児心療科のフォロー体制の充実に向けた検討】 ○ 小児科入院患者に対し、小児科医と連携し、入院中から退院後においても小児心療科がフォローを行った。 ○ また、広島大学病院皮膚科のアトピー疾患専門区により、週1日の外来診療を行った。患者への細やかな外用薬の使用指導や院内小児科と連携した診療を行った。		3	
ウ 感染症医療の提供(小項目) ・第二種感染症指定医療機関として、重症急性呼吸器症候群(SARS)や新型コロナウイルス等の感染症患者への対応が迅速に行えるよう、平常時から医療体制を維持するとともに、感染症発生時には、市立病院を始めとする市内の関連病院と連携して対応します。 ・感染症専門資格の取得など教育研修への参加を促進し、職員の専門性の向上を図ります。		ウ 感染症医療の提供(小項目) ・第二種感染症指定医療機関としての病院運営 ・感染症医療に関する専門性の向上 ・新型コロナウイルス等対策マニュアルの運用		【第二種感染症指定医療機関としての病院運営】 ○ 第二種感染症指定医療機関として16床の感染症病床による運営体制を維持した。新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、マニュアルの整備を行い、具体的に対応できるような体制の構築を行うとともに、市や県、近隣の病院等との連携を強化した。 令和2年2月から患者の受入れを始め、患者の増加に伴い、3月29日に感染症病床を7階から6階に移し、受け入れ病床を拡大した。令和元年度末までに、入院実患者34人、延患者75人を受け入れた。 【感染症医療に関する専門性の向上】 ○ 感染制御認定薬剤師(BCPIC)の資格の取得又は更新をするため、感染制御専門薬剤師講習会へ1名、日本感染症教育研究会セミナーへ1名参加した。また、抗菌化学療法認定薬剤師の資格更新のため、抗菌化学療法認定薬剤師講習会へ1名参加したほか、医師1名、薬剤師1名、看護師1名、検査技師2名が日本環境感染症学会学術講演会等に参加した。 【新型コロナウイルス等対策マニュアルの運用】 ○ 新型コロナウイルス等対策マニュアルの連絡・搬送等の確認のため、感染症認定看護師が広島空港検疫措置訓練及び呉港湾新型コロナウイルスエンゲージ検疫措置訓練に参加した。 ○ 新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、令和2年1月から対応の検討を		4	

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価															
				評価理由等		評価理由・コメント等															
				記号		記号															
<p>工 病院機能の有効活用（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島市民病院からの手術症例の受入れ強化を行うとともに、地域住民の緊急時の受入れ強化等に取り組みます。 ・法人における外科系研修医師の手術教育施設（トレーニング）として、良性疾病を中心とした手術を行います。 	<p>工 病院機能の有効活用（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急患者やMRI検査を待つ患者等の積極的な受入れや手術教育施設としての外科系研修医の受入れなど広島市民病院との連携強化 	<p>【目標値】</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>平成29年度実績</td> <td>令和3年度目標値</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>82.9</td> <td>85.0</td> </tr> </table> <p>※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率</p>	区分	平成29年度実績	令和3年度目標値	病床利用率(%)	82.9	85.0	<p>【実績】</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>平成29年度実績</td> <td>平成31年度実績</td> <td>令和元年度実績</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>76.1</td> <td>76.8</td> <td>73.4</td> </tr> </table> <p>※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率（新型コロナウイルス感染症患者を含む）</p>	区分	平成29年度実績	平成31年度実績	令和元年度実績	病床利用率(%)	76.1	76.8	73.4	<p>開始した。保健所と対応方針の確認を行った後に、院内で検討を重ね、1月30日に同感染症対策マニュアルを作成し、受入れ準備を行った。</p>	<p>2</p>	<p>【広島市民病院との連携強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院から急性期医療を終えた紹介患者を734人受け入れるとともに、地域の医療機関からの紹介患者についても受入手順を効率化し、積極的に受け入れた。 ○ こうした広島市民病院をはじめとする医療機関からの受入れを推進するため、診療科医師や看護師等による医療連携運用会議を毎月開催し、入院患者の入退院状況の把握、調整に努め、運用体制の強化を図った。 ○ なお、小児科を除く内科・外科の病床利用率は、8月まで平均80%を超える病床利用率となっていたが、新型コロナウイルス感染症に関連する患者を受け入れるために、入院患者の抑制を行ったこと等により、年間平均では73.4%と目標の83.0%を下回った。 ○ 広島市民病院との間で共通の電子カルテシステムを使った、MRI検査の予約を行い、令和元年度は、検査を430件受け入れた（平成30年度は258件）。 	<p>市長による評価</p>
区分	平成29年度実績	令和3年度目標値																			
病床利用率(%)	82.9	85.0																			
区分	平成29年度実績	平成31年度実績	令和元年度実績																		
病床利用率(%)	76.1	76.8	73.4																		
<p>才 障害児（者）診療相談機能の充実（小項目）</p> <p>医療型重症心身障害児（者）短期入所利用者数の拡大を図り、障害児（者）への対応に関し知識・技術を持った職員育成を行うなど、障害児（者）の診療相談機能の</p>	<p>才 障害児（者）診療相談機能の充実（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療型重症心身障害児（者）短期入所利用者数の拡大 	<p>【目標値】</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>令和元年度目標値</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>83.0</td> </tr> </table> <p>※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率</p>	区分	令和元年度目標値	病床利用率(%)	83.0	<p>【実績】</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>平成29年度実績</td> <td>平成31年度実績</td> <td>令和元年度実績</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>76.1</td> <td>76.8</td> <td>73.4</td> </tr> </table> <p>※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率（新型コロナウイルス感染症患者を含む）</p>	区分	平成29年度実績	平成31年度実績	令和元年度実績	病床利用率(%)	76.1	76.8	73.4	<p>【医療型重症心身障害児（者）短期入所利用者数の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療型重症心身障害児（者）の短期入所利用者は延べ535人で、体調不良による突然の取りやめがあったことや、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い3月7日以以降レスパイトの受入れを中止したことから、平成30年度に比べ93人減少した。 	<p>3</p>	<p>市長による評価</p>			
区分	令和元年度目標値																				
病床利用率(%)	83.0																				
区分	平成29年度実績	平成31年度実績	令和元年度実績																		
病床利用率(%)	76.1	76.8	73.4																		

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
中期計画		年度計画		評価理由等		評価理由・コメント等	
記号		記号		記号		記号	
<p>充実を図ります。</p>	<p>・障害児（者）への対応に関し知識・技術を持った職員育成</p>	<p>【障害児（者）への対応に関し知識・技術を持った職員の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重症心身障害児（者）地域生活支援協議会に4回参加した。また、協議会主催の障害児（者）への関わり方に関する研修会へ2回参加し、訪問看護士・デモンストラクターやデイケア・デイサービスを行っている施設等と交流を図り、知識を深めた。 ○ 障害児（者）連携会議等に参加し、広島市や家族の方々との連携強化に努めた。また、舟入市民病院が行っている病院併設型レスパイト事業は、全国的にも珍しく、県内外からの見学の受入れを行った。 ○ 院内において、レスパイトケアの習得のため、他部署からの研修を行った。 					
<p>カ 人間ドックの充実（小項目）</p> <p>市民の健康保持・増進等の観点から人間ドックの充実を図るとともに、特定健康診査・特定保健指導の実施体制を構築します。また、人間ドック機能評価の受審に向けて取組を進めます。</p>	<p>カ 人間ドックの充実（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健康診査・特定保健指導の実施 ・人間ドックの健診者数の拡大 	<p>【特定保健指導の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成31年4月から特定保健指導を実施した。（市町村共済組合他、4団体） <p>【人間ドックの健診者数の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 健診専門施設の新規開院など、人間ドックを取り巻く環境は極めて厳しい。健診受診者の新規開拓のため、舟入公民館まつりへの参加及び健康サロンの開催（舟入公民館、観音公民館及び南観音公民館）を行い、認知度の向上を図った。 ○ 健康管理センターニュース『健康シブ』を2回（熱中症、インフルエンザ）発刊した。 ○ 前記の取組「病院併設型健康管理センターにおける健康作り活動の実際」について、日本人間ドック学会で発表した。 ○ 乳がん週間及び人間ドック週間に、新聞へ広告を掲載した。 ○ 小児科ファミリーの取り込みのため、病院内の女子トイレにポスター貼布した。小児科病棟へ入院中の小児の母親からの問合せや受診が10名程度見られた。母親の受診の際には、保育士が入院中の小児の見守りを行い、安心して受診できるように配慮した。 ○ 健診受診者の便草を図り、口コミによる受診を獲得するため、健診異常結果をCD化して結果通知を行った。 ○ 健診受診者にアンケート調査を行い、健診センターの改善に努めた。 ○ オプション検査を追加した（血圧脈波、ヒトパピローマウイルス検査）。 	<p>2</p>				

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																	
		・人間ドック機能評価の受審		評価理由等		評価理由・コメント等																	
<p>【目標値】</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>平成28年度実績</td> <td>令和3年度目標値</td> </tr> <tr> <td>人間ドック健診者数(人)</td> <td>2,131</td> <td>5,000</td> </tr> </table> <p>※平成28年度実績は被爆者健康診断を除いた人数</p>	区分	平成28年度実績	令和3年度目標値	人間ドック健診者数(人)	2,131	5,000	<p>【目標値】</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>令和元年度目標値</td> </tr> <tr> <td>人間ドック健診者数(人)</td> <td>3,500</td> </tr> </table>	区分	令和元年度目標値	人間ドック健診者数(人)	3,500	<p>【実績】</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>平成29年度実績</td> <td>平成30年度実績</td> <td>令和元年度実績</td> </tr> <tr> <td>人間ドック健診者数(人)</td> <td>2,625</td> <td>2,814</td> <td>2,901</td> </tr> </table> <p>※各年度の実績は被爆者健康診断を含めた人数</p>	区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	人間ドック健診者数(人)	2,625	2,814	2,901	<p>【人間ドック機能評価の受審】</p> <p>○ 公立病院として人間ドック業務を行うことの意義を改めて整理し、舟入市民病院において人間ドック業務を提供することの必要性について検討した結果、令和2年度末をもって人間ドックを終了することとなったことから、機能評価の受審は取りやめた。</p>	記号	記号
区分	平成28年度実績	令和3年度目標値																					
人間ドック健診者数(人)	2,131	5,000																					
区分	令和元年度目標値																						
人間ドック健診者数(人)	3,500																						
区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績																				
人間ドック健診者数(人)	2,625	2,814	2,901																				

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

1 市立病院として担うべき医療

(4) リハビリテーション病院・自立訓練施設

<p>中期目標</p>	<p>ア リハビリテーション医療 リハビリテーション病院は、脳血管障害や脊髄損傷などによる中途障害者に対して、高度で専門的な回復期リハビリテーション医療を継続的かつ安定的に提供すること。また、急性期病院と連携し、急性期の疾病治療・リハビリテーションと一体的かつ連続的な回復期のリハビリテーションを実施すること。</p> <p>イ 自立訓練 自立訓練施設は、リハビリテーション病院等の医療機関と連携を図りながら、利用者の家庭や職場、地域での生活再構築のための訓練等を行うこと。</p> <p>ウ 相談機能、地域リハビリテーション リハビリテーション病院・自立訓練施設は、関係機関と連携して、利用者からの相談を適切に受けられる体制を強化するとともに、退院・退所後の生活を支援すること。また、地域リハビリテーション活動を支援するなど、本市の身体障害者更生相談所等と連携して、リハビリテーションサービスを総合的かつ一貫して提供すること。</p> <p>エ 災害医療 リハビリテーション病院は、病院の立地条件を生かし、デルタ地帯が被災した場合に備え、他の市立病院のバックアップ機能を強化すること。</p>
-------------	---

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号	記号
<p>(4) リハビリテーション病院・自立訓練施設</p>	<p>(4) リハビリテーション病院・自立訓練施設</p>				
<p>ア 総合的なリハビリテーションサービスの提供 (小項目) 広島市身体障害者更生相談所、リハビリテーション病院及び自立訓練施設の運営責任者で構成する常設の運営調整会議を設置し、連携の維持を図り、これまでどおり3施設が連携した総合的なリハビリテーションサービスを安定的かつ継続的に提供します。</p>	<p>ア 総合的なリハビリテーションサービスの提供 (小項目) ・中途障害者の社会復帰、社会参加の促進及び生活の再構築のための一貫したリハビリテーションサービスの提供 ・3施設の運営責任者で構成する調整会議の運営</p>	<p>【総合的なリハビリテーションサービスの提供】 ○ 脳血管障害や脊髄損傷などによる中途障害者の社会復帰や社会参加を促進するため、高度で専門的な医療と自立のための訓練や相談など、生活の再構築のための一貫したリハビリテーションサービスを提供した。</p> <p>【常設の運営調整会議の設置、運営】 ○ 3施設の運営責任者で構成する連絡会議の実施や、リハビリテーション病院及び自立訓練施設の各部署の運営責任者等で構成する病院・施設運営会議に広島市身体障害者更生相談所の運営責任者が参加することにより、3施設の連携強化を図った。</p> <p>○ リハビリテーション病院の医師が、広島市身体障害者更生相談所長を兼ね、判定業務などを担当するとともに、自立訓練施設の医師を兼ね、リハビリテーション計画の担当医、相談医を担っている。</p>		3	

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価																		
イ 回復期リハビリテーション医療の充実（小項目）	イ 回復期リハビリテーション医療の充実（小項目）	記号	記号																		
<p>・広島市民病院、安佐市民病院などの急性期病院との連携強化を図り、急性期の疾病治療・リハビリテーションを経過した患者を受け入れ、日常生活機能の向上や社会復帰を目的とした専門的で集中的な回復期のリハビリテーションを連続的・一体的に提供します。</p> <p>・退院後の患者を中心に継続的なリハビリテーション医療を提供するため、地域医療機関とも連携して、外来リハビリテーションや訪問リハビリテーション・訪問看護など在宅療養への支援の充実を図ります。</p>	<p>令和元年度 目標値</p> <table border="1" data-bbox="558 1456 798 1724"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者1人当たり リハビリテ ーション実 施単位数 (単位/日)</td> <td>8.2</td> </tr> <tr> <td>在宅復帰率 (%)</td> <td>81.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>※在宅復帰率は、全入院患者を対象として算出</p>	区分	令和元年度 目標値	患者1人当たり リハビリテ ーション実 施単位数 (単位/日)	8.2	在宅復帰率 (%)	81.9	3													
区分	令和元年度 目標値																				
患者1人当たり リハビリテ ーション実 施単位数 (単位/日)	8.2																				
在宅復帰率 (%)	81.9																				
<p>【目標値】</p> <table border="1" data-bbox="558 1456 798 1724"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者1人当たり リハビリテ ーション実 施単位数 (単位/日)</td> <td>8.2</td> </tr> <tr> <td>在宅復帰率 (%)</td> <td>81.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>※在宅復帰率は、全入院患者を対象として算出</p> <p>・急性期病院である広島市民病院及び安佐市民病院との連携強化</p>	区分	令和元年度 目標値	患者1人当たり リハビリテ ーション実 施単位数 (単位/日)	8.2	在宅復帰率 (%)	81.9	<p>【365日リハビリテーション医療の充実】</p> <p>○ 平日、土日祝日にかかわらず365日切れ目ないリハビリテーション医療を提供するため、平成29年度から土日祝日における療法士の平日並み配置を実施し、効果的な回復期リハビリテーション医療の提供に努めた。患者1人当たりのリハビリテーション実施単位数は平成30年度に続き8.5単位と、目標の8.2単位を上回り、在宅復帰率は85.4%と、平成30年度実績をわずかに下回ったものの、目標値の81.9%を大きく上回った。</p>	<p>【実績】</p> <table border="1" data-bbox="558 873 798 1142"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>平成30年度 実績</th> <th>令和元年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者1人当たり リハビリテ ーション実 施単位数 (単位/日)</td> <td>8.4</td> <td>8.5</td> <td>8.5</td> </tr> <tr> <td>在宅復帰率 (%)</td> <td>82.0</td> <td>85.8</td> <td>85.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>【広島市民病院及び安佐市民病院との連携強化】</p> <p>○ 広島市民病院と安佐市民病院から急性期医療を終えた患者を受け入れ、高度で専門的な回復期リハビリテーション医療を提供した。令和元年度は、広島市民病院から164人、安佐市民病院から88人と、平成30年度を上回る入院患者を受け入れた（全入院患者に占める割合も50.4%と、平成30年度の47.1%を上回った）。</p> <p>○ 令和元年11月に開催された病院機構の地域連携実務者会議に参加し、相互の情報交換や連携強化を図った。また、スムーズな転院受入れのため、令和元年11月から、広島市民病院及び安佐市民病院に向けて空床及び待機状況等の情報提供を開始した。</p>	区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	患者1人当たり リハビリテ ーション実 施単位数 (単位/日)	8.4	8.5	8.5	在宅復帰率 (%)	82.0	85.8	85.4	<p>【退院支援と地域連携診療の推進】</p> <p>○ 患者が退院後に地域で療養や生活を継続できるように、患者一人一人に担当の退院支援職員を充てて入院早期から退院支援を行った。</p> <p>また、地域の医療機関等との連携を進めて転院・退院調整の円滑化を図った。</p>
区分	令和元年度 目標値																				
患者1人当たり リハビリテ ーション実 施単位数 (単位/日)	8.2																				
在宅復帰率 (%)	81.9																				
区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績																		
患者1人当たり リハビリテ ーション実 施単位数 (単位/日)	8.4	8.5	8.5																		
在宅復帰率 (%)	82.0	85.8	85.4																		
<p>【目標値】</p> <table border="1" data-bbox="989 1747 1228 2083"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>令和3年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者1人当たり リハビリテ ーション実 施単位数 (単位/日)</td> <td>7.9</td> <td>8.4</td> </tr> <tr> <td>在宅復帰率 (%)</td> <td>81.8</td> <td>82.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※在宅復帰率は、全入院患者を対象として算出</p>	区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値	患者1人当たり リハビリテ ーション実 施単位数 (単位/日)	7.9	8.4	在宅復帰率 (%)	81.8	82.0												
区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値																			
患者1人当たり リハビリテ ーション実 施単位数 (単位/日)	7.9	8.4																			
在宅復帰率 (%)	81.8	82.0																			

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等 記号																												
	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症を合併した患者のケアの推進 ・外来リハビリテーション (言語療法・理学療法・作業療法)・専門外来の実施 	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の医療機関と連携した地域連携診療計画（地域連携クリニカルパス）の運用の拡大に努めた（令和元年度適用件数 185 件）。 <p>【認知症を合併した患者のケアの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身体疾患のために入院した認知症患者に対するケアの質の向上を図るため、入院前の生活状況等を踏まえた看護計画を作成するとともに、多職種による認知症ケアの専門チーム体制を整えてカンファレンス及び病棟ラウンドを週 1 回実施し、令和元年 12 月には認知症ケア加算 1 の施設基準を届け出るなど、認知症を考慮したケアの充実・強化を図った。 <p>【外来リハビリテーション・専門外来の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 退院した患者に継続して外来でのリハビリテーションを提供するため、従来の言語療法に加え、平成 28 年度から理学療法及び作業療法を開始し、平成 29 年度から自立訓練施設の利用者を対象に加えるなど、外来リハビリテーションの充実を図ってきた。さらに、平成 30 年度診療報酬改定により回復期リハビリテーション病棟退院後 8 か月以内の外来リハビリテーションが可能となり、対象者が拡大したことから、理学療法及び作業療法の実施体制の充実を図った。 <p>(外来リハビリテーションの実績)</p> <table border="1" data-bbox="895 719 1169 1352"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>言語療法</td> <td>延人数 2,074 人</td> <td>2,327 人</td> <td>2,409 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実施単位数 6,220 単位</td> <td>6,956 単位</td> <td>7,209 単位</td> </tr> <tr> <td>理学療法</td> <td>延人数 623 人</td> <td>1,338 人</td> <td>1,891 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実施単位数 1,916 単位</td> <td>4,049 単位</td> <td>5,656 単位</td> </tr> <tr> <td>作業療法</td> <td>延人数 857 人</td> <td>1,427 人</td> <td>1,885 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実施単位数 2,550 単位</td> <td>4,271 単位</td> <td>5,646 単位</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高次脳機能障害を有する外来リハビリテーション利用者に対する専門外来を実施し、糖尿病足病変等で歩行に支障をきたしている患者にフットケア外来を実施した。また、令和元年度は、脳神経内科医による神経難病患者に対するリハビリの専門外来を開始したほか、VF検査による摂食嚥下評価を 4 人に実施した。 	区分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	言語療法	延人数 2,074 人	2,327 人	2,409 人		実施単位数 6,220 単位	6,956 単位	7,209 単位	理学療法	延人数 623 人	1,338 人	1,891 人		実施単位数 1,916 単位	4,049 単位	5,656 単位	作業療法	延人数 857 人	1,427 人	1,885 人		実施単位数 2,550 単位	4,271 単位	5,646 単位	
区分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度																												
言語療法	延人数 2,074 人	2,327 人	2,409 人																												
	実施単位数 6,220 単位	6,956 単位	7,209 単位																												
理学療法	延人数 623 人	1,338 人	1,891 人																												
	実施単位数 1,916 単位	4,049 単位	5,656 単位																												
作業療法	延人数 857 人	1,427 人	1,885 人																												
	実施単位数 2,550 単位	4,271 単位	5,646 単位																												

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号	記号																																								
<p>・訪問リハビリテーション・訪問看護の実施</p>	<p>・訪問リハビリテーション・訪問看護の実施</p>	<p>(専門外来の実績(延人数))</p> <table border="1" data-bbox="223 728 414 1366"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高次脳機能障害外来</td> <td>755人</td> <td>829人</td> <td>983人</td> </tr> <tr> <td>フットケア外来</td> <td>65人</td> <td>85人</td> <td>79人</td> </tr> <tr> <td>神経難病リハ外来</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>37人</td> </tr> <tr> <td>摂食嚥下評価</td> <td>—</td> <td>3人</td> <td>4人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【訪問リハビリテーション・訪問看護の実施】</p> <p>○ 退院した患者の在宅療養へのスムーズな移行及び継続的な在宅療養の維持を支援するため、平成27年度から医療保険による訪問リハビリテーション及び訪問看護を試行的に開始し、平成28年度からは介護保険適用者にも対象を拡大して実施してきた。令和元年度は、訪問リハビリテーションを49人に、訪問看護を45人に実施した。</p> <p>(訪問リハビリテーションの実績)</p> <table border="1" data-bbox="734 896 845 1366"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延人数</td> <td>59人</td> <td>61人</td> <td>49人</td> </tr> <tr> <td>実施単位数</td> <td>177単位</td> <td>183単位</td> <td>143単位</td> </tr> </tbody> </table> <p>(訪問看護の実績)</p> <table border="1" data-bbox="917 896 997 1366"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延人数</td> <td>33人</td> <td>40人</td> <td>45人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	高次脳機能障害外来	755人	829人	983人	フットケア外来	65人	85人	79人	神経難病リハ外来	—	—	37人	摂食嚥下評価	—	3人	4人	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	延人数	59人	61人	49人	実施単位数	177単位	183単位	143単位	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	延人数	33人	40人	45人			
区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																										
高次脳機能障害外来	755人	829人	983人																																										
フットケア外来	65人	85人	79人																																										
神経難病リハ外来	—	—	37人																																										
摂食嚥下評価	—	3人	4人																																										
区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																										
延人数	59人	61人	49人																																										
実施単位数	177単位	183単位	143単位																																										
区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																										
延人数	33人	40人	45人																																										
<p>・地域リハビリテーション活動支援事業等の推進</p>	<p>・地域リハビリテーション活動支援事業等の推進</p>	<p>【地域リハビリテーション活動支援事業等の推進】</p> <p>○ 広島市が実施する介護予防拠点など住民運営の「通いの場」の立上げ・運営の支援や、要支援者等に対する介護予防ケアマネジメントなどに、リハビリテーション専門職（以下「リハ職」という。）を派遣するため、安佐南区におけるリハ職の派遣調整を行う業務を令和元年度も広島市から受託し実施した。</p> <p>また、令和元年度から、広島二次保健医療圏における「通いの場」設置の推進を目的として関係機関のネットワークを構築する事業を広島県から受託し実施した。</p>																																											

中期計画		令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価										
			評価理由等		評価理由・コメント等	記号									
		<ul style="list-style-type: none"> 通所リハビリテーションの実施に向けた検討 	※（ ）内は平成30年度 (リハ職派遣調整業務の実績) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度 派遣調整人数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護予防拠点整備における支援</td> <td>149人(221人)</td> <td>うちリハビリテーション病院からの派遣人数 40人(46人)</td> </tr> <tr> <td>介護予防ケアマネジメントの支援</td> <td>13人(12人)</td> <td>うちリハビリテーション病院からの派遣人数 2人(3人)</td> </tr> </tbody> </table>		区分	令和元年度 派遣調整人数	備考	介護予防拠点整備における支援	149人(221人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 40人(46人)	介護予防ケアマネジメントの支援	13人(12人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 2人(3人)		
区分	令和元年度 派遣調整人数	備考													
介護予防拠点整備における支援	149人(221人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 40人(46人)													
介護予防ケアマネジメントの支援	13人(12人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 2人(3人)													
	<ul style="list-style-type: none"> 自立訓練施設の利用促進 (小項目) リハビリテーション病院との連携を強化し、連続性のある訓練の実施と訓練内容の充実を図ります。 医療・福祉関係機関、福祉サービス事業者等との連携を強化し、地域からの施設利用の拡大を図ります。 施設の機能、提供する支援の充実のため、新たな障害福祉サービスの実施について検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> 通所リハビリテーションの開始 通所リハビリテーションの実施に向け、院内ワーキンググループ等における検討を行い、令和元年10月から、退院後も集団コミュニケーション療法及び個別言語聴覚療法が必要な対象者に対し、介護保険による短時間通所リハビリテーションの実施を開始し、84人を実施した。 	4												
	<ul style="list-style-type: none"> 自立訓練施設の利用促進 (小項目) リハビリテーション病院との連携を強化し、連続性のある訓練の実施と訓練内容の充実を図ります。 医療・福祉関係機関、福祉サービス事業者等との連携を強化し、地域からの施設利用の拡大を図ります。 施設の機能、提供する支援の充実のため、新たな障害福祉サービスの実施について検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用者の拡大(医療・福祉関係機関、福祉サービス事業者等との連携) 	【連続性のある訓練の実施及び訓練内容の充実】 <ul style="list-style-type: none"> リハビリテーション病院の医師が、自立訓練施設の医師を兼ね、リハビリテーション計画の担当医として、連続性のある訓練を実施するとともに、医学的リハビリテーションを取り入れるなど、訓練内容の充実を図った。 高次脳機能障害等のあるリハビリテーション病院を退院した利用者について、同病院の言語外来リハビリテーションと連携した訓練を実施した。また、医学的リハビリテーションを必要とする自立訓練施設利用者に、リハビリテーション病院の外来リハビリテーション(理学療法、作業療法)を提供した。 令和元年度の施設利用者94人のうち、外来リハビリテーションを提供した施設利用者の数は47人で、提供回数は延べ2,719回となり、平成30年度を上回った(平成30年度は外来リハビリテーションを提供した施設利用者数47人、提供回数延べ1,980回)。 令和元年度の施設利用者のうち、リハビリテーション病院退院患者は37人で、全施設利用者に占める割合は39.4%であった。(平成30年度は33人で、全施設利用者に占める割合は42.3%) 												

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等														
		記号	記号														
<p>中期計画</p> <p>工 相談機能の充実と地域リハビリテーションの推進(小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の状況に応じた退院・退所後の生活支援ができるよう、地域の医療・保健・福祉関係機関と連携した相談機能の充実を図ります。 広島市身体障害者更生相談所と連携して、地域リハビリテーションの推進を図ります。 	<p>令和元年度 年度計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活訓練の充実 新たな障害福祉サービスの実施の検討 	<p>46人)となり、平成26年度の法人化以降の最高となった。</p> <p>(施設利用者数の実績)</p> <table border="1" data-bbox="279 638 391 1377"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月平均利用者数(契約者数)</td> <td>38人</td> <td>44人</td> <td>41人</td> <td>41人</td> <td>46人</td> <td>57人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【生活訓練の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高次脳機能障害者を対象に平成30年6月から新たに開始した自立訓練(生活訓練)のニーズをふまえ、令和元年7月から定員を6人から12人に拡充した。 新たな障害福祉サービスの実施の検討 令和元年度は、就労定着支援サービスの実施に向けて、利用者数や新たに必要となる人員や設備、備品の見込などについて検討を行った。 当該サービスは、昼間に自宅や企業等を訪問するため、今後、日勤帯の業務に支障が出ないよう、職員体制を見極めながら、実施時期などを含め、引き続き検討することとしている。 	区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	月平均利用者数(契約者数)	38人	44人	41人	41人	46人	57人	
区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度											
月平均利用者数(契約者数)	38人	44人	41人	41人	46人	57人											
<p>工 相談機能の充実と地域リハビリテーションの推進(小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の状況に応じた退院・退所後の生活支援ができるよう、地域の医療・保健・福祉関係機関と連携した相談機能の充実を図ります。 広島市身体障害者更生相談所と連携して、地域リハビリテーションの推進を図ります。 	<p>工 相談機能の充実と地域リハビリテーションの推進(小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の状況に応じた生活支援ができるよう医療支援室及び身体障害者特定支援事業所による相談の実施 広島市身体障害者更生相談所と連携した地域リハビリテーションの推進 	<p>3</p> <p>【相談機能の充実と地域リハビリテーションの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療支援室において入院患者一人一人に担当する医療ソーシャルワーカーを充てて、入院から退院後までの生活上の心配事等について相談に応じた。 リハビリテーション病院内に平成27年9月に設置した身体障害者特定相談支援事業所の相談支援専門員により、障害福祉サービスを利用するための「サービス等利用計画案」作成など、地域の医療・保健・福祉機関と連携した相談支援を行った。 リハビリテーションをテーマとした市民公開講座や市政出前講座を実施するとともに、医療機関等におけるリハビリテーションの技術支援を目的とした研修会を開催した。また、身体障害者更生相談所と連携して、院内において車椅子や歩行器などの福祉用具の展示を行った。 															

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
				評価理由等		評価理由・コメント等	
記号		記号		記号		記号	
<p>オ 災害時の市立病院間のバックアップ機能の強化(小項目)</p> <p>西風新都に立地し、高速道路インターチェンジに近接するとうりハリハビリテーション病院の地理的条件を生かし、デルタ地帯が被災した場合に備え、他の市立病院の診療情報の保管や医薬品等の備蓄などバックアップ機能の強化を図るとともに、DMATの受入拠点、広域搬送拠点としての活用について検討します。</p>	<p>オ 災害時の市立病院間のバックアップ機能の強化(小項目)</p> <p>・DMATの受入拠点及び広域搬送拠点としての活用についての検討</p>	<p>【DMATの受入拠点等についての検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ DMATの受入拠点及び広域搬送拠点として施設内の提供可能なスペース等の想定などの活用の具体的な内容について、引き続き検討を行った。 ○ 新型コロナウイルス感染症対策における、他の市立病院の支援として、リハビリテーション病院で備蓄していた個人防護着キット等を舟入市民病院に提供した。また、新型コロナウイルス感染症拡大による物流途絶の場合に備え、広島市民病院・舟入市民病院で使用する診療材料の保管場所についての検討を行った。 	<p>3</p>				

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
		評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採用職員の合同研修会の開催 ・看護師を対象とした市立病院間の交流研修の実施 	<p>地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価</p> <p>評価理由等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安佐市民病院では、ロボット支援手術を行うために必要な術者・助手等の研修を行い、胃がん、直腸がんの手術の保険適用を開始した（令和2年3月末時点、胃がん30件、直腸がん18件）。今後、食道がん、肺がん、婦人科がんに対して手術可能となるように研修会への参加、指導医を招へいしてのロボット支援手術の実施範囲の拡大に取り組む。 ○ 舟入市民病院では、「重症度、医療・看護必要度」の知識と理解を深めるため、医師、看護師等関係職員を対象とした研修を2回行った。また、看護管理能力向上のため、マネジメントラダー（職位別管理研修）を平成30年度に引き続き行った。 ○ リハビリテーション病院では、概ね月1回〜2回様々な研修を行っており、ストレスコントロールと医療安全、救急対応、災害時の対応、高次脳機能障害などについての研修を行った。 <p>【合同研修会の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新規採用者全員に対して、職場への円滑な適応を図るため、職員倫理・人権問題・メンタルヘルスなど、社会人として必要な心構えについて研修を行った。 <p>【市立病院間の交流研修の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院の看護師の知識の習得や技術の向上を図るため、4病院間の交流研修計画を策定した。 			

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号																			
	イ 資格取得の促進(小項目) ・医療機能の向上に必要な資格取得の支援	<p>【医療機能の向上に必要な資格取得の支援】</p> <p>○ 専門教育を受けるために必要な費用等を法人が負担し認定看護師等の資格取得を促進した。</p> <p>(資格取得の状況)</p> <table border="1" data-bbox="427 875 906 1379"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>職種</th> <th>令和元年度資格取得状況等 /認定看護師等総数(年度末)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">広島</td> <td rowspan="2">看護師</td> <td>・心不全看護認定看護師 ・特定行為研修修了者 (令和元年度末) 認定看護師 30人</td> </tr> <tr> <td>・特定行為研修修了者 (令和元年度末) 認定看護師 2人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">安佐</td> <td rowspan="2">看護師</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>8人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">舟入</td> <td rowspan="2">看護師</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>1人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">リハビリ</td> <td rowspan="2">療法士</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>4人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	職種	令和元年度資格取得状況等 /認定看護師等総数(年度末)	広島	看護師	・心不全看護認定看護師 ・特定行為研修修了者 (令和元年度末) 認定看護師 30人	・特定行為研修修了者 (令和元年度末) 認定看護師 2人	安佐	看護師	17人	8人	舟入	看護師	4人	1人	リハビリ	療法士	4人	4人	3	<p>【がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会】</p> <p>○ 広島市民病院及び安佐市民病院では、地域がん診療連携拠点病院として、実施が定められている緩和ケア研修会を実施した。</p> <p>(広島市民病院) 研修日：令和元年10月27日、修了医師数及び他職種：26人 (安佐市民病院) 研修日：令和元年10月26日、修了医師数及び他職種：11人</p>
区分	職種	令和元年度資格取得状況等 /認定看護師等総数(年度末)																					
広島	看護師	・心不全看護認定看護師 ・特定行為研修修了者 (令和元年度末) 認定看護師 30人																					
		・特定行為研修修了者 (令和元年度末) 認定看護師 2人																					
安佐	看護師	17人																					
		8人																					
舟入	看護師	4人																					
		1人																					
リハビリ	療法士	4人																					
		4人																					

中期計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	令和元年度 年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等 記号
ウ 診療体制の充実(小項目) ・帝王切開用一般手術室の確保している (広島市民病院)	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔診療の実施 (安佐市民病院) 	<p>【帝王切開用一般手術室の確保】</p> <p>○ 広島市民病院では、総合周産期母子医療センター(東8B病棟)で帝王切開可能な手術室を整備し、令和元年11月から運用を開始し、令和2年3月末までに37件の手術を実施した。</p> <p>また、運用開始と同時に日勤帯である8時から16時までの時間帯における当該手術室での超緊急帝王切開術に対応可能な体制を整備した。</p> <p>帝王切開用に確保していた手術室を一般手術室化したことで、年間実施手術件数を平成30年度の10,076件から令和元年度の10,301件に伸ばすこと(年間225件の増)ができた。</p> <p>【遠隔診療の実施】</p> <p>○ 安佐市民病院では、令和元年度に糖尿病透析予防指導管理料の算定対象となる患者に対してオンライン診療(透析予防診療チームがリアルタイムでの画像を介したコミュニケーションが可能な情報通信機器を活用して、「糖尿病治療ガイド」等に基づき、患者の食事指導や運動指導などを必要に応じて実施する)が出来るシステムを導入し、患者1人に対して試行実施を行った。</p>	3	
エ 医療機器の整備・更新(小項目) ・一般撮影(放射線)システム更新(広島市民病院) ・自動ジェット式超音波洗浄システム更新(広島市民病院) ・Cアームナビゲーションシステム更新(安佐市民病院)		<p>【医療機器の整備、更新】</p> <p>○ 広島市民病院では、一般撮影(放射線)システム及び自動ジェット式超音波洗浄システムの更新を行い、それぞれ令和元年10月、同年11月から運用を開始した。</p> <p>○ 安佐市民病院では、手術室にある3台のCアームナビゲーションシステム(移動式術中X線透視診断システム)のうち1台を令和元年6月に更新(フラットパネルディテクタ型)した。</p> <p>フラットパネルディテクタ型の機種は、高画質であると同時に術中CTを撮影することが可能であり、ナビゲーションシステムと連携することで様々な脊椎関節手術を安全かつ正確に行うことが可能となった。</p> <p>昨年導入から令和元年度末までに脊椎90件、膝90件、その他股関節、骨盤骨折合計10件に使用しており、全体の手術件数は令和元年度1,433件(平成30年度1,293件)であった。中でも脊椎手術は、平成30年度833件から令和元年度935件へと100件以上増加した。</p>	3	

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(2) チーム医療の推進

中期目標

各医療スタッフが診療科や職種を越えて連携し、良好なコミュニケーションの下でそれぞれの専門性を生かした高度で質の高いチーム医療を推進すること。

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等
<p>(2) チーム医療の推進(小項目)</p> <p>個々の患者の病状や、緩和ケア、褥(じょく)瘡(そう)対策、呼吸ケア、栄養サポート等の課題に対応するため、医療スタッフが診療科や職種を越えて連携し、専門的、総合的な医療を提供するチーム医療を推進します。</p>	<p>(2) チーム医療の推進(小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多職種による緩和ケア、褥瘡対策、呼吸ケア、栄養サポート等のチーム活動の実施 認知症患者の増加に対応するための体制の強化(広島市民病院) 	<p>【多職種による緩和ケア、褥瘡対策、呼吸ケア等のチーム活動の実施】 【認知症患者の増加に対応するための体制の検討(広島市民病院)】 (広島市民病院)</p> <p>○ 専門職としてのスキルアップを図り、安全・安心で専門的、総合的なチーム医療体制を構築するため、院内に部会、委員会を設立し活動を推進している。また、医療の質改善委員会がチーム医療の推進の成果を把握し、全職員対象に年1回、成果の発表を行っている。なお、患者の状況によっては、患者の生活の質(QOL)の向上のため、これらのチームが複数を連携して医療、看護を提供している。各活動の概要は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアチーム 麻酔科医師、外科医師、精神科医師、薬剤師、緩和ケア認定看護師、医療相談員(MSW)で構成。チームは病みの緩和だけでなく、病気が招く心と身体づらさに積極的に関わり生活の質の向上につなげた。 栄養サポートチーム(NST)、褥瘡対策部会 皮膚科医師、外科医師、脳神経外科医師、形成外科医師、内科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士(PT)、栄養士、言語聴覚士(ST)で構成。全ての疾患を対象に栄養不良の入院患者を洗い出し、栄養不良となる原因に応じてチームでサポートした。こうしたチームの活動が創傷や褥瘡の治癒を促進する効果や術後の感染症併発を減少させる効果も上げた。 摂食・嚥下・口腔ケア部会(SEKチーム) 耳鼻科医師、歯科口腔外科医師、理学療法士、摂食・嚥下障害看護認定看護師で構成。嚥下機能の正確な評価と経口摂取の方法、周術期口腔ケアの管理により患者の生活の質の向上につなげた。また、院内認定制度をつくり、スキル向上を図った。 転倒・転落予防対策チーム <p>医師、リスクマネジャー(RM)、看護師、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士(ME)、施設担当者、理学療法士、作業療法士(OT)で構成。多</p>	<p>記号</p> <p>3</p>

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号	記号
		<p>くのメディカルスタッフが関わることにより、多様な角度から予防対策を講じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸リハビリチーム (RST) ・麻酔科医師、呼吸器科医師、集中治療認定看護師、救急看護認定看護師、理学療法士、臨床工学士、薬剤師で構成。院内のICUで研修させるなど、従事する医療スタッフのスキルアップを図った。 ・通院治療センターのチーム医療 ・癌腫やレジメン (治療計画)、有害事象が複雑化する中、高度な知識と技術が求められる医師、看護師、薬剤師で構成。患者の病状やニーズに応じた適切な対応を行った。 ・リエゾン・認知症ケア部会 ・精神科医師、看護師、薬剤師、心理療法士で構成。せん妄・認知症のある入院患者のケアに当たった。また、従事する医療スタッフのスキルアップを図った。 ・在宅療養支援部会 ・看護師、医療相談員、薬剤師、心理療法士で構成。在宅で療養される患者の実態に応じた支援を行った。 ・周産期トータルサポートチーム ・医師、看護師、医療相談員、薬剤師、心理療法士で構成。妊産婦のメンタルサポートを行った。 ・子ども虐待防止委員会 ・医師、看護師、医療相談員、心理療法士で構成。小児期 (18歳未満) の虐待防止のための支援を行った。 ・排尿ケアチーム ・医師、看護師、理学療法士、作業療法士で構成。腹腔内術後の患者、前立腺関連の術後患者、脳神経系の後遺症による排尿障害をきたした患者等、留置カテーテル抜去後の排尿障害をきたした患者へ、より効果的で円滑な自力排泄の確保を目指した介入を行った。また、令和元年度「排尿自立指導料診療報酬対象研修」を行い、医療スタッフのスキルアップを図った。 <p>○ チーム医療の推進成果発表会 多職種で活動するチーム及び看護の質の向上への取組についての活動成果発表会を実施した。(令和2年2月14日、参加人数135人)</p>			

チーム名	チーム
AST	「抗菌薬適正使用支援チームの活動」

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価
		評価理由等 緩和ケアチーム 「緩和ケアチーム」 排尿ケア部会 「排尿ケアチーム活動」 リエゾン・認知症ケア部会 「リエゾン・認知症ケア部会活動報告」 カデ室 「物品スツキリ！連携バッチリ！」 SEK部会 「SEK院内認定職員のステッピングアップを目指して」 入院支援室 「入院案内用紙 標準化の取組」 形成外科外来 「All for one (みんなは1人のために)～家族参画型感染対策～」 東7A病棟 「東7A病棟の変身～PNSでプリーフィングとデプリーフィングやってみたら」	記号 評価理由・コメント等 記号
		(安佐市民病院) ○ チーム医療の推進は、患者に対し専門的、総合的な医療を提供するために不可欠なものであると同時に職員の職種間のコミュニケーションの活性化や職員の満足度向上にも寄与している。このため、全職員を対象に年1回、チーム活動の紹介や成果発表などを行い、活性化を図った。 各チームは、基本的に月1回、定例会議を開催し、ラウンドを実施した。 各活動の概要は以下のとおり。 ・院内感染対策チーム インフエクションコントロールドクター(ICD ※)の資格を有する医師、感染管理認定看護師、感染制御認定薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師、感染制御認定臨床微生物検査技師、臨床工学技士、歯科衛生士、保健師で構成。サーベイランスを行い、医療関連感染の状況を把握し、感染対策が確実に行えるようにICTラウンドを実施した。また、全職員を対象とした院内研修(年2回)の企画、運営を行い、感染対策の指導・教育を行った。さらに、感染管理地域ネットワーク研修会を実施し、地域の医療施設や介護施設などと感染対策の向上に努めた。 ※ ICD：医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師など、多くの職種の役割を理解した感染制御の専門家 ・災害対策チーム 麻酔集中治療科医師、救急看護認定看護師、DMA T登録看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、総務課職員で構成。災害対策の検討や各部署・全体でのシミュレーション研修等の訓練回数を増やし、	

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号	記号
		<p>増加する自然災害に対応できるよう取り組んだ。また、令和元年9月には安佐医師会、消防と院内で救急救護合同訓練を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全対策チーム <p>リスクマネジャーの外科医師・看護部長を中心に小児科医師、外科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、理学療法士で構成。IA報告(※)の分析・検討などを通して、システム改善に取り組んだ。特に、モニターラウンド(MACT)、転倒転落ラウンドを行い、医療事故防止に努めた。また、院内研修の企画・運営を行い、寸劇なども取り入れて、全職員が参加するようにビデオ(医療安全小劇場)研修も併用して、職員の意識向上に努めた。</p> <p>※ IA報告：IAとはインシデント・アクシデントを指しており、それらが発生した場合IA報告を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急総合診療トリアージチーム <p>総合診療内科医師、後期研修医、救急看護認定看護師、看護師、診療放射線技師、医療ソーシャルワーカー、医事課職員で構成。トリアージナースの育成を図り、トリアージの検証を行ってスキルアップを図ると共に、救急場面の課題や救急患者の社会的問題への対応などの検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護部褥瘡対策チーム <p>皮膚排泄ケア認定看護師と各部署の看護師で構成。皮膚科医師、皮膚排泄ケア認定看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士などで構成される褥瘡対策委員会の下部組織として、各部署のラウンドを実施。患者ラウンドを強化し、直接的な指導・教育を図った。高齢患者も増え、スキンケア予防にも力を入れ、これに関するIA報告もなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂食・嚥下チーム <p>脳外科医師、歯科医師、摂食嚥下障害看護認定看護師、薬剤師、言語聴覚士、栄養士、歯科衛生士で構成。NST委員会の下部組織として、週1回のラウンドを行い、患者の口腔ケア、口から食べることへの支援を図り、栄養状態の改善、経口摂取が可能となる患者支援や誤嚥性肺炎発生ゼロなどを実践した。また、摂食機能療法の件数も平成30年度の4,416件から5,106件に増加し、機能回復に積極的に介入した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアチーム <p>精神科医師、麻酔集中治療科医師、放射線科医師、外科医師、内科医師、泌尿器科医師、歯科医師、緩和ケア認定看護師、看護師、薬剤師、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカー、心理療法士で構成。緩和ケアラウンドを定期的に</p>			

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号
		<p>実施し、身体的・心理的・スピリチュアルな苦痛の緩和や症状マネジメントなどの指導・支援を図り、患者のQOL向上を目指した活動をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸サポートチーム <p>呼吸器内科医師、麻酔集中治療科医師、循環器内科医師、外科医師、集中ケア認定看護師、呼吸療法士の有資格者や呼吸器を使用する部署の看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、歯科衛生士、臨床工学技士で構成。週1回のラウンドを行い、呼吸器装着期間の短縮、人工呼吸器関連肺炎の減少などを図っている。ラウンドによって、一般病棟においても呼吸器装着患者の治療継続ができるようになってきた。また、平成29年度から「気管切開患者ラウンド」を開始し、各部署の看護ケアOJTを実施することで、気管切開患者関連IAが減少した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心不全サポートチーム <p>循環器内科医師、慢性心不全看護認定看護師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、栄養士、医療ソーシャルワーカー、臨床工学技士、医療クラークで構成。増加する心不全患者の再入院防止、QOLの向上を図るため、入院・外来患者・家族を対象とした心不全教室を月1回開催し、延べ250人程度の参加があった。院内患者会WAP友の会の集いにも参加し、小旅行の引率もした。また、心不全患者の在宅支援事業研修会、いきいきキャラバン研修会を開催した。更に、カンファレンス等を通して減薬への取組を積極的に開始した。慢性疾患患者の緩和ケアについても検討・普及を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病チーム <p>代謝内分泌内科医師、糖尿病認定看護師、糖尿病療養士の資格を有する看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、栄養士及び歯科衛生士で構成。糖尿病患者・家族への治療・療養支援を行い、重症化予防に努めている。令和元年度から糖尿病教室を年間を通じて毎週月曜日から金曜日に開催し、参加人数は延べ600人であった。職員への研修は、年2回実施し、医職従事者の質の向上を図った。また、インスリン指示の統一化を図り、糖尿病関連IA報告件数が平成30年度を下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者総合支援チーム <p>総合診療内科医師、精神科医師、神経内科医師、循環器内科医師、外科医師、認知症看護認定看護師、看護師、薬剤師、作業療法士、栄養士、医療ソーシャルワーカーで構成。高齢者のせん妄対策や退院支援、尊厳死に関わる問題の検討などに取り組んでいる。介入依頼件数が増加し、ケア算定件数も増加</p>		

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等 記号
		<p>している。各病棟にリンクナース（※）を配置し、教育・指導を図った。</p> <p>※ リンクナース：専門チームや委員会と病棟看護師とをつなぐ役割を担う看護師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ASA肝臓チーム 内科医師、肝臓コーディネーターの資格を有する看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、医療クラークで構成。慢性肝疾患患者・家族の支援、針刺し事故後の職員サポートを目的として活動した。年2回の職員研修を実施するとともに、2か月に1回肝臓病教室を開催し、参加者数も増加した。入院患者のB型・C型肝炎ウイルスキャリア者の受診奨励を図った。 ・排尿ケアチーム 泌尿器科医師、泌尿器科病棟看護師長、排尿ケア講習会修了看護師、薬剤師、理学療法士で構成。尿路感染防止と排尿ケアの自立を支援し、患者の活動性の向上、QOLの向上を図ることを目的に活動し、排尿自立の改善人数は178人で、依頼件数の83%であった。 ・特定集中治療室早期離床リハビリチーム ICU専従医師、理学療法士、看護師で構成。早期離床プロトコルを作成し、平成30年4月から運用を開始した。対象患者のカンファレンスを行い、254人のリハビリ介入を実施している。2～3か月に1回、介入状況と成果を検討した。 ・抗菌薬適正使用支援チーム(AST) インフェクションコントロールクターの資格を有する医師、感染管理認定看護師、抗菌剤化学療法認定薬剤師、感染制御認定臨床微生物検査技師で構成。抗菌剤使用の評価かつ適正使用の推進を図るため、感染症治療のモニタリング及び評価を行い主治医にフィードバックするとともに、微生物検査、臨床検査が適正に利用できるよう体制を整備した。 ・周術期管理チーム 麻酔科医師、外科医師、看護師、薬剤師、作業療法士、栄養士、歯科衛生士で構成。患者の高齢化や重症化が進む中、周術期医療の安全・質の向上を目的に安心して手術を受けられることができるよう、平成30年度から多職種で入院前から周術期のリスク評価・支援を実施している。平成30年度の外科（肺疾患、大腸、胃/食道）に続き、令和元年5月から外科（肝胆脾）、同年6月から外科（乳腺）、さらに同年10月からは整形外科の周術期管理を開始した。 	

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号	記号	記号
中期計画	令和元年度 年度計画	<p>(舟入市民病院)</p> <p>○ 専門職としてのスキルアップを図り、安全・安心で専門的、総合的なチーム医療体制を構築するため、院内に部会、委員会を設立し活動を推進した。各活動の概要は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養サポートチーム (NST)、褥瘡対策チーム 内科医師、外科医師、看護師、薬剤師、栄養士、薬剤師、理学療法士で構成。定期的にカンファレンス及び患者訪問により患者個々に合った褥瘡予防、摂食指導等を行った。看護師はNST専門療法士の研修を受講し、チームに参加した。 ・緩和ケアチーム 内科医師、外科医師、看護師、薬剤師、栄養士、薬剤師、理学療法士で構成。週1回の症例検討や看取り後に行うカンファレンスを行った。患者の「最後まで自分らしく生きたい」その願いをサポートすることをコンセプトとしている。地域の病院からの緩和ケア患者を積極的に受け入れて連携を図った。 ・摂食・嚥下チーム 内科医師、歯科医師、摂食・嚥下障害看護認定看護師、理学療法士、栄養士、歯科衛生士で構成。嚥下機能の正確な評価と口から食べることへの支援を行い、患者の生活の質の向上につなげた。具体的には、患者の口腔ケア、摂食時のポジショニング、食事形態の工夫などを行い、口腔内の機能を改善し、誤嚥性肺炎の予防、栄養状態の改善を目指した。 ・院内感染対策チーム 定期的な部署ラウンド、地域での相互ラウンドなどを実施した。院内での感染対策上の問題をICT会議などで議論し、感染対策委員会へ提案、改善などを行った。また、令和2年1月21日、院内感染対策委員会において新型コロナウイルス感染症に対する対応と院内感染対策について報告した。1月30日に新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを作成し運用開始した。舟入市民病院の職員は、第2種感染症指定医療機関に勤務する職員であることを自覚して行動することや標準予防策を遵守して体調管理を行うことを各部署へ依頼した。 ・医療安全対策チーム IA報告の事例検討やワーキング活動により対策立案や指針、マニュアルの改訂、システムの改善等を行った。院内研修の企画・運営も行い、職員の医療安全文化の醸成に努めた。 ・褥瘡対策チーム 				

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等 記号
		<p>皮膚排泄ケア認定看護師、医師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、各部署のリンクナースで患者ラウンドを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止チーム <p>虐待を含む不適切な療養環境にある子どもや高齢者、障害児者、その家族に対し支援の方法を検討、実施した。虐待に関する院内研修の企画・運営も行う、職員の意識の向上に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児救急トリアージチーム <p>トリアージカンファレンスを定期的に開催し、トリアージの検証（アンケートトリアージ、オーバートリアージ）や稀少症例の検討などを行った。トリアージナースの育成の他、小児救急看護分野の院内認定看護師の育成も行う、小児救急患者のアセスメント能力のスキルアップを図った。</p> <p>(リハビリテーション病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ チーム医療としてNST・栄養管理、摂食・嚥下、褥瘡対策などの活動を行っており、院内で活動状況の発表を行った。令和元年度は新たに認知症ケアチームが活動を始めた。各活動の概要は以下のとおり。 ・栄養サポートチーム (NST) <p>医師、歯科医師、看護師、薬剤師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士で構成。定期的なミーティング後のカンファレンスにて、摂取状況等の把握も行い、リハビリテーションをより効果的に進めるための栄養管理を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂食・嚥下チーム <p>医師、歯科医師、看護師、言語聴覚士、栄養士等で構成。摂食嚥下評価や摂食嚥下訓練・スタッフ指導等を定期的に行い、「口から食べる機能回復」に貢献した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡対策チーム <p>医師、皮膚排泄ケア認定看護師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、栄養士で構成。定期的なラウンドにて、マット調整・起居動作・栄養状態の確認等を実施し、持ち込み褥瘡の改善や器具による新たな褥瘡の予防を実践指導した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染対策チーム <p>医師、看護師、セラピスト、薬剤師、臨床検査技師、歯科衛生士、保健師等で構成。毎月のICTラウンドや部署内研修、感染対策マニュアルの改訂などを実施した。</p>	

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号	記号
		<p>・<u>リスクマネジメントチーム</u></p> <p>医師、医療安全管理者、看護師、セラピスト、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、事務、管理栄養士、歯科衛生士、心理療法士等で構成。毎月のラウンドや部署内研修を行い、医療事故防止に努めた。また、リスクマネジメントマニュアルの改訂などを実施した。また、リハビリテーション病院内で発生しやすいリスクについて、以下の小チームを設置し、専門的に調査・検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>転倒転落対策チーム</u> 転倒転落の事例を毎週集計し、必要時、原因・発生機序などを分析し、職員への注意喚起や情報発信等を行う。ベッドサイド環境のラウンドも実施した。 ・<u>薬剤対策チーム</u> 薬剤関連（内服・注射・点滴）に関するIAを集計し、原因・発生機序を分析しマニュアル改訂や再発防止に向けた職員へのフィードバックをした。注射・点滴関連の衛生材料の検討も実施した。 ・<u>その他の事例対策チーム</u> 離院・離棟、暴言暴力、給食関連、院内連携関連のIAを集計し職員に情報発信した。 ・<u>離床促進チーム</u> 看護師、セラピストで構成し、リハビリ時間以外に身体能力強化訓練を実施した。毎日行う立ち上がり訓練や非便体操、教育サロンは、延べ12,577人（平成30年度11,468人）が参加した。また、患者毎の個別の訓練を延べ2,703人に実施した。 ・<u>患者サービス向上チーム</u> 看護師、セラピストが企画し、筋力強化訓練、全職員が協力して患者参加のコンサートやリフレッシュ（嚔下・排便）体操、教育サロン、座談会などを実施している。開催頻度は月1回程度のものから毎日のものまであり、参加者は年間延べ8,573人（平成30年度9,352人）であった。 ・<u>認知症ケアチーム</u> 医師、認知症看護認定看護師、社会福祉士、セラピスト及び薬剤師等で構成。令和元年12月から、身体疾患のために入院した認知症患者に対する病棟での対応力とケアの質の向上を図るための活動を行った。（対象人数45人、延べ1,735件） 			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
2 医療の質の向上
(3) 医療の安全確保の強化

中期目標	医療事故や院内感染、ヒヤリ・ハットなどに関する情報収集・分析の実施、予防及び再発防止への取組などにより、市民に信頼される安全な医療を提供すること。また、医療安全に係る体制やマニュアルを継続的に見直すことなどにより、医療安全対策の強化を図ること。
------	--

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号	記号
<p>(3) 医療の安全確保の強化(小項目)</p> <p>市民に信頼される安全な医療を提供するため、医療安全管理委員会等が中心となり、医療安全に関する情報の収集・分析、医療事故等の発生防止や対応マニュアルの作成、院内研修の実施を行うことなどにより、医療安全対策を徹底します。</p>	<p>(3) 医療の安全確保の強化(小項目)</p> <p>・医療安全対策の徹底 関連情報の収集・分析、対応マニュアルの点検、作成、院内研修等の実施 複数の医療機関と連携した医療安全対策に関する評価の実施</p>	<p>【医療安全対策の徹底】</p> <p>○ 広島市民病院では、医療安全管理室に専従の医療安全管理者2人を配置し、医療安全管理を行った。県立広島病院、リハビリテーション病院と連携し、医療安全対策に関する相互評価を実施した。また、地域の医療安全対策の強化を図る目的で広島県医療安全セミナーを開催し、県内外から多数の医療機関の参加があった。</p> <p>○ 安佐市民病院では、TQMセンター(医療安全対策担当)に、専従の医療安全管理者1人を配置し、医療安全管理を行った。また、庄原赤十字病院、JAG 吉田総合病院、野村病院及びメリィハウス西風新都病院の4医療機関と連携して、医療安全対策に関する相互評価を実施した。</p> <p>○ 舟入市民病院では、専従の医療安全管理者1人を配置し、医療安全管理を行った。また、中穂病院や安芸市民病院、共立病院と連携し、医療安全対策に関する相互評価を行った。</p> <p>○ リハビリテーション病院では、医療支援室に専任の医療安全管理者1人を配置し、医療安全管理を行った。</p> <p>○ 各病院とも、事例検討会やワーキンググループ活動で、事例の改善策の検討や医療安全関連のマニュアル等の見直し・整備を行った。</p> <p>○ 各病院とも各部署に、リスクマネージャーを配置し、IA報告を取りまとめ、各職種で構成される委員会に毎月報告するとともに、毎月部長会などで報告し院内への周知・情報の共有化を図った。</p>		4	
	<p>・院内感染の防止 感染症に関する情報収集、</p>				

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価
		<p>評価理由等</p> <p>置し、月に1回の感染対策委員会開催のほか、感染制御チームと抗菌剤適正使用支援チームを設置し、院内の感染予防と管理に取り組んだ。また、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する目的として、令和2年3月9日より慢性疾患等を有する定期受診患者に対して電話による診療で院外処方箋を発行する取組を開始した。(令和2年3月院外処方箋発行件数：74件)</p> <p>○ 安佐市民病院では、TQMセンターに専従の感染管理認定看護師1人を配置し、院内感染対策チームとサーベイランス、巡回活動、研修などを行うとともに、抗菌薬適正使用支援チーム(AST)において、抗菌剤使用の評価かつ適正使用の推進を図るため、感染症治療のモニタリング等を行い、院内感染の予防に取り組んだ。</p> <p>また、感染管理地域ネットワーク研修会を実施し、地域の医療施設や介護施設などとも感染対策の向上に取り組んだ。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大防止に関しては、令和2年3月から、PCR検査の受付を平日のみ実施するとともに、入院患者への感染予防のため親族等を含め不要不急の面会を禁止した。</p> <p>○ 舟入市民病院では、新型コロナウイルス感染防止としてマニュアルの整備を行い、対応できるよう体制整備を行った。また、前記の感染症に関する研修会や感染防止のためのガウンテクニックの習得に向けたトレーニング等を実施した。さらに、面会制限、外来トリージ(面会者・患者の体温測定)、職員体温測定と体温管理表への記載、体調不良者の把握と舟入市民病院発熱外来への受診等健康管理の強化、一部の委員会及び研修会の中止、院内外の研修参加の自粛を行った。</p> <p>○ リハビリテーション病棟では、新型コロナウイルス感染症に対して、感染対策委員会が新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを作成するとともに、新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、院内感染予防を最優先とした発生段階ごとの対策の周知徹底や、面会制限の実施などの対策を実施した。</p> <p>さらに、広島県内での感染者発生後は、面会制限の対象者を拡大し、面会者、外来リハビリの患者、自立訓練施設利用者等の入館者に体温測定を行った。また、業者入りの制限、入院患者の外出・外泊の禁止、職員の出勤前の体温測定の実施など対策を強化した。</p>	<p>記号</p> <p>評価理由・コメント等</p> <p>記号</p>
<p>院内の調査・監視、職員への指導・啓発等の実施 抗菌薬適正使用支援チームによる指導の実施(広島市民病院・安佐市民病院)</p>			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

2 医療の質の向上

(4) 医療に関する調査・研究の実施

中期目標

職員の自主的な研究活動を支援するとともに、治験を積極的に推進するなど、質の高い医療の提供と医療水準の向上を図るための調査・研究に取り組むこと。

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号
<p>(4) 医療に関する調査・研究の実施 (小項目)</p> <p>職員の自主的な研究活動を支援するとともに、研究成果の情報発信に努めます。また、治験等の臨床研究の推進に積極的に取り組みます。</p>	<p>(4) 医療に関する調査・研究の実施 (小項目)</p> <p>・職員の自主的な研究活動の支援と研究成果の発信</p> <p>・患者の意見を尊重した治験等臨床研究の推進</p>	<p>【職員の自主的な研究活動の支援と研究成果の発信】</p> <p>○ 職員の自主的な研究の成果を発表する場として、院内機関誌（広島市民病院「医誌」、安佐市民病院「業縁集」）の発行や学会での発表に配慮した勤務シフトの見直しなどを行った。舟入市民病院では、院内において自主的な研究活動の発表会を実施した。リハビリテーション病院では、学会発表や論文発表などを取りまとめた年報を作成し、院内において自主的な研究活動の発表会を実施した。また、広島市民病院では職員向けにインターネットによる文献検索サイトや国内外の医療雑誌を収録した電子ジャーナル及び研修医向け臨床医学情報サイトと契約した。</p> <p>○ 広島市民病院では、他大学等から提案の研究内容に賛同し積極的に共同研究事業に参画しており、厚生労働省科学研究所委託費による静岡がんセンター（1件）、愛知県がんセンター（1件）、国立がん研究センター（2件）との共同研究事業（計4件）を行った。</p> <p>○ 安佐市民病院では、他医療機関等から提案の研究内容に賛同し積極的に共同研究事業に参画しており、厚生労働省科学研究所委託費による静岡がんセンター（2件）、国立がん研究センター（1件）、埼玉医科大学（1件）及び京都府立医科大学（1件）とのがん治療に関する共同研究事業（計5件）を行った。</p> <p>【患者の意見を尊重した治験等臨床研究の推進】</p> <p>○ 広島市民病院では、治験参加の同意を得る際には、副作用や参加のメリット・デメリットをより詳しく説明し、患者の理解を十分に得た上で実施している。</p> <p>○ 安佐市民病院では、臨床研究について倫理的、科学的妥当性を倫理委員会で審議している。治験を実施する際には、患者に対して文書による説明を行った上で同意を得ている。</p> <p>○ 舟入市民病院では、臨床研究について倫理的、科学的妥当性を倫理委員会</p>		3

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
		評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>で審議している。</p> <p>○ リハビリテーション病院では、臨床研究について倫理的、科学的妥当性を倫理委員会で審議している。診療情報等を研究目的に利用するに当たっては、入院時に患者に対し文書で説明し、同意を得ている。</p>			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(5) 災害医療体制の充実

中期目標	広島市地域防災計画等に基づき、日頃から防災関係機関や他の災害拠点病院との連携を図るとともに、災害時には、病院機能を維持し、迅速に災害医療の提供を行うことができる体制を整備すること。
------	--

中期計画	令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	5) 災害医療体制の充実 (小項目)	5) 災害医療体制の充実 (小項目)	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>5) 災害医療体制の充実 (小項目)</p> <p>目)</p> <p>災害その他の緊急時には、広島市地域防災計画等に基づき、広島市長からの求めに応じて適切に対応することともに、自らの判断で医療救護活動を行います。また、広島市の防災関係機関等と連携を図り、市立病院として求められる医療の提供を行います。</p>	<p>5) 災害医療体制の充実 (小項目)</p> <p>目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害その他の緊急時における、医療救護活動の実施 ・災害時公衆衛生チームによる災害時リハビリテーションの実施 (リハビリテーション病院) 	<p>3</p> <p>【災害その他の緊急時における、医療救護活動の実施】 【災害時公衆衛生チームによる災害時リハビリテーションの実施 (リハビリテーション病院)】 (広島市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和元年度は、災害支援ナース 28 人の登録があり、8 人の看護師に広島県看護協会主催の講習を受講させた。 ○ 広島市民病院では、令和元年度の医療救護活動の実績はなかったが、広島県主催によるDPAT (災害派遣精神医療チーム) の研修に医師、看護師及びBMSWが参加した。 <p>(安佐市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和元年度は、災害支援ナース 7 人の登録があり、4 人の看護師に広島県看護協会主催の講習を受講させた。 ○ 安佐市民病院では、令和元年度の医療救護活動の実績はなかったが、令和元年 9 月 7 日に安佐医師会、消防との救急救護合同訓練を実施するなど日頃から防災関係機関や地域の医療機関との連携を図っている。 <p>(舟入市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和元年度は、災害支援ナース 10 人の登録があり、3 人の看護師に広島県看護協会主催の講習を受講させた。 ○ 舟入市民病院では、令和元年度の医療救護活動の実績はなかったが、研修会を開催するなど、防災に関する意識付けを行った。 <p>(リハビリテーション病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害その他の緊急時には、広島県地域リハビリテーション広域支援センターとして、広島県災害時公衆衛生チーム (リハビリチーム) に理学療法士等を派遣し、避難所での災害時リハビリテーションを行う体制を整備している。 				

中期計画	令和5年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
		評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>○ 新型コロナウイルス感染症対策における市立病院間の支援として、リハビリテーション病院で備蓄していた個人防護具キット等を舟入市民病院に提供した。</p>			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 患者の視点に立った医療の提供
(1) 病院情報・医療情報の発信

中期目標	ア 診療内容や治療実績などの患者等が病院を選択する上で必要な情報、病院の現状や地域の医療機関との役割分担に係る市民の理解を促進する情報及び健康づくりや疾病に関する情報を積極的に提供すること。 イ 病院の運営内容や経営状況についての情報及び医療に関する研究成果などの情報を、市民に分かりやすく発信すること。
------	---

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	記号	市長による評価 評価理由・コメント等	記号
3 患者の視点に立った医療の提供 (大項目)	3 患者の視点に立った医療の提供 (大項目)				
(1) 病院情報・医療情報の発信 (小項目) ・ホームページや広報紙等を利用した病院の特色や治療実績等の積極的な情報発信に取り組むとともに、病院の現状や地域の医療機関との役割分担に係る市民の理解を促すための情報及び健康づくりや疾病に関する情報を市民に分かりやすい形で発信します。 ・病院の運営、財務に関する計画や実績、医療に関する研究成果等を市民に分かりやすい形で公表します。また、地方独立行政法人化の目的や効果について、広報します。	(1) 病院情報・医療情報の発信 (小項目) ・市立病院機構及び各病院のホームページの充実	【ホームページの充実】 ○ 広島市民病院では、広報等の新規情報の掲載を迅速に行うとともに、適宜掲載情報を更新するように努めた。 ○ 安佐市民病院では、スマートフォン対応サイトの充実を図った。また、ホームページ掲載用動画の作成も行った。 ○ 舟入市民病院では、他病院と連携を図り、ホームページに年末年始救急診療の待ち時間表示を行った。 ○ リハビリテーション病院では、広報等の新規情報の掲載を迅速に行うとともに、適宜掲載情報を更新するように努めた。 【病院の現状や地域の医療機関との役割分担に係る市民の理解を促すための情報の発信】 ○ 各病院の扱った症例と施術内容、研究業績等の医療情報は、学会や、各病院のホームページ、病院の発行する広報誌及び情報誌で情報提供した。 ○ 広島市民病院のホームページにおいて、同病院の役割である救急医療コントロール機能（受入困難患者を一旦受け入れて初期診療を行った上で、必要に応じて支援医療機関へ転院させるもの）や地域医療連携についての情報を提供した。 ○ 広島市民病院では、国立研究開発法人科学技術振興機構が作成しているインターネット上の文献データベースに「医誌」を登録し、掲載している論文の概要を公開した。 ○ 安佐市民病院では、ホームページ掲載の「院内がん登録集計表（広島県共通様式）」を更新した他、過去10年のがん診療における患者傾向をまとめ掲	3		

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号	記号
	<p>・病院の運営、財務に関する計画や実績等の公表</p>	<p>地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等</p> <p>載した。また、地元医師会の学会にて安佐市民病院の高齢がん診療の現状、特に高齢化と機能分化について発表を行い、地域の医療職へ情報発信を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安佐市民病院では、広報誌やホームページにおいて、地域医療連携についての救急医療体制の紹介及び窓口の明記を行った。また、病院正面玄関入口に登録医の医療機関の地図、紹介チラシを配置した「地域医療連携マップ」を掲示し、受診相談やかかりつけ医紹介に活用した。 ○ 小児患者の利用が多い舟入市民病院のホームページでは、夜間や休日などの診療時間外に病院を受診するかどうかの判断の目安を掲載するとともに、子どもの急なけが・事故・病気への対応が行えるよう、広島小児救急医療相談電話（こども救急電話相談）の案内や休日夜間の診療のための「小児救急の待ち時間情報」を提供した。 ○ 舟入市民病院では、地域の公民館と協働し、地域住民を対象に健康づくり活動を行った。主な活動として、健康情報誌「健康シッパ」の定期刊行、公民館まつりへの参加、健康サロン（健康講座と健康手ェックの組み合わせ）を行った。 <p>また、地域のクリニックや訪問看護ステーション、介護施設、薬局などから医療職を対象に、多職種合同地域連携研修会を年3回開催した。その際、舟入市民病院の認定看護師が中心となって企画・運営し、講師も務め、顔の見える連携の構築を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リハビリテーション病棟のホームページでは、病院早わかりスライドショーにより診療内容や施設の概要について紹介しており、令和元年度は、新たに看護・介護業務の広報のためのバナーを作成した。また、広報誌により診療実績のほか診療科などの紹介や各種行事を掲載するなど情報提供に努めた。 <p>【病院の運営、財務に関する計画や実績等の公表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市立病院機構のホームページに、法人の基本理念や基本方針、中期計画、年度計画などを公表するとともに、財務諸表や事業報告書、業務実績に係る評価結果等を掲載した。 			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのべき措置

3 患者の視点に立った医療の提供

(2) 法令・行動規範の遵守

中期目標
 医療法を始めとする関係法令を遵守することはもとより、市立病院としての行動規範と倫理に基づき、適正な病院運営を行うこと。また、個人情報保護及び情報公開に関しては、本市条例等に基づき適切に対処するとともに、情報セキュリティ対策の強化に取り組むこと。

中期計画		令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	記号	市長による評価 評価理由・コメント等	記号
<p>(2) 法令・行動規範の遵守 (小項目) 医療法を始めとする関係法令及び行動規範の遵守についての研修を行い、職員の意識を向上させ、適正な病院運営に取り組めます。また、広島市立病院機構情報セキュリティポリシーに基づき、個人情報情報を適正に取り扱います。</p>	<p>(2) 法令・行動規範の遵守 (小項目) ・倫理・服務に関する研修の実施などによる服務規律の徹底。 ・広島市立病院機構情報セキュリティポリシーに基づく、個人情報の適正な取扱い</p>	<p>【服務規律の徹底】 ○ 新規採用職員を対象に平成31年4月に実施した研修において、服務規律に関する法人の規程を説明するとともに、過去の処分事例の紹介等を行い、服務規律の徹底を図った。 ○ 各病院において職員倫理研修を行い、服務規律の徹底を図った。 ○ 金品受領禁止や飲酒運転防止等、服務規律の遵守について、文書により職員へ周知徹底し、綱紀粛正を図った。 【個人情報の適正な取扱い】 ○ 広島市立病院機構情報セキュリティポリシーに基づき、令和元年度は各病院において外部講師による情報セキュリティ研修会を開催し、個人情報の適正な取扱いについて、職員へ周知徹底を図った。</p>	3			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

3 患者の視点に立った医療の提供

(3) 安心で最適な医療の提供

ア 患者の権利を尊重し、患者中心の医療であることを十分に認識するとともに、患者やその家族が抱える様々な不安や問題などの相談に積極的に対応することで、安心して医療を受けられる環境を提供すること。

イ インブォームド・コンセント（患者自身が医療内容を理解・納得し、自分に合った治療法を選択できるよう、患者に十分な説明を行った上で同意を得ること。）を徹底することで、信頼と満足の得られる医療を提供すること。

ウ セカンドオピニオン（診断や治療方針について主治医以外の医師から意見を聴くこと。）の充実により、患者に合った診療の選択を支援すること。

エ クリニカルパス（疾病別に退院までの治療内容を標準化した計画書）の活用拡大などにより、入院から退院まで安全・適正かつ効率的な医療を提供すること。

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	
(3) 安心で最適な医療の提供		(3) 安心で最適な医療の提供		記号	市長による評価 評価理由・コメント等
ア 相談機能の強化(小項目) 安心して医療を受けられる環境を提供するため、医療支援センター等の相談支援体制を強化し、入院後の療養や介護支援など、患者やその家族が抱える様々な不安や問題などの相談に積極的に対応します。	ア 相談機能の強化(小項目) ・安心して医療を受けられる環境を提供するため、入院支援業務の充実(広島市民病院)	ア 相談機能の強化(小項目) ・安心して医療を受けられる環境を提供するため、入院支援業務の充実(広島市民病院)	ア 相談機能の強化(小項目) ・安心して医療を受けられる環境を提供するため、入院支援業務の充実(広島市民病院)	3	【入退院支援業務の充実】 ○ スタッフの増員などの体制強化により、地域の医療機関からのスムーズな患者の受入れ、退院後の地域の医療機関への紹介に取り組むとともに、より積極的に患者の退院後の生活支援に取り組んだ。 ○ 広島市民病院では、入院支援室を通じて、地域の歯科医との連携（周術期患者の紹介）の強化を継続し、口腔機能の管理による合併症予防に努めた。また、薬剤師外来を併設し、かかりつけ薬局との連携に努めた。 ○ 広島市民病院では、入院支援 2,715 件、退院時共同指導 117 件を実施した（平成 30 年度は退院支援 2,474 件、退院時共同指導 112 件）。 【自殺未遂者支援窓口と医療機関等との連携】 ○ 広島市民病院では、広島市が進める自殺未遂者の自殺再企図防止支援事業への協力を継続するとともに、弁護士会「自死ハイレスク者のための支援事業」にも協力し自殺再企図防止に努めた。 ○ 安佐市民病院では、広島市からの委託を受け、平成 30 年 4 月から自殺未遂者支援コーディネーターを配置して支援体制を構築し、引き続き、「自傷患者への早期介入を行う」ことを目標として支援を行うとともに、月 1 回、市の担当部署（精神保健福祉センター）や他の病院（広島市民病院、広大病院等）のコーディネーターとともに会議を行い、支援内容の実施報告や課題等について協議を実施した。

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市民による評価																
インフォームド・コンセントの徹底 (小項目)		インフォームド・コンセントの徹底 (小項目)		評価理由等		記号																
<p>インフォームド・コンセントの徹底 (小項目)</p> <p>インフォームド・コンセント (患者自身が医療内容を理解・納得し、自分に合った治療法を選択できるよう、患者に十分な説明を行った上で同意を得ること。) を徹底し、患者の権利を尊重し、信頼と満足を得られる医療を提供します。</p>	<p>インフォームド・コンセントの徹底 (小項目)</p> <p>患者の権利を尊重し、信頼と満足を得られる医療を提供できるよう、インフォームド・コンセントの徹底</p>	<p>【インフォームド・コンセントの徹底】</p> <p>○ 各病院において、治療方法の決定に当たっては、インフォームド・コンセントを徹底し、患者の権利を尊重し、信頼と満足を得られる医療を提供した。</p>	<p>3</p>	<p>ウ セカンドオピニオンの実施 (小項目)</p> <p>セカンドオピニオン (診断や治療方針について主治医以外の医師から意見を聴くこと。) を実施するとともに、市立病院の患者が、他の医療機関でのセカンドオピニオンを希望する場合には、適切に支援します。</p>	<p>ウ セカンドオピニオンの実施 (小項目)</p> <p>セカンドオピニオンの実施及び他の医療機関を希望する患者の適切な支援</p>	<p>【セカンドオピニオンの実施】</p> <p>○ 各病院において、セカンドオピニオンを自由に依頼することができる旨を院内に掲示するとともに、ホームページにも掲載し、患者への周知を図った。</p> <p>(セカンドオピニオン件数 (令和元年度) ※ () 内は平成30年度)</p> <table border="1" data-bbox="877 728 1061 1344"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>病院が受けた件数</th> <th>他院を紹介した件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>110件 (115件)</td> <td>98件 (61件)</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>2件 (3件)</td> <td>29件 (23件)</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>—</td> <td>2件 (1件)</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	区分	病院が受けた件数	他院を紹介した件数	広島市民病院	110件 (115件)	98件 (61件)	安佐市民病院	2件 (3件)	29件 (23件)	舟入市民病院	—	2件 (1件)	リハビリテーション病院	—	—	<p>3</p>
区分	病院が受けた件数	他院を紹介した件数																				
広島市民病院	110件 (115件)	98件 (61件)																				
安佐市民病院	2件 (3件)	29件 (23件)																				
舟入市民病院	—	2件 (1件)																				
リハビリテーション病院	—	—																				

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																																																				
エ クリニカルバスの活用拡 大(小項目)		エ クリニカルバスの活用拡 大(小項目)		評価理由等		評価理由・コメント等																																																				
<p>クリニカルバス(疾病別に退院までの治療内容を標準化した計画書)の活用を拡大するとともに、既存のクリニカルバスを適時見直し、良質な医療を安全、適正かつ効率的に提供します。</p>		<p>クリニカルバスの活用を拡大及び既存のクリニカルバスの見直し</p>		<p>【実績】クリニカルバス適用率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>令和元年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>49.9</td> <td>55.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>51.0</td> <td>55.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>38.9</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>62.5</td> <td>64.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※適用率は、新入院患者のうちクリニカルバスを適用した患者の割合</p>		区分	平成28年度 実績	令和元年度 目標値	広島市民病院	49.9	55.0	安佐市民病院	51.0	55.0	舟入市民病院	38.9	50.0	リハビリテーション病院	62.5	64.0	<p>【目標値】クリニカルバス適用率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>53.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>53.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>43.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>63.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※適用率は、新入院患者のうちクリニカルバスを適用した患者の割合</p>		区分	令和元年度 目標値	広島市民病院	53.0	安佐市民病院	53.0	舟入市民病院	43.0	リハビリテーション病院	63.0	<p>【実績】クリニカルバス適用率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>平成30年度 実績</th> <th>令和元年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>51.9</td> <td>51.1</td> <td>51.1</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>50.0</td> <td>52.2</td> <td>53.5</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>54.2</td> <td>48.0</td> <td>47.8</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>59.9</td> <td>62.0</td> <td>62.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>※適用率は、新入院患者のうちクリニカルバスを適用した患者の割合</p>		区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	広島市民病院	51.9	51.1	51.1	安佐市民病院	50.0	52.2	53.5	舟入市民病院	54.2	48.0	47.8	リハビリテーション病院	59.9	62.0	62.9	<p>【クリニカルバスの活用拡大及び既存のクリニカルバスの見直し】</p> <p>○ 各病院とも、院内のクリニカルバス委員会において、クリニカルバスの活用拡大に努めた。広島市民病院では、病棟看護師長勉強会を開催しDPCについての理解を促進すると共に適用率向上のための協議を行った結果、10件の新規バス作成、既存のバス27件の見直しにつながった。安佐市民病院では、新規に7件のバスを作成したほか、16件のバスの見直しを行った。また、バスをバリエーション分析手法により再検討し、バスの最適化を行った。</p>		<p>3</p>	
区分	平成28年度 実績	令和元年度 目標値																																																								
広島市民病院	49.9	55.0																																																								
安佐市民病院	51.0	55.0																																																								
舟入市民病院	38.9	50.0																																																								
リハビリテーション病院	62.5	64.0																																																								
区分	令和元年度 目標値																																																									
広島市民病院	53.0																																																									
安佐市民病院	53.0																																																									
舟入市民病院	43.0																																																									
リハビリテーション病院	63.0																																																									
区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績																																																							
広島市民病院	51.9	51.1	51.1																																																							
安佐市民病院	50.0	52.2	53.5																																																							
舟入市民病院	54.2	48.0	47.8																																																							
リハビリテーション病院	59.9	62.0	62.9																																																							

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

3 患者の視点に立った医療の提供

(4) 患者サービスの向上

<p>中期目標</p>	<p>常に患者やその家族の立場を考え、温かく心のこもった対応ができるよう、職員の接遇の一層の向上を図ること。また、患者等のニーズを的確に捉え、療養環境の改善や待ち時間の短縮などに取り組みむとともに、患者満足度の高いよりきめ細やかなサービスの提供に努めること。</p>
-------------	---

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等
<p>(4) 患者サービスの向上 (小項目)</p> <p>目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接遇研修等を実施し、常に患者やその家族の立場を考え、温かく心のこもった対応ができるよう、職員の接遇の一層の向上を図ります。また、定期的なアンケート調査などにより、患者やその家族のニーズを把握し、よりきめ細やかなサービスの提供に努めます。 ・外来の診療・検査・会計の待ち時間の短縮に向けた改善方策の検討を行い、可能な取組から実施するとともに、病院給食について、個々の入院患者の病状や体質に配慮しながらも、おいしい給食となるよう、改善に取り組みます。 	<p>(4) 患者サービスの向上 (小項目)</p> <p>目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接遇研修等の実施 	<p>【接遇研修等の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、接遇・身だしなみ自己チェックの実施、接遇研修会の開催、全部署への冊子「さわやかマナー」の配付を行い、接遇対応能力の向上に取り組んだ。また、年2回、病院幹部、医療の質改善委員会、研修医及び職員有志による正面・西側玄関での挨拶運動を実施した。 ○ 安佐市民病院では、令和元年度の年間目標を「挨拶で絆深まるチームの輪」と定め、挨拶基本チェックの実施、接遇研修会の開催、挨拶強化期間を設けて、病院幹部職員と患者サービス向上委員会による正面玄関での挨拶運動の実施など、接遇の向上に取り組んだ。 ○ 舟入市民病院では、病院全職員に対し、「接遇の基本、立ち居振る舞い、言葉遣い」と題して、接遇研修を実施した。また、看護科の患者サービス委員会が中心となって、接遇に関する標語を毎月紹介し、接遇の向上に取り組んだ。 ○ リハビリテーション病棟では、接遇研修を職員が全員参加できるような複数回開催した。また、センターの目標として挨拶・声掛けを掲げ（各執務室に目標を掲示）、接遇向上に取り組んだ。 <p>【アンケート調査結果を踏まえた対応の検討、実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、令和元年10月に入院患者と外来患者を対象とした患者アンケートを実施し、アンケート実施結果をとりまとめ、医療の質改善委員会で報告を行い、幹事会、部長会及び看護師長会を通じて院内に周知を図った。 ○ 安佐市民病院では、令和元年7月と11月に患者満足度アンケート調査を実施し、調査結果を踏まえて、外来待ち時間の実態調査を行い、待ち時間短縮の取組を行った。 ○ 舟入市民病院では、令和2年3月に患者満足度アンケート調査を実施し、患者サービス委員会において調査結果を踏まえた対応を検討している。 ○ リハビリテーション病棟では、患者満足度アンケート調査を年2回実施し、調査結果をホームページで公表した。また、院内のサービス向上委員会が調査 	<p>3</p>

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等
	<p>・外来の診察・検査・会計の待ち時間の短縮に向けた改善方策の検討、実施</p> <p>・病院給食についてのアンケート調査の実施及び委託業者と連携した改善方策の検討、実施</p>	<p>結果を踏まえた対応を検討した。</p> <p>【外来の診察・検査・会計の待ち時間の短縮に向けた改善方策の検討、実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、中央処置室での採血の待ち時間の短縮を図るため、令和2年3月に採血ブース等の拡張工事（3ブース増設）を行った。 ○ 安佐市民病院では、外来待ち時間の実態調査を令和元年12月に実施した。外来待ち時間短縮の取組のうち、採血待ち時間の短縮とパイロット診療科の診察待ち時間の短縮をターゲットとした。採血待ち時間は15分以内に短縮し、質も担保できた。 ○ 舟入市民病院では、待ち時間の長い年末年始救急診療期間について、期間中の配置職員の見直し、検体搬送要員の配置により、時間短縮に取り組んだ。 <p>【病院給食についてのアンケート調査の実施及び委託業者と連携した改善方策の検討、実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、令和元年10月に患者アンケート調査を実施した。アンケート調査では、①味付け②品数③1品の量④盛りつけ⑤温度⑥全体の6項目に分けて行った結果、平均91.0%の満足度評価を得た。 委託業者とは、献立会議にて減塩でも食べやすい調味料の調整、喜んでいただけると季節メニューを提供するよう調整を行った。 ○ 安佐市民病院では、令和元年10月に患者アンケートを実施した結果、満足と答えた割合は平成30年度同様87%であった。平成30年度のアンケート結果で朝食の要望が多かったため委託業者とも話し合い、朝食の改善を実施した。今年度は朝食に関する要望はなかったため、改善できていると評価している。令和2年2月より要望の多い、麺類やカレー、ハンバーグ等を取り入れた2週間献立に変更した。 ○ 舟入市民病院では、令和元年8月に病院給食についてのアンケートを行った。満足と答えた割合は96.7%であった。患者より、青菜が硬いとの声があったため、カットを短めにする、ゆで時間を調整するなど、調理の工夫を行い、令和2年3月より、軟菜食の青菜の献立を消化しやすいように配慮された食事と同じ献立に変更した。 ○ リハビリテーション病棟では、年1回全患者を対象に嗜好調査を実施し、意見を反映した献立に変更・追加したり、委託業者と連携し盛り付けの順番を見直すなど業務の改善を図った。患者満足度アンケート調査では、食事についてアンケートの質問ごとに、回答内容を「良い」=5点、「やや良い」=4点、「やや悪い」=2点、「悪い」=1点として換算して平均点を算出し、「料理全体の 	

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市民による評価 評価理由・コメント等																				
<p>【目標値】患者満足度（単位：％）</p> <table border="1" data-bbox="1145 1720 1353 2056"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>令和3年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>90.9</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>82.7</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>76.8</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリデー ション病院</td> <td>96.1</td> <td>95.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病院の対応に「満足」と回答した利用者の割合</p>	区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値	広島市民病院	90.9	90.0	安佐市民病院	82.7	90.0	舟入市民病院	76.8	90.0	リハビリデー ション病院	96.1	95.0	<p>令和元年度 年度計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院支援の充実（広島市民病院、安佐市民病院） 	<p>地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等</p> <p>印象」についての点数は5点満点中4.25点であった。 また、令和2年度からの給食業務の契約更新に伴う公募型プロポーザルによる委託業者の選定に当たり、新たに選択食や造形検査等に用いる検査食の提供を仕様書に盛り込み、応募業者に提案させた。</p> <p>【入院支援の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スタッフの増員などの体制強化により、地域の医療機関からのスムーズな患者の受入れ、退院後の地域の医療機関への紹介に取り組むとともに、より積極的に患者の退院後の生活支援に取り組んだ。 ○ 広島市民病院では、入院支援室を通じて、地域の歯科医との連携（両術期患者の紹介）の強化を継続し、口腔機能の管理による合併症予防に努めた。また、薬剤師外来を併設し、かかりつけ薬局との連携に努めた。 ○ 広島市民病院では、入院支援2,715件、退院時共同指導117件を実施した。 ○ 安佐市民病院では、地域の医科歯科連携の継続や術前データーの管理、薬剤師、栄養士と連携した入院前からの支援を充実させた。入院支援を3,352件、退院時共同指導56件を実施した。 <p>【薬剤師外来の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、投薬窓口のお薬相談室で行っていた薬剤師外来を入院支援室に2ブース設けて相談機能等の充実を図るとともに、注射薬の抗がん剤のみならず経口薬の抗がん剤についても医師の診察前に患者面談による副作用のモニタリング、支持療法提案、薬剤の用量調整等を実施した。 	<p>市民による評価 評価理由・コメント等</p>					
区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値																					
広島市民病院	90.9	90.0																					
安佐市民病院	82.7	90.0																					
舟入市民病院	76.8	90.0																					
リハビリデー ション病院	96.1	95.0																					
<p>【目標値】患者満足度（単位：％）</p> <table border="1" data-bbox="1145 1720 1353 2056"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>平成30年度 実績</th> <th>令和元年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>83.1</td> <td>93.0</td> <td>94.3</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>74.3</td> <td>71.4</td> <td>92.1</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>79.5</td> <td>79.8</td> <td>80.4</td> </tr> <tr> <td>リハビリデー ション病院</td> <td>96.6</td> <td>96.3</td> <td>93.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病院の対応に「満足」と回答した利用者の割合</p>	区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	広島市民病院	83.1	93.0	94.3	安佐市民病院	74.3	71.4	92.1	舟入市民病院	79.5	79.8	80.4	リハビリデー ション病院	96.6	96.3	93.4	<p>令和元年度 年度計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤師外来の充実（広島市民病院） 	<p>地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等</p> <p>印象」についての点数は5点満点中4.25点であった。 また、令和2年度からの給食業務の契約更新に伴う公募型プロポーザルによる委託業者の選定に当たり、新たに選択食や造形検査等に用いる検査食の提供を仕様書に盛り込み、応募業者に提案させた。</p> <p>【入院支援の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スタッフの増員などの体制強化により、地域の医療機関からのスムーズな患者の受入れ、退院後の地域の医療機関への紹介に取り組むとともに、より積極的に患者の退院後の生活支援に取り組んだ。 ○ 広島市民病院では、入院支援室を通じて、地域の歯科医との連携（両術期患者の紹介）の強化を継続し、口腔機能の管理による合併症予防に努めた。また、薬剤師外来を併設し、かかりつけ薬局との連携に努めた。 ○ 広島市民病院では、入院支援2,715件、退院時共同指導117件を実施した。 ○ 安佐市民病院では、地域の医科歯科連携の継続や術前データーの管理、薬剤師、栄養士と連携した入院前からの支援を充実させた。入院支援を3,352件、退院時共同指導56件を実施した。 <p>【薬剤師外来の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、投薬窓口のお薬相談室で行っていた薬剤師外来を入院支援室に2ブース設けて相談機能等の充実を図るとともに、注射薬の抗がん剤のみならず経口薬の抗がん剤についても医師の診察前に患者面談による副作用のモニタリング、支持療法提案、薬剤の用量調整等を実施した。 	<p>市民による評価 評価理由・コメント等</p>
区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績																				
広島市民病院	83.1	93.0	94.3																				
安佐市民病院	74.3	71.4	92.1																				
舟入市民病院	79.5	79.8	80.4																				
リハビリデー ション病院	96.6	96.3	93.4																				

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 地域の医療機関等との連携

(1) 地域の医療機関との役割分担と連携

中期目標	ア 地域全体でより良い医療を提供する観点から、基幹病院等のみならず、かかりつけ医を始めとする地域の医療機関との適切な役割分担と連携を図ること。 イ 地域連携クリニカルパス（治療を行う複数の医療機関が治療方針を共有するための診療計画書）を作成・運用するとともに、他の医療機関との診療情報との共有化などにより、急性期から回復期、在宅医療までの一貫性のある医療を提供すること。
------	--

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
		4 地域の医療機関等との連携 (大項目)	4 地域の医療機関等との連携 (大項目)	記号	評価理由・コメント等 記号
(1) 地域の医療機関との役割分担と連携					
ア 病院の役割分担に基づく紹介、逆紹介の促進等（小項目） 地域の医療機関や医師会との連携を強化し、地域の医療機関との適切な役割分担の下、紹介患者の受入れ、患者の紹介を積極的に行い、より多くの患者に必要な医療を提供する体制の維持に努めます。また、基幹病院をはじめとすると連携等については、市民にとってより良い地域医療を提供していくという観点に立って検討を行います。				3	
			<p>【各地区医師会との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院とも、地区医師会との交流、意見交換の場を通じて連携を深めた。 ○ 広島市民病院では、安芸地区医師会、佐伯区医師会、安佐医師会との交流会及びマルチケアフォーラムを行った。 ○ 安佐市民病院では、安佐医師会、安芸高田市医師会、山県郡医師会、安佐歯科医師会との情報・意見交換会を令和2年2月14日と27日に予定したが、新型コロナウイルス感染症の影響で2月14日のみの開催となった。 ○ 舟入市民病院では、中区医師会との連絡会議（4回開催）に出席して意見交換を行った。 <p>【医療支援センター等による連携の強化等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院とも、地域の医療機関からのスムーズな患者の受入れ、退院後の地域の医療機関への紹介に取り組みむとともに、より積極的に患者の退院後の生活支援に取り組んだ。 ○ 広島市民病院では、入院支援室を通じて、地域の歯科医との連携（周術期患者の紹介）の強化を継続し、口腔機能の管理による合併症予防に努めた。また、薬剤師外来を併設し、かかりつけ薬局との連携に努めた。安佐市民病院では、入院支援センターを通じて地域の歯科医との連携（周術期患者の紹介）を強化し、連携対象周術期患者を拡げ、口腔機能の管理による合併症予防に努めた。舟入市民病院では医療支援室の事務員が引き続き地域の医療機 		

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号																																				
<p>【目標値】患者紹介率（地域の医療機関から市立病院への紹介）（単位：％）</p> <table border="1" data-bbox="991 1727 1145 2056"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成33年度実績</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>70.0</td> <td>74.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>80.3</td> <td>82.5</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>31.0</td> <td>35.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※紹介率＝初診紹介患者の数／（初診患者の数－（救急車による初診搬送患者の数＋時間外における初診外来患者の数））×100</p>	区分	平成33年度実績	令和3年度目標値	広島市民病院	70.0	74.0	安佐市民病院	80.3	82.5	舟入市民病院	31.0	35.0	<p>令和元年度</p> <p>・広島県基幹病院連携強化実行委員会への参加</p> <p>【目標値】患者紹介率（地域の医療機関から市立病院への紹介）（単位：％）</p> <table border="1" data-bbox="991 1384 1145 1713"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>72.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>81.5</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>33.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※紹介率＝初診紹介患者の数／（初診患者の数－（救急車による初診搬送患者の数＋時間外における初診外来患者の数））×100</p>	区分	令和元年度目標値	広島市民病院	72.0	安佐市民病院	81.5	舟入市民病院	33.0	<p>関を訪問する体制を維持した。また、地域のかかりつけ機能を有する薬局との意見交換の場を持ち、連携強化に努めた。</p> <p>○ 広島市民病院では、入退院支援加算1を2,715件、退院時共同指導を117件実施した。</p> <p>○ 安佐市民病院では、平成28年4月から取得している退院支援加算1を、令和元年度は3,352件実施した。社会背景が複雑な患者や多くの医療処置を必要とする患者の退院を支援するために、入院支援センター・外来と連携した入院前カンファレンス・入院時支援を実施すると共に、退院前の地域・関連医療機関との合同カンファレンスを56件、介護支援連携を164件、退院直後の在宅訪問を18件実施した。</p> <p>○ 舟入市民病院では、医療支援室の医療ソーシャルワーカーや看護師配置の体制を見直し、退院支援の充実を図るとともに、入院支援を開始した。</p> <p>【広島県基幹病院連携強化実行委員会への参加】</p> <p>○ 令和元年度は、会議が開催されなかったが、市民にとってより良い地域医療を提供していくために、基幹病院をはじめとする病院間の医療機能の分化と連携について検討を進めていくこととした。</p> <p>【実績】患者紹介率（地域の医療機関から市立病院への紹介）</p> <table border="1" data-bbox="991 846 1145 1355"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>令和元年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>71.8</td> <td>73.7</td> <td>74.9</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>85.2</td> <td>89.9</td> <td>89.5</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>31.9</td> <td>35.6</td> <td>41.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※紹介率＝初診紹介患者の数／（初診患者の数－（救急車による初診搬送患者の数＋時間外における初診外来患者の数））×100</p>	区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	広島市民病院	71.8	73.7	74.9	安佐市民病院	85.2	89.9	89.5	舟入市民病院	31.9	35.6	41.3		
区分	平成33年度実績	令和3年度目標値																																						
広島市民病院	70.0	74.0																																						
安佐市民病院	80.3	82.5																																						
舟入市民病院	31.0	35.0																																						
区分	令和元年度目標値																																							
広島市民病院	72.0																																							
安佐市民病院	81.5																																							
舟入市民病院	33.0																																							
区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績																																					
広島市民病院	71.8	73.7	74.9																																					
安佐市民病院	85.2	89.9	89.5																																					
舟入市民病院	31.9	35.6	41.3																																					

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等		市長による評価 評価理由・コメント等		記号	記号																																				
<p>【目標値】患者逆紹介率（市立病院から地域の医療機関への紹介）（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>93.7</td> <td>95.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>122.3</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>24.5</td> <td>28.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 患者逆紹介率＝逆紹介患者の数／（初診患者の数－（救急車による初診搬送＋時間外における初診外来患者の数））×100</p> <p>※2 当該年度の逆紹介患者の数には、当該年度以前からの診療期間の長い患者も含まれるため、当該年度の初診患者の数を上回り、逆紹介率が100%を超える場合がある。</p>	区分	平成28年度実績	令和3年度目標値	広島市民病院	93.7	95.0	安佐市民病院	122.3	100.0	舟入市民病院	24.5	28.5	<p>【目標値】患者逆紹介率（市立病院から地域の医療機関への紹介）（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>94.5</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>26.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 患者逆紹介率＝逆紹介患者の数／（初診患者の数－（救急車による初診搬送＋時間外における初診外来患者の数））×100</p> <p>※2 当該年度の逆紹介患者の数には、当該年度以前からの診療期間の長い患者も含まれるため、当該年度の初診患者の数を上回り、逆紹介率が100%を超える場合がある。</p>	区分	令和元年度目標値	広島市民病院	94.5	安佐市民病院	100.0	舟入市民病院	26.5	<p>【実績】患者逆紹介率（市立病院から地域の医療機関への紹介）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>令和元年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>94.7</td> <td>94.4</td> <td>98.6</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>130.8</td> <td>137.1</td> <td>140.6</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>22.9</td> <td>24.8</td> <td>28.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※患者逆紹介率＝逆紹介患者の数／（初診患者の数－（救急車による初診搬送＋時間外における初診外来患者の数））×100</p> <p>○ 3病院において、紹介率・逆紹介率とも目標を達成した。</p>	区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	広島市民病院	94.7	94.4	98.6	安佐市民病院	130.8	137.1	140.6	舟入市民病院	22.9	24.8	28.4	<p>【地域連携クリニカルバスの運用拡大等】</p> <p>○ 各病院とも、地域連携クリニカルバスの運用の拡大等に努めた。</p> <p>○ 広島市民病院では、地域連携クリニカルバスの運用を拡大するため、医療者ががん研修会（年5回）、がんセミナー（年5回）、マルチケアフォーラム（年2回）を定期的に開催し、連携病院に参加の案内を呼びかけ、研修会等を通じて参加者と同病院との医療連携を深めた。また、がん患者を紹介する際、紹介先の医療機関に対しがん連携病院の登録を呼びかけた。</p> <p>○ 安佐市民病院では、年に8回、地域の開業医・勤務医等と合同で研修会を実施して、地域連携クリニカルバスの運用の拡大に努めた。</p> <p>○ リハビリテーション病院では、地域連携活動を継続して実施することにより、地域連携クリニカルバス対象疾患（脳卒中・大腿骨頸部骨折）患者の紹介入院の増加に努めた。</p>	<p>イ 地域連携クリニカルバスの運用拡大（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療機関と連携した地域連携クリニカルバスの作成・運用の拡大 	<p>イ 地域連携クリニカルバスの運用拡大（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 一貫性のある医療を提供し、治療効果の一層の向上を図るため、地域連携クリニカルバス（治療を行う複数の医療機関が治療方針を共有するための診療計画書）の作成・運用の拡大に 				3
区分	平成28年度実績	令和3年度目標値																																											
広島市民病院	93.7	95.0																																											
安佐市民病院	122.3	100.0																																											
舟入市民病院	24.5	28.5																																											
区分	令和元年度目標値																																												
広島市民病院	94.5																																												
安佐市民病院	100.0																																												
舟入市民病院	26.5																																												
区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績																																										
広島市民病院	94.7	94.4	98.6																																										
安佐市民病院	130.8	137.1	140.6																																										
舟入市民病院	22.9	24.8	28.4																																										

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																																				
		評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																																			
		<p>(地域連携クリニカルパスの種類及び運用件数) (各年度3月末現在 単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="2">平成29年度</th> <th colspan="2">平成30年度</th> <th colspan="2">令和元年度</th> </tr> <tr> <th>種類 件数</th> <th>運用 件数</th> <th>種類 件数</th> <th>運用 件数</th> <th>種類 件数</th> <th>運用 件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>10</td> <td>448</td> <td>11</td> <td>534</td> <td>10</td> <td>570</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>11</td> <td>461</td> <td>11</td> <td>499</td> <td>12</td> <td>483</td> </tr> <tr> <td>リハビリデー ション病院</td> <td>2</td> <td>148</td> <td>2</td> <td>188</td> <td>2</td> <td>185</td> </tr> </tbody> </table>				区 分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		種類 件数	運用 件数	種類 件数	運用 件数	種類 件数	運用 件数	広島市民病院	10	448	11	534	10	570	安佐市民病院	11	461	11	499	12	483	リハビリデー ション病院	2	148	2	188	2	185	
区 分	平成29年度		平成30年度		令和元年度																																			
	種類 件数	運用 件数	種類 件数	運用 件数	種類 件数	運用 件数																																		
広島市民病院	10	448	11	534	10	570																																		
安佐市民病院	11	461	11	499	12	483																																		
リハビリデー ション病院	2	148	2	188	2	185																																		

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

- 4 地域の医療機関等との連携
 (2) 地域の医療機関への支援

中期目標	<p>ア 市立病院が保有する高度医療機器の共同利用などにより、地域の医療人材の育成に努めること。</p> <p>イ 安佐市民病院の北館に整備する病院（以下「北館の病院」という。）等の関係医療機関への医師の派遣等に取り組みとともに、北館の病院が本市の医療政策を支える病院として、建替後の安佐市民病院と連携して地域医療を担うことができるよう、本市や関係機関と協議の上、北館の病院に十分な支援を行うこと。</p> <p>ウ 建替え後の安佐市民病院は、県北西部地域の公立病院等とのネットワークの中で中核病院としての役割を果たしていくことを踏まえ、地域完結型医療の提供に向けた取組を進めること。</p>
------	--

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																					
		評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																				
<p>(2) 地域の医療機関への支援</p> <p>ア 高度医療機器の共同利用 (小項目) 市立病院が保有する高度医療機器の共同利用の促進により、地域の医療水準の向上を図ります。また、地域の医療従事者を対象としたオープンカンファレンス等各種研修会を開催し、市立病院における症例や医療技術等の医療情報を提供することなどにより、地域の医療人材の育成に協力するとともに、「顔の見える連携関係」を構築します。</p>	<p>(2) 地域の医療機関への支援</p> <p>ア 高度医療機器の共同利用 (小項目) ・高度医療機器の共同利用の促進による地域の医療水準の向上</p>	<p>【高度医療機器の共同利用等の促進による地域の医療水準の向上】</p> <p>○ 令和元年度は以下のとおり、地域の医療機関による高度医療機器の共同利用が行われた。</p> <p>(令和元年度高度医療機器共同利用件数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>CT</th> <th>MRI</th> <th>その他</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>221</td> <td>122</td> <td>105</td> <td>448</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>1,097</td> <td>319</td> <td>614</td> <td>2,030</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>—</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) その他の主な内訳は、胃カメラ・胃ろう交換など</p>	区分	CT	MRI	その他	合計	広島市民病院	221	122	105	448	安佐市民病院	1,097	319	614	2,030	リハビリテーション病院	—	1	—	1	3		
区分	CT	MRI	その他	合計																					
広島市民病院	221	122	105	448																					
安佐市民病院	1,097	319	614	2,030																					
リハビリテーション病院	—	1	—	1																					
		<p>○ 開放型病床は、広島市民病院が34床設けており、利用登録している地域の医療機関の医師数は令和元年度末で254人、令和元年度の病床利用率は60.7%であった。また、院内に開放病床運営委員会を設け、活用の促進等について協議、検討を行った。安佐市民病院では9床を設けており、利用登録している地域の医療機関の医師数は令和元年度末で383人、利用率は100%であった。舟入市民病院では5床を設けており、利用登録している地域の医療機関の医師数は令和元年度末で53人、利用率は72.5%であった。</p>																							

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等																																		
			記号																																		
<p>中期計画</p> <p>イ 安佐市民病院長の北館に整備する病院への支援（小項目） 広島市や関係機関と協議の上、安佐市民病院長の北館に整備する病院への医師の派遣等に取り組みとともに、当該整備する病院の円滑な開設に向けた建物の改修等の支援を行います。</p>	<p>地域の医療従事者を対象とした各種研修会等の開催</p> <p>イ 安佐市民病院長の北館に整備する病院への支援（小項目） ・安佐市民病院長の機能分化に伴い整備する安佐医師会病院（仮称）との連携に関する具体的な検討 ・北館に整備する病院の円滑な開設に向けた実施設計等の実施</p>	<p>【各種研修会等の開催】</p> <p>○ 令和元年度は以下のとおり、各病院において研修会等及びオープンカンファレンスを開催した。</p> <p>(令和元年度研修会等・オープンカンファレンスの開催状況)</p> <table border="1" data-bbox="414 660 678 1344"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">研修会等</th> <th colspan="2">オープンカンファレンス</th> </tr> <tr> <th>回数</th> <th>延べ参加者数</th> <th>回数</th> <th>延べ参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>10回</td> <td>1,126人</td> <td>13回</td> <td>498人</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>19回</td> <td>842人</td> <td>8回</td> <td>112人</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>3回</td> <td>106人</td> <td>2回</td> <td>78人</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>2回</td> <td>81人</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>34回</td> <td>2,155人</td> <td>23回</td> <td>688人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 安佐市民病院では、WEB会議システムを用いて関係病院と意見交換を行った。</p>	区分	研修会等		オープンカンファレンス		回数	延べ参加者数	回数	延べ参加者数	広島市民病院	10回	1,126人	13回	498人	安佐市民病院	19回	842人	8回	112人	舟入市民病院	3回	106人	2回	78人	リハビリテーション病院	2回	81人	—	—	計	34回	2,155人	23回	688人	
区分	研修会等			オープンカンファレンス																																	
	回数	延べ参加者数	回数	延べ参加者数																																	
広島市民病院	10回	1,126人	13回	498人																																	
安佐市民病院	19回	842人	8回	112人																																	
舟入市民病院	3回	106人	2回	78人																																	
リハビリテーション病院	2回	81人	—	—																																	
計	34回	2,155人	23回	688人																																	
<p>イ 安佐市民病院長の北館に整備する病院への支援（小項目） 広島市や関係機関と協議の上、安佐市民病院長の北館に整備する病院への医師の派遣等に取り組みとともに、当該整備する病院の円滑な開設に向けた建物の改修等の支援を行います。</p>	<p>イ 安佐市民病院長の北館に整備する病院への支援（小項目） ・安佐市民病院長の機能分化に伴い整備する安佐医師会病院（仮称）との連携に関する具体的な検討 ・北館に整備する病院の円滑な開設に向けた実施設計等の実施</p>	<p>3</p> <p>【安佐医師会病院（仮称）との連携に関する具体的な検討】</p> <p>○ 北部医療センター安佐市民病院と安佐医師会病院（仮称）の地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟の連携について、患者抽出、転院基準、施設基準等の検討を行った。各部門の代表者のヒアリングを実施、安佐医師会病院のイメージ化を行った。職員（特に看護師）の派遣について検討した。</p> <p>【北館に整備する病院の実施設設計等の実施】</p> <p>○ 令和元年9月30日に実施設計が完了した。</p>																																			

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
ウ 安佐市民病院における地域完結型医療の提供に向けた取組(小項目)		ウ 安佐市民病院における地域完結型医療の提供に向けた取組(小項目)		評価理由等		評価理由・コメント等	
<p>ウ 安佐市民病院における地域完結型医療の提供に向けた取組(小項目)</p> <p>県北西部地域の関係機関と連携し、地域内の医療機関の役割分担と再編を行い、それぞれの医療機関が連携し相互補完を行う地域完結型の医療の提供を行います。</p>	<p>ウ 安佐市民病院における地域完結型医療の提供に向けた取組(小項目)</p> <p>・地域医療構想調整会議北部病院部会への参画等による、地域完結型医療の提供体制の構築に向けた取組</p>	<p>【安佐市民病院における地域完結型医療の提供に向けた取組】</p> <p>○ 平成30年度に広島医療圏北部地域の公立・公的病院が担う役割を明確にするとともに、その役割を担うために行う病床の再編についてとりまとめを行った。さらにその内容を「地域医療構想調整会議北部病院部会」及び「地域医療構想調整会議」に協議し了承を得るとともに、「広島県医療審議会」の承認後、病床の再編上必要となる厚生労働省の同意を得た。</p> <p>○ また、地域完結型医療の提供に向けた取組として、北広島町と医療連携実施協定を結び、北広島町豊平病院(診療所)44床の無床化(平成元31年4月)に大きく貢献した。</p> <p>○ 令和元年度においては、安佐市民病院に病院機能分化推進室を設置し、安佐医師会(安佐医師会病院準備担当)とともに、地域完結型医療の提供体制の構築に向け北部医療センター安佐市民病院及び安佐医師会病院(仮称)開設に向けた具体的な検討を行った。</p>	<p>記号</p> <p>3</p>	<p>市長による評価</p> <p>評価理由・コメント等</p>	<p>記号</p>		

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

- 4 地域の医療機関等との連携
 (3) 保健機関、福祉機関との連携

ア 保健所や福祉事務所等と連携して、疾病の予防や再発防止に取り組むこと。
 イ 病院を退院した患者が円滑に在宅医療に移行するための支援を行うこと。また、地域包括支援センターや介護サービス事業所等との連携を図ることで、地域包括ケアシステムの構築に取り組むこと。

中期計画		令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	記号	市長による評価 評価理由・コメント等	記号
(3) 保健機関、福祉機関との連携	(3) 保健機関、福祉機関との連携	(3) 保健機関、福祉機関との連携	【高齢化の進展等に伴う疾病構造の変化に対応するための保健所等との連携】 ○ 広島市民病院では、「救急医療コントロール機能運営協議会」の委員を務めるなど、受入困難事案の総合的対策の協議・調整に協力し、広島市、保健機関、福祉機関等との連携に努めた。 ○ 安佐市民病院では、保健センター（安佐南区・安佐北区）と精神障害者に係る事例検討会や情報交換会を延べ4回開催した。また、特定妊婦など複雑な家庭環境により育児が困難と予測される場合や高齢者虐待の疑われるケースなどについて、患者・家族の不安軽減や継続した支援・介入につながるよう保健センターと情報共有し連携を図った。 ○ 舟入市民病院では、広島市が実施する市政出前講座等でスキケアに関する講習（2回）、感染症に関する講習（8回）、緩和ケアに関する講習（2回）、小児救急に関する講習（2回）を行った。 ○ リハビリテーション病院では、市民公開講座において認知症の基礎知識や予防に関する講演のほか、脳を活性化させる運動の実演を行った。また、広島市が実施する市政出前講座において脳卒中のリハビリテーションや視覚障害者に関する講習・講演を8回行った。	3		
		ア 保健機関、福祉機関との連携（小項目） ・高齢化の進展等に伴う疾病構造の変化に対応するための保健所等との連携				
	ア 保健機関、福祉機関との連携（小項目） ・高齢化の進展等に伴う疾病構造の変化に対応するための保健所等との連携 ・再発防止等に取り組むとともに、退院前から地域包括支援センター、介護サービス事業所等と連携し、患者の退院後の療養や介護などを支援します。					
		・退院前からの福祉機関との連携による患者の退院後の療養や介護などの支援				

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等 記号
<p>イ 地域包括ケアシステムの構築に向けた的確な対応 (小項目)</p> <p>高齢者が疾病を抱えても住み慣れた地域で生活を継続できるよう、地域包括ケアシステム構成員として、各病院が現在担っている機能を維持・強化するとともに、かかりつけ医を含めた地域の医療機関、施設、行政との連携を図り、患者・家族の療養生活を支援して包括的かつ継続的な在宅医療等の提供の一翼を担います。</p>	<p>イ 地域包括ケアシステムの構築に向けた的確な対応 (小項目)</p> <p>・地域包括ケアシステム構成員としての各病院が担っている機能の維持・強化</p>	<p>害者相談支援事業所等の福祉機関へ連絡し、同病院にて患者、家族及び福祉機関の担当者とのカンファレンス等を行っている。そのカンファレンスで情報共有や連携を図りながら、患者、家族が安心して退院ができるよう支援を図った。</p>	
		<p>【地域包括ケアシステム構成員としての各病院が担っている機能の維持・強化】</p> <p>○ 関係機関との連携をよりスムーズに行うため、地域包括支援センター等との情報の交換、交流の場を随時設けた。特に安佐市民病院では、安佐北区や安佐南区の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、安佐北区役所厚生部健康長寿課、安佐医師会で構成する地域包括連携会議を設け、地域連携マニキュアルの修正や研修会の開催等を行うとともに、患者の同意を得た上で、その情報の共有化を図った。</p> <p>○ 舟市民病院においては、平成 27 年度途中から地域包括ケア病床（6 階病棟のうち 10 床）を導入し運用しており、令和元年度の病床利用率は 52.3%であった。医療支援室職員が地域の訪問看護ステーション等への訪問（面会）を延べ 66 件行い、積極的に連携づくりを行い、高齢者の生活支援に取り組んだ。</p> <p>また、地域の医療・介護力の質向上と地域のコミュニティカルを含む多職種との連携（ネットワーク作り）を目的に、多職種合同地域連携研修会を年 3 回行い、顔の見える連携を図った。</p> <p>○ リハビリテーション病棟では、広島市が実施する介護予防拠点など住民運営の「通いの場」の立上げ・運営の支援や、要支援者等に対する介護予防ケアマネジメントなどに、リハ職を派遣するため、安佐南区におけるリハ職の派遣調整を行う業務を広島市から受託し実施した。</p> <p>また、令和元年度は、広島県二次保健医療圏における「通いの場」設置の推進を目的として関係機関のネットワークを構築する事業を広島県から受託し実施した。</p>	<p>記号</p> <p>3</p>

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価										
		評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号									
		<p>(リハ職派遣調整業務の実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和元年度 派遣調整人数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護予防拠点整備における支援</td> <td>149人(221人)</td> <td>うちリハビリテーション病院 からの派遣人数 40人(46人)</td> </tr> <tr> <td>介護予防ケアマネジメントの支援</td> <td>13人(12人)</td> <td>うちリハビリテーション病院 からの派遣人数 2人(3人)</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	令和元年度 派遣調整人数	備考	介護予防拠点整備における支援	149人(221人)	うちリハビリテーション病院 からの派遣人数 40人(46人)	介護予防ケアマネジメントの支援	13人(12人)	うちリハビリテーション病院 からの派遣人数 2人(3人)			
区 分	令和元年度 派遣調整人数	備考												
介護予防拠点整備における支援	149人(221人)	うちリハビリテーション病院 からの派遣人数 40人(46人)												
介護予防ケアマネジメントの支援	13人(12人)	うちリハビリテーション病院 からの派遣人数 2人(3人)												
	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医を含めた地域の医療機関、施設、行政との連携を図り、包括的かつ継続的な在宅医療等の提供 ・中区医師会が実施する在宅医療相談支援窓口運営事業への参加（舟入市民病院） 	<p>【かかりつけ医を含めた地域の医療機関、施設、行政との連携を図り、包括的かつ継続的な在宅医療等の提供】</p> <p>○ リハビリテーション病院では、安佐医師会、安佐南区役所厚生部健康長寿課、医療機関、地域包括支援センター、介護サービス事業所等で構成する安佐南区地域包括エリア毎在宅医療連携推進会議や地域の医療機関、介護サービス事業所等の従事者で構成する安佐南区回復期生活期連携推進の会に参加し、かかりつけ医を含めた地域の医療機関と連携することで、地域における在宅医療・介護の連携推進を図った。</p> <p>【在宅医療相談支援窓口運営事業への積極的な参加等（舟入市民病院）】</p> <p>○ 舟入市民病院では、中区医師会と協力し、中区在宅医療相談支援窓口運営事業へ参加しており、在宅からの緊急入院（サブアキュート）を積極的に受け入れ、引き続き地域に根ざした医療が提供できよう連携した。</p>												

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

5 市立病院間の連携の強化

- (1) 一つの病院群としての病院運営の推進
- (2) 広島市立病院機構医療情報システムの運用

中期目標	<p>ア 市立病院間の相互連携や効果的なマンパワーの活用による交流を進めることで、各病院の医療機能を補完するとともに、4病院が一つの病院群として、本市の医療施設上必要な医療を提供すること。特に、広島市民病院と舟入市民病院の連携強化により、効果的かつ効率的な病院運営を一層進めること。また、本市が指定管理者制度により運営している安芸市民病院とも、引き続き連携を図ること。</p> <p>イ 広島市立病院機構医療情報システム（電子カルテシステム）（電子カルテシステムを中心とした医療情報を電子化して総合的に活用するシステム）等の活用により、効率的で質の高い医療を提供すること。</p>
------	--

中期計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	
令和元年度 年度計画		記号	市長による評価
<p>5 市立病院間の連携の強化（大項目）</p> <p>(1) 一つの病院群としての病院運営の推進（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立病院が相互に連携し、各病院の医療機能を補完し合い、一つの病院群として、広島市の医療施設上必要な医療を提供するとともに、各病院の役割の見直しや連携強化などを進め、効果的かつ効率的な病院運営を行います。 ・病院間の人事交流など効果的なマンパワーを活用し、各病院が必要とする人材の育成や、病院間の連携を推進します。 ・広島市が指定管理者制度により運営している安芸市民病院との連携を図り、患者の受け入れや紹介を積極的にを行います。 	<p>5 市立病院間の連携の強化（大項目）</p> <p>(1) 一つの病院群としての病院運営の推進（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的、効果的な病院運営 ・安佐南区の医療需要の動向等を踏まえた役割分担の下、広島市民病院と安佐市民病院との連携と協調 ・急性期から回復期までのリハビリテーションを継続的・一体的提供を図るため、リハビリテーション病院と広島市民病院及び安佐市民病院との連携強化 ・広島市民病院と舟入市民病院との連携強化 	3	<p>【効率的、効果的な病院運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月、本部事務局及び各病院の病院長、看護部長・総看護師長、事務長が出席する経営会議を開催し、課題の検討、意思の統一化を図った。また、理事長は、毎月各病院をラウンドし、病院の現状把握及び現場での意見交換を行った。 ○ リハビリテーション病院では、広島市民病院・安佐市民病院と連携し、両病院から急性期医療を終えた多くの患者を受け入れた。令和元年度は広島市民病院から164人、安佐市民病院から88人の患者を受け入れた（計252人。リハビリテーション病院の入院患者全体の50.4%）。また、リハビリテーション病院は、広島市民病院から令和元年度295件のMRI検査の依頼を受けた。 ○ リハビリテーション病院が外部委託していた画像診断業務について、広島市民病院とリハビリテーション病院の役割分担及び連携強化を図り、効率的な病院運営を行うため、広島市民病院での診断に切り替えることとし、令和2年4月からの開始に向けて準備を行った。 ○ 広島市民病院と舟入市民病院の連携について、広島市民病院は舟入市民病院へ手術件数43件の紹介を行うとともに外科医の派遣を行った。また、舟入市民病院では、広島市民病院から急性期医療を終えた患者の受け入れを積極的に行い、令和元年度は709人の入院等患者を受け入れたことにも、MRI検査についても広島市民病院から430人の患者を受け入れた。 ○ 広島市民病院は、婦人科、乳腺外科、脳神経外科、脳血管内治療科、眼科、放射線診断科の医師、放射線技師、臨床検査技師を舟入市民病院健康管理センター

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等																				
		記号	記号																				
<p>・病院間の人事交流</p> <p>・各病院の職員が協議、交流する部門会議の開催</p> <p>・安芸市民病院との連携</p>	<p>・病院間の人事交流</p> <p>○ 職員の適性等を生かし、各病院運営の活性化を図るため、令和元年度は以下のとおり、病院間における異動を行った。</p> <p>(令和元年度病院間異動者数)</p> <table border="1" data-bbox="446 963 734 1344"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>異動者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>診療放射線技師</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>医療ソーシャルワーカー</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>臨床検査技師</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>栄養士</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>臨床工学技士</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>33人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【各病院の職員が協議、交流する場づくり】</p> <p>○ 病院の枠を越えて、採用、職員配置、業務内容等の現状と課題等について、協議、交流、検討する場として、以下の職種について、各病院の責任者が出席する部門会議を開催した。</p> <p>【部門会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師 ・薬剤師 ・臨床検査技師 ・診療放射線技師 ・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 ・臨床工学技士 ・栄養士 ・医療ソーシャルワーカー ・診療情報管理士 ・事務職 ・保健師・心理療法士 <p>【安芸市民病院との連携】</p> <p>○ 各病院において、安芸市民病院との連携強化、受入体制の強化を図ること</p>	区分	異動者数	看護師	8人	薬剤師	9人	診療放射線技師	3人	理学療法士	4人	医療ソーシャルワーカー	3人	臨床検査技師	2人	栄養士	1人	臨床工学技士	3人	計	33人		
区分	異動者数																						
看護師	8人																						
薬剤師	9人																						
診療放射線技師	3人																						
理学療法士	4人																						
医療ソーシャルワーカー	3人																						
臨床検査技師	2人																						
栄養士	1人																						
臨床工学技士	3人																						
計	33人																						

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																
				記号	評価理由・コメント等	記号																
					<p>により、紹介・逆紹介を積極的に行った。</p> <p>(令和元年度安芸市民病院、紹介・逆紹介件数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>安芸市民病院からの紹介件数</th> <th>安芸市民病院への逆紹介件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>27件</td> <td>103件</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>1件</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>27件</td> <td>12件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>55件</td> <td>116件</td> </tr> </tbody> </table>	区分	安芸市民病院からの紹介件数	安芸市民病院への逆紹介件数	広島市民病院	27件	103件	安佐市民病院	1件	1件	舟入市民病院	27件	12件	計	55件	116件		
区分	安芸市民病院からの紹介件数	安芸市民病院への逆紹介件数																				
広島市民病院	27件	103件																				
安佐市民病院	1件	1件																				
舟入市民病院	27件	12件																				
計	55件	116件																				
<p>(2) 広島市立病院機構医療情報システムの運用 (小項目)</p> <p>広島市立病院機構医療情報システム (電子カルテシステムを中心とした医療情報を電子化して総合的に活用するシステム) の運用等により、4病院間の診療情報の円滑な伝達や共有化を推進します。また、同システムを活用し、地域の医療機関との診療情報の共有化等を行います。</p>	<p>(2) 広島市立病院機構医療情報システムの運用 (小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島市立病院機構医療情報システムによる、4病院間の診療情報の円滑な伝達や共有化の推進 ・ひろしま医療情報ネットワークの活用による、地域の医療機関への市立病院の医療情報の提供 	3	<p>【4病院間の診療情報の円滑な伝達や共有化の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成27年度に更新等を実施した4病院の病院総合情報システムにおいて、電子カルテを中心としたシステムの円滑な運用を行い、4病院間の診療情報の円滑な伝達や共有化を推進した。 【地域の医療機関への市立病院の医療情報の提供】 ○平成29年4月からひろしま医療情報ネットワークに開示病院として参加し、約1,000の医療機関 (令和2年3月31日時点)、薬局等と連携して診療情報の共有化を図った。 																			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

6 保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力

中期目標
本市が実施する保健、医療、福祉、教育などの施策に協力するとともに、市行政全般との連携に努めること。

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
		評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>6 保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力（大項目）</p> <p>保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力については、引き続き、広島市の担当する部局との連携を維持し、広島市が実施する保健や医療、福祉、教育に係る施策に協力します。</p>	<p>6 保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力（大項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島市が実施する保健、医療、福祉、教育施策への協力 ・広島市の保健医療福祉担当部局との情報共有及び調整 	<p>【保健医療福祉担当部局との情報共有等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市の保健医療福祉担当部局との情報共有及び調整に係る業務について、本部事務局に一元化し、各病院に対して適宜、適切な情報提供を行うとともに、法人内の調整を行った。 	3		
	<p>重症心身障害児（者）医療型短期入所事業の継続実施（舟入市民病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自殺未遂者支援窓口と医療機関等との連携（広島市民病院・安佐市民病院） 	<p>【重症心身障害児（者）医療型短期入所事業の継続実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 舟入市民病院では、引き続きレスパイトケア（重症心身障害児（者）医療型短期入所事業）を実施し、延べ535人（広島市外の利用者を含む。）の入所者を受け入れた。体調不良による突然の取り止めや、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、3月7日よりレスパイトの受け入れを中止したことから、平成30年度に比べ93人減少した。 			
		<p>自殺未遂者支援窓口と医療機関等との連携（広島市民病院・安佐市民病院）</p>	<p>【自殺未遂者支援窓口と医療機関等との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、広島市が進める自殺未遂者の自殺再企図防止支援事業への協力を継続するとともに、弁護士会「自死ハイリスク者のための支援事業」にも協力し自殺再企図防止に努めた。 ○ 安佐市民病院では、広島市からの委託を受け、平成30年4月から自殺未遂者支援コーデイネーターを配置して支援体制を構築し、引き続き、「自傷患者への早期介入を行う」ことを目標として支援を行うとともに、月1回、市の担当部署（精神保健福祉センター）や他の病院（広島市民病院、広大病院等）のコーデイネーターとともに会議を行い、支援内容の実施報告や課題等について協議を実施した。 		

中期計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	令和元年度 年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等 記号
	<p>中学生を対象としたがん教育の実施（広島市民病院・安佐市民病院）</p>	<p>【中学生を対象としたがん教育の実施】</p> <p>○ 広島市民病院では、「がん教育出前授業」として、令和元年11月21日に鞆町中学校、同年12月10日に似島中学校、令和2年1月14日に吉島中学校、同年1月29日に温品中学校において、広島県第3次がん対策推進計画の学校教育におけるがん教育の実践及び学校保健計画のがん教育に沿った講義を行った。</p> <p>○ 安佐市民病院では、安佐北区内7中学校及び安佐南区内1中学校に対して、「安佐市民病院によるがん教育出前授業」を開催した。</p> <p>また、安佐北区1校、安芸南田市1校の高校に対しても同様の出前授業を開催した。</p>		

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとすべき措置

1 業務運営体制の確立

- (1) 迅速かつ的確な組織運営
- (2) 業務改善に取り組み風土づくり

中期目標	<p>ア 理事長が強力なリーダーシップを発揮するとともに、各病院長への適切な権限移譲などを進め、迅速かつ的確な意思決定を行うこと。また、職員の経営参画意識やコスト意識の向上などにより、自律的かつ機動的な病院運営を行うこと。</p> <p>イ 積極的に業務改善に取り組みなど、効果的かつ効率的な業務運営体制を整備すること。</p>
------	--

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
		第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとすべき措置		評価理由等		評価理由・コメント等	
<p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとすべき措置</p> <p>1 業務運営体制の確立(大項目)</p> <p>中期目標、中期計画に掲げる目標、取組の達成を目指し、法人の運営を自律的、機動的に行うため、次のことに取り組みます。</p> <p>(1) 迅速かつ的確な組織運営(小項目)</p> <p>理事会や理事長、病院長等が出席する経営会議を中心に、適正かつ効果的な業務運営を図るとともに、病院内の委員会等を通じ、効率的な業務執行を行います。また、理事長がリーダーシップを発揮するとともに、病院長や院内での適切な権限移譲等を進めることで、迅速かつ的確な意思決定を行います。</p>	<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとすべき措置</p> <p>1 業務運営体制の確立(大項目)</p>	<p>(1) 迅速かつ的確な組織運営(小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事会や経営会議を中心とした迅速かつ的確な組織運営の推進 ・病院内の職務権限の見直し 	<p>【理事会を中心とした組織体制の整備等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的に理事会を開催(4回)し、法人の経営方針等の検討、規程改正等について審議した。 ○ 毎月、各病院長が出席する経営会議において、法人の主要な課題等について協議、検討するとともに、理事長が毎月各病院をラウンドし、病院の現状把握及び現場での意見交換を行った。 <p>【病院内の職務権限の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 物品の購入等の決定について、医薬品及び診療材料とその他の物品の決定権限を分け、適切な診療に向けた迅速かつ的確な物品の購入等の意思決定が可能となるよう見直した。 	3			

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
				評価理由等		評価理由・コメント等	
				記号		記号	
<p>② 業務改善に取り組み風土づくり(小項目)</p> <p>経営状況や業務運営上の課題等について、常に問題意識を持ち、その改善に取り組みます。</p>	<p>② 業務改善に取り組み風土づくり(小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 迅速かつ的確な事務処理が行えるよう新人事給与システムの運用、機能強化 組織の再編の実施(組織改正、法人採用職員への移行) 	<p>【新人事給与システムの運用、機能強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化を目的として、平成30年1月に稼働した新人事給与システムについて、令和元年度においては、社会保険届出関連の電子申請化により、雇用保険の届出申請に関して、システムの調整を行った。 <p>【組織の再編の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広島市民病院において、業務の効率化を図るため事務室の企画課を再編し、迅速な医療安全対策措置をとるため「医療安全管理室」を設置した。 安佐市民病院において、病院の人材確保、人員配置、研修などの企画・運営を行うため「病院機能分化推進室」を設置した。また、広島県北西部地域の医療体制維持のため、医師不足に対応した広域的支援や人材育成に係る連携体制の構築などを目的に「広島県北西部地域医療連携センター」を設置した。 平成30年度に実施した採用試験により、同年度内に4人、令和元年度に2人の計6人の新規採用を行い、平成26年度の法人化後における法人採用事務職員数は、退職者を除き45人となった。 	<p>3</p>				

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとすべき措置

- 2 人材の確保、育成
- (1) 病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応した人材の確保
- (2) 事務職員の専門性の向上
- (3) 研修の充実

中期目標

ア 多様な採用方法や雇用形態などにより、組織全体を活性化させるとともに、組織全体を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応できる人材の確保の在り方について検討すること。

イ 職種に応じた研修制度の充実を図るとともに、職員の専門性やスキル、倫理観を向上させること。また、本市との人事交流等により、保健医療福祉分野に関して、幅広い知識・経験を有する職員の育成を図ること。

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
2 人材の確保、育成(大項目)	2 人材の確保、育成(大項目)	2 人材の確保、育成(大項目)	2 人材の確保、育成(大項目)	記号	評価理由・コメント等	記号	記号
<p>(1) 病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応した人材確保</p> <p>収支への影響も踏まえながら、病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応した人材確保に努めます。</p>	<p>(1) 病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応した人材確保</p> <p>迅速、柔軟に対応した人材の確保</p>	<p>ア 診療体制の充実(小項目)</p> <p>業務の量や質に応じた適切な人員配置を行い、診療・看護体制の充実や医療スタッフの負担軽減を図ります。</p>	<p>ア 診療体制の充実(小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療体制を強化するため医療スタッフの再編 欠員が生じない職員の確保、配置(職員の随時募集の実施等) 	3	<p>【医療スタッフの再編】</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療体制を強化するため、安佐市民病院において看護師を8人増員した。 <p>【職員の確保、配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療技術職については、退職等による欠員の解消を図るため、次のとおり採用試験を実施し、職員の確保を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年5月試験：介護士1人採用 令和元年9月試験：臨床工学技士1人採用、言語聴覚士1人採用、医療ソーシャルワーカー2人採用、生活支援員1人採用 		

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
イ 多様な採用方法と雇用形態の活用(小項目) 新規採用や中途採用の実施、退職者の再任用の活用などにより、迅速、柔軟な人材確保を進めます。		イ 多様な採用方法と雇用形態の活用(小項目) ・経験者採用試験の実施など迅速・柔軟な人材確保 ・多様な勤務時間、勤務シフトの導入検討		評価理由等		評価理由・コメント等	
ウ 医師確保の推進(小項目) 臨床研修プログラムや指導体制の充実、整備等に取り組み、専門医制度の動向にも適切に対応しながら、臨床研修医や後期研修医等の受入拡大、定着を図ります。		ウ 医師確保の推進(小項目) ・臨床研修病院としての研修プログラムの充実等による臨床研修医の確保		記号		記号	
				3			
				3			

【迅速・柔軟な人材確保】

- 法人化のメリットを生かし、通常の採用試験とは別に年度中途からでも勤務開始可能な者を対象とした採用試験を、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー、生活支援員で実施した。
- 【多様な勤務時間、勤務シフトの導入検討】
- 業務の実態に対応するため、早出勤務、退出勤務の開始時間を随時見直した。
- 子育てと仕事との両立を支援するため、育児休業から復帰する際、個別・丁寧に面談を行うとともに、育児短時間勤務制度の周知を図った。

【臨床研修病院としての研修プログラムの充実等による臨床研修医の確保】

- 広島市民病院、安佐市民病院では、臨床研修医師向け病院説明会に参加し研修プログラムをPRするとともに、指導医体制強化のため指導医資格取得講習会に医師を派遣し、それらの指導医を中心に研修プログラムの充実を図った。安佐市民病院では、新型コロナウイルス感染症拡大のため3月実施予定の説明会2回が中止となった。
- 広島市民病院では、初期臨床研修医の報酬を6時間勤務算定から8時間勤務算定に見直し処遇改善を行った。
- 広島市民病院では、新専門医制度において内科、小児科、外科、産婦人科、麻酔科、病理診断科、救急科、精神科、耳鼻咽喉科及び形成外科については研修基幹病院としてのプログラム申請を行うとともに、その他の科に関しては岡山大学病院、広島大学病院等の連携施設として専攻医を受け入れるための申請を行った。
- 安佐市民病院では、新専門医制度において内科及び総合診療科については研修基幹病院としてのプログラム申請を行うとともに、その他の科に関しては広島大学病院の連携施設として専攻医を受け入れるための申請を、平成30年度に引き続き行った。また、内科は呉共済病院、病理診断科は広島市民病院、集中治療部(救急)は広島市民病院、県立広島病院内の連携施設である。
- 「協力型臨床研修病院」である舟入市民病院では、基幹型臨床研修病院である広島大学病院臨床実習教育研修センターなどから、初期臨床研修医を受け入れた。
- リハビリテーション病院では、令和元年度についても、教育研修施設の認定

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等																																																
		記号	記号																																																
<p>Ⅰ 看護師確保の推進（小項目）</p> <p>広島市立看護専門学校との連携等の在り方を検討するとともに、推薦試験の実施などにより、優れた看護師の確保に取り組みます。</p>	<p>Ⅰ 看護師確保の推進（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス等へ積極的に参加するとともに、看護師養成機関への働きかけの強化など受験者増につながる取組の推進 ・推薦試験の実施 ・中途試験の実施 	<p>地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等</p> <p>を受けている4学会の研修プログラムの充実を図り受入体制を整えた。また、広島大学病院の連携施設として専攻医を受け入れるための申請を、平成30年度に引き続き行った。</p> <p>○ 各病院において、以下のとおり、令和元年度の臨床研修医を受け入れた。 (参考) 臨床研修医受入状況 (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="419 658 667 1361"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">平成30年度</th> <th colspan="3">令和元年度</th> </tr> <tr> <th>初期研修</th> <th>後期研修</th> <th>合計</th> <th>初期研修</th> <th>後期研修</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>27</td> <td>57</td> <td>84</td> <td>28</td> <td>59</td> <td>87</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>17</td> <td>27</td> <td>44</td> <td>18</td> <td>26</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>23</td> <td>-</td> <td>23</td> <td>16</td> <td>-</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション科</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>68</td> <td>86</td> <td>154</td> <td>62</td> <td>87</td> <td>149</td> </tr> </tbody> </table> <p>【専門医制度に基づく専攻医の確保】</p> <p>○ 広島市民病院においては、令和元年度には同病院の基幹プログラムに17人、連携プログラムに16人、合計33人の専攻医を受け入れた。</p> <p>○ 安佐市民病院においては、令和元年度には同病院の基幹プログラムに1人（内科）、連携プログラムに20人、合計21人の専攻医を受け入れた。</p>	区分	平成30年度			令和元年度			初期研修	後期研修	合計	初期研修	後期研修	合計	広島市民病院	27	57	84	28	59	87	安佐市民病院	17	27	44	18	26	44	舟入市民病院	23	-	23	16	-	16	リハビリテーション科	1	2	3	-	2	2	合計	68	86	154	62	87	149	
区分	平成30年度			令和元年度																																															
	初期研修	後期研修	合計	初期研修	後期研修	合計																																													
広島市民病院	27	57	84	28	59	87																																													
安佐市民病院	17	27	44	18	26	44																																													
舟入市民病院	23	-	23	16	-	16																																													
リハビリテーション科	1	2	3	-	2	2																																													
合計	68	86	154	62	87	149																																													
<p>Ⅱ 看護師確保の推進（小項目）</p> <p>広島市立看護専門学校との連携等の在り方を検討するとともに、推薦試験の実施などにより、優れた看護師の確保に取り組みます。</p>	<p>Ⅱ 看護師確保の推進（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス等へ積極的に参加するとともに、看護師養成機関への働きかけの強化など受験者増につながる取組の推進 ・推薦試験の実施 ・中途試験の実施 	<p>3</p> <p>【ガイダンス等への積極的な参加等】</p> <p>○ 採用試験受験者の拡大を図るため、各病院において説明会・インターンシップを開催するとともに、看護師養成施設7箇所を訪問し、連携強化、受験生の確保に努めた。</p> <p>○ 優秀な人材を早期に確保するため、令和元年5月に推薦試験を実施し、35人採用した。</p> <p>○ 一般採用受験資格を実務経験の有無に依り、A区分（看護師免許取得見込み又は実務経験3年未満）とB区分（実務経験3年以上）とに区分して、令和元年7月に一般採用試験を実施し、79人（A区分72人、B区分7人）を採用した。なお、7月の一般採用試験で採用予定人数を確保できたため、中途試験は実施しなかった。</p> <p>○ 合格後の採用辞退をできるだけ少なくするため、採用内定者を対象に、令和元年10月に合同懇談会を、同年12月から令和2年3月までの間に配属病院に</p>																																																	

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																							
				評価理由等		評価理由・コメント等																							
				記号																									
<p>○ 看護師等の安定的な職場定着の推進（小項目） 看護師等の職場への定着を図るため、意欲的に働くことができる働きやすい職場環境づくりや指導体制の充実に取り組みます。</p>		<p>才 看護師等の安定的な職場定着の推進（小項目） ・看護師の負担軽減を図る 看護補助者の配置</p>		<p>よる懇談会を実施した。 (令和元年度採用試験受験者数、合格者数、採用者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">(単位：人)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> <th>採用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推薦（5月）</td> <td>38</td> <td>35</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>一般（7月）</td> <td>219</td> <td>99</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>257</td> <td>134</td> <td>114</td> </tr> </tbody> </table>		(単位：人)				区分	受験者数	合格者数	採用者数	推薦（5月）	38	35	35	一般（7月）	219	99	79	合計	257	134	114				
(単位：人)																													
区分	受験者数	合格者数	採用者数																										
推薦（5月）	38	35	35																										
一般（7月）	219	99	79																										
合計	257	134	114																										
<p>カ 病院間の人事交流の推進（小項目） 各病院が必要とする人材を市立病院全体で確保・育成するため、病院間の人事交流を推進します。</p>		<p>カ 病院間の人事交流の推進（小項目） ・人事交流の推進</p>		<p>【看護師の負担軽減を図る看護補助者の配置】 ○ 令和元年度は、広島市民病院で1人の業務員を、身体の清潔・排泄・食事などの介助業務も行う介助業務員に移行した。さらに、令和元年12月から1人の介助業務員の育成を行っている。 ○ 舟入市民病院では、看護補助者を対象とした業務の質の向上を図るための研修会（延べ2回）を行った。看護補助者を確保することが困難なため、多様な雇用形態を取り入れている。 【看護管理担当による指導体制の充実】 ○ 各病院の看護師及び介護士の業務管理体制を整え、人事・労務、教育・研修について指導を行った。</p>		3																							
<p>カ 病院間の人事交流の推進（小項目） 各病院が必要とする人材を市立病院全体で確保・育成するため、病院間の人事交流を推進します。</p>		<p>カ 病院間の人事交流の推進（小項目） ・人事交流の推進</p>		<p>【人事交流の推進】 ○ 法人全体で職員を確保・育成するため、令和元年度は以下のような病院間の異動を行った。 (令和元年度病院間異動者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>異動者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>診療放射線技師</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>医療ソーシャルワーカー</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>臨床検査技師</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>栄養士</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>臨床工学技士</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>33人</td> </tr> </tbody> </table>		区分	異動者数	看護師	8人	薬剤師	9人	診療放射線技師	3人	理学療法士	4人	医療ソーシャルワーカー	3人	臨床検査技師	2人	栄養士	1人	臨床工学技士	3人	計	33人	3			
区分	異動者数																												
看護師	8人																												
薬剤師	9人																												
診療放射線技師	3人																												
理学療法士	4人																												
医療ソーシャルワーカー	3人																												
臨床検査技師	2人																												
栄養士	1人																												
臨床工学技士	3人																												
計	33人																												

中期計画		令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号
<p>(2) 事務職員の専門性の向上 (小項目) 法人職員の計画的な採用と育成 広島市からの派遣職員を法人採用職員に段階的に切り替える、病院経営、医療事務に係る専門知識を有する職員の確保を図ります。また、事務職員の専門性を向上するため、広島市への職員派遣や研修の充実を図るとともに、スキルアップを支援する仕組みを検討します。</p>	<p>(2) 事務職員の専門性の向上 (小項目) 法人職員の計画的な採用と育成 ・法人採用職員の計画的な採用 ・医療事務に係る専門研修への参加や法人内の研修の実施などによる事務職員の専門性の向上</p>	<p>【法人採用職員の計画的な採用】 ○ 平成30年度に実施した採用試験により、同年度内に4人、令和元年度に2人の計6人の新規採用を行い、平成28年度の法人化後における法人採用事務職員数は、退職者を除き45人となった。 【事務職員の専門性の向上】 ○ 事務職員に対しては、本部事務局が新規採用職員研修を実施したほか、各病院で医療クリニックを対象とした実務研修、医事課職員を対象に診療報酬請求、DPC（診断群分類包括医療制度）の分析に関する研修などを実施し、専門性の向上を図った。 ○ 病院の外部環境や内部環境の変化及び問題点を把握し、改善のための戦略を立てる能力を習得させ、病院経営に有用な情報を取捨選択できる人材を育成することを目的として、平成30年度に実施した「病院経営スベシヤリスト育成カリキュラム」の受講者等を対象に、研修で学んだ内容を継続的に活かせるよう「フォローアップ研修」を3回実施した。</p>	3		
<p>(3) 研修の充実 ア 多様な研修機会の提供と参加しやすい環境づくり (小項目) 院内研修の充実、各種学会・研修会への参加の促進、専門資格取得のための研修など、多様な研修機会の提供と参加しやすい環境づくりに取り組みます。</p>	<p>(3) 研修の充実 ア 多様な研修機会の提供と参加しやすい環境づくり (小項目) ・院内研修の充実</p>	<p>【院内研修の充実】 ○ 広島市民病院では、看護部のキャリアアップを目指し、キャリア開発ラダーの受審を推進した結果、ジェネラリストラダーのⅠが63人、Ⅱが44人、Ⅲが124人、Ⅳが16人の合計247人が合格した。また、マネジメントラダーはⅠが124人、Ⅱが24人、Ⅲが22人、Ⅳが7人、Ⅴが5人、Ⅵが1人の合計183人が合格した。 研修は、ラダーレベル別教育目的が達成できる内容に見直し、看護部個々のキャリア支援に取り組んだ。また、看護部の年間教育計画を作成し、各部署に配布した。 全職員を対象として、医療安全、感染対策、メンタルヘルス及び看護必要度に関する研修を実施した。</p>	3		

中期計画	令和5年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号
<p>・ 院外の学会・研修会等への参加機会の確保</p> <p>・ 法人内の合同研修会の開催</p>	<p>チーム医療の人材育成を目的に、RST、NST、摂食嚥下口腔ケア、緩和ケア、認知症ケア、排尿ケアの院内認定教育課程を継続して実施している。</p> <p>○ 安佐市民病院では、キャリアラダーをもとに昨年度の研修内容を見直し、年間計画に沿って研修を実施した。また、管理者の育成を旨とした「OJT研修」を実施し、OJTスタッフ1を6人修了した。また、全職員を対象として、感染対策、医療安全、接遇、倫理の4研修を行うとともに、事務職以外の職種を対象として、褥瘡対策、認知症、排尿ケアの研修を行った。</p> <p>○ 舟入市民病院では、職員の健康管理のため、全職員を対象に「健康講座」を実施した。</p> <p>また、院内研修委員会が中心となり、医療安全、感染対策、接遇、NST、虐待防止等に関する研修会を計画的に実施した。</p> <p>看護科では、看護協会が推奨しているクリニカルラダーの目標が達成できよう支援を行った。さらに、マネジメントラダーを導入し、主任を対象とした管理研修を行った。院内認定看護師制度（緩和ケア分野、皮膚・排泄ケア看護分野、IVナース）については、5～7回シリーズの研修を延べ12回行った。</p> <p>○ リハビリテーション病棟では、教育研修委員会で院内研修の年間計画や研修テーマや内容の検討を行い、研修内容の充実を図っている。</p> <p>【院外の学会・研修会等への参加機会の確保】</p> <p>○ 広島市民病院では、国内の学会や研修会等への参加を、法人負担で延べ793件認めた。</p> <p>○ 安佐市民病院では、国内の学会・研修会等への参加を、法人負担で延べ571件認めた。</p> <p>○ 舟入市民病院では、院外の学会・研修会については、予算及び職員学会等出張取扱要領の範囲内で所属ごとに参加者を選定している。</p> <p>○ リハビリテーション病棟では、院外の学会・研修会については、予算及び職員学会等出張取扱要領の範囲内で所属ごとに参加者を選定している。</p> <p>【合同研修会の開催】</p> <p>○ 法人の新規採用者全員に対して、職場への円滑な適応を図るため、職員倫理・人権問題・メンタルヘルスなど、社会人として必要な心構えについて研修を行った。</p> <p>○ 法人の看護師を対象に、キャリア形成の節目研修として、「新師長研修」、「新主任研修」及び「ラダーII取得者研修」の合同研修を実施した。</p>	<p>○ 安佐市民病院では、キャリアラダーをもとに昨年度の研修内容を見直し、年間計画に沿って研修を実施した。また、管理者の育成を旨とした「OJT研修」を実施し、OJTスタッフ1を6人修了した。また、全職員を対象として、感染対策、医療安全、接遇、倫理の4研修を行うとともに、事務職以外の職種を対象として、褥瘡対策、認知症、排尿ケアの研修を行った。</p> <p>○ 舟入市民病院では、職員の健康管理のため、全職員を対象に「健康講座」を実施した。</p> <p>また、院内研修委員会が中心となり、医療安全、感染対策、接遇、NST、虐待防止等に関する研修会を計画的に実施した。</p> <p>看護科では、看護協会が推奨しているクリニカルラダーの目標が達成できよう支援を行った。さらに、マネジメントラダーを導入し、主任を対象とした管理研修を行った。院内認定看護師制度（緩和ケア分野、皮膚・排泄ケア看護分野、IVナース）については、5～7回シリーズの研修を延べ12回行った。</p> <p>○ リハビリテーション病棟では、教育研修委員会で院内研修の年間計画や研修テーマや内容の検討を行い、研修内容の充実を図っている。</p> <p>【院外の学会・研修会等への参加機会の確保】</p> <p>○ 広島市民病院では、国内の学会や研修会等への参加を、法人負担で延べ793件認めた。</p> <p>○ 安佐市民病院では、国内の学会・研修会等への参加を、法人負担で延べ571件認めた。</p> <p>○ 舟入市民病院では、院外の学会・研修会については、予算及び職員学会等出張取扱要領の範囲内で所属ごとに参加者を選定している。</p> <p>○ リハビリテーション病棟では、院外の学会・研修会については、予算及び職員学会等出張取扱要領の範囲内で所属ごとに参加者を選定している。</p> <p>【合同研修会の開催】</p> <p>○ 法人の新規採用者全員に対して、職場への円滑な適応を図るため、職員倫理・人権問題・メンタルヘルスなど、社会人として必要な心構えについて研修を行った。</p> <p>○ 法人の看護師を対象に、キャリア形成の節目研修として、「新師長研修」、「新主任研修」及び「ラダーII取得者研修」の合同研修を実施した。</p>		

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
		評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> 専門資格取得のための教育研修参加の支援 	<p>【専門資格取得のための教育研修参加の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広島市民病院では、資格取得を促進するため、専門教育を受けるための費用を法人で負担し教育参加の支援を行った。その結果、1人の看護師が新たに認定看護師（心不全看護）の資格を取得した。また、特定行為研修へ1人の看護師が参加し研修を終了した。 安佐市民病院では、2人が特定行為の研修を修了した。 舟入市民病院では、専門資格取得のための教育研修参加については、必要な費用等を法人が負担し認定看護師等の資格取得を促進している。今後、認知看護分野やがん化学療法看護分野の認定看護師の資格を取得できるような支援を行うこととした。 リハビリテーション病院では、専門資格取得のための教育研修参加については、必要な費用等を法人が負担し認定看護師等の資格取得を促進している。 			
<p>イ 新規採用看護師等に対する指導・研修の充実（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 専任の教育担当看護師による新規採用の看護師への指導や研修の充実を図ります。 	<p>イ 新規採用看護師等に対する指導・研修の充実（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育担当看護師による指導の実施 	<p>【教育担当看護師による指導の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広島市民病院では、新人教育体制、5マイクロスキルや叱り方、成長マインドセット、シミュレーション教育をテーマにした教育担当者研修を4回開催した。また、部署のサポート体制作りとキャリア支援室との連携を密にした。さらに、新人教育体制、アンガーマネジメント、アサーション、タイプ別コミュニケーションをテーマにしたプリセプター研修を5回実施し、課題への対応策を検討した。教育担当者研修、プリセプター研修共に新人のサポートに成果が見られた。新人教育は、117時間の集合研修を実施した。 安佐市民病院では、新規採用看護師の個人育成マップを再検討し、各部署の担当者と教育担当者が、個々の成長に合わせた支援体制を図った。 舟入市民病院では1人体制（専任）で、教育担当看護師が新規採用看護師等の教育担当として指導、研修を行った。 リハビリテーション病院では、新人看護職員教育チエックリストを用いて指導を行った。実施指導者が主にOJTを通して技術の習得をサポートし、教育担当者は、実地指導者の相談役となったり、実際に指導を行ったりして新人教育に関わった。また、令和元年度はクリニカルラダーIを見直し、令和2年度から導入できるように再構築を行った。 <p>【研修プログラムの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広島市民病院では、臨床研修として、部署・部門・クリティカル研修を7 	3		
	<ul style="list-style-type: none"> 研修プログラムの充実 				

中期計画	令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>日間実施した。ジェネラリストラダーの取得率は93%であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安佐市民病院では、キャリアラダーをもとに研修内容を再検討した。令和元年度のラダー認定者は、総計で111人であった。 ○ 舟入市民病院では、新人教育年間スケジュールパスを作成し、各々の看護技術習得時期と習得状況を分かりやすくし、指導を行った。 ○ リハビリテーション病棟では、緊急時の対応など、習熟度の低い技術については、急変時シミュレーションやBLS（一次救命処置）研修などのプログラムを追加し指導を行った。 			

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとすべき措置

3 弾力的な予算の執行、組織の見直し

中期目標 地方独立行政法人制度の利点を十分に生かし、弾力的な予算執行等を進めるとともに、医療需要や病院の実態等に応じた組織や人員配置とすること。

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
		評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>3 弾力的な予算の執行、組織の見直し(大項目)</p> <p>地方独立行政法人制度の利点を十分に生かし、引き続き、病院実態に即した弾力的な予算執行、組織や人員配置の見直しを行い、効果的かつ効率的な業務運営を行います。</p>	<p>3 弾力的な予算の執行、組織の見直し(大項目)</p> <p>・病院実態に即した弾力的な予算の執行</p> <p>・人員配置の見直しによる効果的かつ効率的な業務運営の実施</p>	<p>【弾力的な予算執行】</p> <p>○ 令和2年度予算編成において、各病院長の意見を反映させて、医療機器整備計画を病院の実態や必要性に応じて見直した。</p> <p>【人員配置の見直しによる効果的かつ効率的な業務運営の実施】</p> <p>○ 広島市民病院において、より迅速な医療安全対策措置をとるため「医療安全管理室」を、安佐市民病院において、北部医療センター安佐市民病院と安佐医師会病院(仮称)の機能分化策検討や北組病院の人員配置などを進めていくために「病院機能分化推進室」を設置するなど、組織の再編を実施した。</p>	3		

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

- 4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり
 - (1) 病院の実態に即した人事・給与制度の構築
 - (2) 適切な役割分担と業務の負担軽減
 - (3) ワーク・ライフ・バランスの推進
 - (4) メンタルヘルズ対策の実施

中期目標
 職員のインセンティブの向上を図るとともに、法人の経営状況を踏まえつつ、職員の能力や業績を的確に反映できる人事・給与制度とすること。また、働き方改革の実現や子育て支援の充実など、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組むことで、職員が誇りや働きがいを持つる職場環境を整備すること。

中期計画	令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり(大項目)	4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり(大項目)	記号	評価理由・コメント等	記号	記号
(1) 病院の実態に即した人事・給与制度の構築(小項目) 病院職員が意欲的に働くことのできるよう、法人の経営状況を踏まえつつ、職員の勤務実態や能力、業績等が適正に評価される人事・給与制度を構築します。	(1) 病院の実態に即した人事・給与制度の構築(小項目) ・勤務実態に応じた手当の見直し	3	【勤務実態に応じた手当の新設、見直し】 ○ 給与制度について、広島市人事委員会の勧告を踏まえ、広島市と同様に給与制度の改定を行った。 ○ 手当の新設及び見直しについて、勤務実態を考慮し引き続き慎重に検討を進めた。			
(2) 適切な役割分担と業務の負担軽減(小項目) 医療クラークや看護補助者等、医療スタッフが行う業務を補助する職員の確保や民間事業者の活用などにより、医療スタッフの負担軽減を図ります。	(2) 適切な役割分担と業務の負担軽減(小項目) ・医療スタッフが行う業務を補助する職員の配置	3	【医療スタッフが行う業務を補助する職員の配置】 ○ 広島市民病院では、看護師の業務負担軽減を図るために、介助業務員を育成し、看護補助業務の質の向上を図るとともに、介助業務員の人数配置が整っている部署においては、早出の7時30分から遅出業務終了の21時までのシフトを継続して、組んでいる。 ○ 安佐市民病院では、看護補助者に対する定期的な研修を実施するとともに、期間限定の6時間業務員の雇用及び部署間の応援体制で対応し、看護師の業務負担軽減を図った。			

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
				評価理由等		評価理由・コメント等	
				記号		記号	
	<p>・人材派遣を活用し、欠員が生じている部署の負担軽減</p>			<p>【人材派遣を活用し、欠員が生じている部署の負担軽減】</p> <p>○ 広島市民病院では、医事課外来係において平成 30 年度に人材派遣による欠員補充を行ったが、令和元年度は 5 部署（初診・会計受付、入院受付・文書受付、放射線治療科、内視鏡センター、歯科口腔外科）を委託化することで欠員の解消を図った。</p>			
<p>③ ワーク・ライフ・バランスの推進（小項目）</p> <p>ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、院内保育の充実や長時間労働の是正に向けた取り組みなどを推進し、職員が働きやすい職場環境を整備します。</p>	<p>③ ワーク・ライフ・バランスの推進</p> <p>ア 子育てと仕事との両立の支援（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児短時間勤務制度の維持 ・院内保育等の拡充 		3	<p>【育児短時間勤務制度の維持】</p> <p>○ 子育てと仕事との両立を支援するため、現場や育児短時間勤務職員からの意見を聴きながら、職員にとって働きやすい勤務形態を導入している。また、育児休業から復帰する際には、所属長等が個別に面談を行い、子育て支援に係る制度の周知を図った。</p> <p>【院内保育等の拡充】</p> <p>○ 平成 30 年度から院内保育を利用している乳幼児の兄弟等についても夜間保育の利用対象としたことや夜間保育の開設日数を増やし、令和元年度においても体制を維持することで、子育てと仕事との両立を支援した。</p>			
	<p>イ 長時間労働の是正（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間労働の是正のための取組推進 		3	<p>【長時間労働の是正のための取組推進】</p> <p>○ 広島市民病院では次の取組を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外にすぎないがやりやすい夕方以降の業務に対応するため、選出出勤の導入 ・土日祝日の患者説明は行わない。 ・土日祝日の病棟業務は当番医が行う。 ・後期研修医の救急夜勤時間の見直し（夜間の時間外勤務の短縮化） ・毎月の時間外実績を各所属長へ送付し、長時間労働の職員への指導配慮 <p>○ 安佐市民病院では、選出出勤を導入したこと、土日祝日において患者説明を行わないこと及び病棟業務を当番医が行うことにより、引き続き、時間外勤務削減に取り組んだ。</p>			

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号	記号
<p>(4) <u>メンタルヘルス対策の実施</u> (小項目) 職員の心の健康対策として、過重労働による健康障害の防止のための教育・研修の実施、相談体制の整備、職場復帰支援等を推進します。</p>	<p>・職員への意識啓発の取組</p>	<p>○ 舟入市民病院では、業務分担や記録のあり方の見直しを行うとともに業務改善により時間外勤務の削減に努め、長時間労働の是正に向けて臨時職員の活用等を行った。</p> <p>【職員への意識啓発の取組】</p> <p>○ 毎月、全職員の時間外勤務時間数をチェックし、基準を超える勤務時間の職員には産業医による面談を受けさせることで、長時間労働が心身に与える悪影響や時間外勤務削減の必要性についての意識啓発、メンタルサポートに努めた。</p> <p>○ 広島市民病院では、部長会において病院長から時間外削減に向けた取組を周知しており、チーム医療体制を整え患者に対応することで職員の長時間労働の削減を図っている。</p> <p>○ 安佐市民病院では、経営会議や部長会等の会議で病院長から削減の取組のことを会議のたびに伝えており、チーム医療体制を整え患者に対応することで職員の長時間労働の削減を図っている。</p> <p>○ 舟入市民病院では、経営会議や院内幹部会等の会議で病院長から削減の取組のことを会議のたびに伝えており、チーム医療の推進、患者や家族への説明を基本的に開院時間内に行うよう周知するなど、職員の長時間労働の削減を図っている。</p> <p>○ リハビリテーション病院では、毎月の幹部会議、運営会議及び安全衛生委員会において、毎月までの各所属の時間外勤務の実施状況を報告している。</p>			
<p>(4) <u>メンタルヘルス対策の実施</u> (小項目) 職員への意識啓発の取組</p> <p>・相談体制の整備</p>	<p>【意識啓発の取組】</p> <p>○ 各病院においてメンタルヘルス部会等を開催し、メンタルヘルスに関する様々な問題点について議論し、職員間での意識啓発を図った。</p> <p>○ 新規採用職員を対象に、4月8日及び4月9日に開催した「新規採用職員合同研修会」の中で、保健師によるメンタルヘルス研修を実施した。</p> <p>【相談体制の整備】</p> <p>○ 職員のストレスチェックを行い、職員のメンタル状況を把握するとともに、相談窓口の周知を図り、産業医、保健師等が必要な相談及び助言を行った。</p>	<p>3</p>			

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等
	<p>・職場復帰の支援等</p> <p>・ストレスチェックの実施及び結果に基づいた対応</p>	<p>【職場復帰の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 長期病休者等の職場復帰に当たっては、復帰が円滑に行えるよう、職場復帰訓練を行うとともに、産業医等による面接を行うなど、再度の病休入りの防止に努めた。 【ストレスチェックの実施及び結果に基づいた対応】 ○ 本部事務局では、令和元年11月に全職員を対象にストレスチェックを実施した。ストレスチェックの結果がハイリスクの職員に対しては、保健師が個別に相談窓口を案内するとともに、希望者には面談・電話・メールなどによる対応を行う体制としていたが、該当者はいなかった。 ○ 広島市民病院では、年2回（平成31年6月・11月）全職員へストレスチェックを実施（実施率：6月95.3%、11月95.9%）。ハイリスク者には、保健師より相談窓口を案内した。ハイリスク部署には所属長に連絡し、状況把握するとともに、必要に応じて介入した。また、新人看護師については毎月実施し、キャリア支援室と連携をとりながら、ハイリスク者や部署に早期対応できるよう努めた。 ○ 安佐市民病院では、年2回（平成31年6月・12月）全職員へストレスチェックを実施（実施率：6月96.5%、12月97.0%）。さらに新人看護師については、4月と9月も加え年4回実施した。令和元年度からハイリスク者への相談勧奨の方法を院内メール（従前は文書）に変更したことに伴い、事務作業が軽減され、返信内容から対象職員の状況把握が可能となった。また、ストレスチェックの結果、ハイリスク者割合が高い部署（看護部を除く）には所属長への面談を実施した。 ○ 舟入市民病院では、年1回、時期を決めてストレスチェックを実施した。 ○ リハビリテーション病棟では、ストレスチェックを年2回実施し、安全衛生委員会メンタルヘルス部会で結果の報告及び総合的な対策の検討を行っている。 	

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためのとるべき措置

5 外部評価等の活用

中期目標 会計監査人による監査、患者等利用者や本市評価委員会の意見を踏まえ、法人の業務運営の改善を図ること。

中期計画	令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等		市長による評価 評価理由・コメント等		記号
	5 外部評価等の活用 (大項目)		5 外部評価等の活用 (大項目)				
<p>会計監査人による監査等の結果を踏まえ、対応を速やかに検討し、必要な業務運営の改善に取り組みます。また、病院運営の透明性を高めるため、その結果や対応について、ホームページ等を活用して積極的に公開します。</p>	<p>5 外部評価等の活用 (大項目)</p> <p>・ 監査等の結果を踏まえた業務運営の改善及びその公表</p>		<p>【監査等の結果を踏まえた業務運営の改善及びその公表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 監事監査規程に基づき、監事による4病院の实地監査及び書類監査を行った(令和2年2月～3月)。 ○ 会計監査人による、病院の医薬品等の棚卸の立会い、財務諸表等の決算に係る審査等を行った。 ○ 会計規程に基づき、本部事務局職員が、毎月、本部事務局及び各病院において、現金残高の確認等の内部監査(自主監査)を実施した。 ○ 会計監査、監事監査の結果は、速やかに理事長及び理事会へ報告した上で、広島市へ報告するともに公表した。 				3

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

経営の安定化の推進

- (1) 中期目標期間中の経常収支の黒字化
- (2) 診療科別・部門別の収支状況の把握と迅速な対応
- (3) 経費の前減
- (4) 収入の確保

中期目標

ア 法人の経営努力だけでは維持することが困難な公共性の高い医療を提供するために必要となる経費（北館の病院の整備に係る経費を含む。）については、引き続き本市が負担するが、中期目標期間中の経常収支の黒字化を図ること。

イ 適正な病床管理による病床利用率の向上、診療報酬改定への的確な対応、適切な未収金対策に引き続き取り組むことなど、安定的な収入の確保を図るとともに、各病院の部門ごとの詳細な収支状況の把握・分析、多様な契約手法の導入による調達コストの縮減など、経費の前減に取り組むことにより、地方独立行政法人制度の利点を生かした効率的な病院運営を行うこと。

中期計画		令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号	記号										
<p>第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 経営の安定化の推進（大項目）</p> <p>(1) 中期目標期間中の経常収支の黒字化（小項目） 公共性の高い医療を提供するために必要な広島市からの運営費負担金の交付の下、中期目標期間中の経常収支の黒字化を図ります。</p>	<p>【目標値】（単位：％）</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>平成30年度実績</td> <td>令和元年度目標値</td> </tr> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>98.4</td> <td>101.1</td> </tr> </table> <p>※経常収支比率＝（経常収益／経常費用）×100</p>	区分	平成30年度実績	令和元年度目標値	経常収支比率	98.4	101.1	<p>【目標値】（単位：％）</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>令和元年度目標値</td> </tr> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>99.9</td> </tr> </table> <p>※経常収支比率＝（経常収益／経常費用）×100</p>	区分	令和元年度目標値	経常収支比率	99.9	<p>【経営状況・分析を踏まえた病院運営の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月開催する経営会議において、各病院の経営指標の現状と課題及びその対応策を報告し、意見交換を行って健全な病院運営を行うよう努めた。 ○ 令和元年度は、12月末時点では黒字決算が達成できる見込みであったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、1月以降収支が悪化し、経常収支比率は99.7%となった。 			2
区分	平成30年度実績	令和元年度目標値														
経常収支比率	98.4	101.1														
区分	令和元年度目標値															
経常収支比率	99.9															

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																																				
				評価理由等		評価理由・コメント等																																				
【目標値】病院ごとの経常収支比率		【目標値】病院ごとの経常収支比率		【実績】病院ごとの経常収支比率																																						
率 (単位：%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>令和1年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>98.4</td> <td>100.4</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>97.8</td> <td>102.8</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>103.5</td> <td>103.3</td> </tr> <tr> <td>リハビリテ- ション病院</td> <td>93.4</td> <td>94.2</td> </tr> </tbody> </table>		区分	平成28年度 実績	令和1年度 目標値	広島市民病院	98.4	100.4	安佐市民病院	97.8	102.8	舟入市民病院	103.5	103.3	リハビリテ- ション病院	93.4	94.2	率 (単位：%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>99.8</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>100.4</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>102.9</td> </tr> <tr> <td>リハビリテ- ション病院</td> <td>93.6</td> </tr> </tbody> </table>		区分	令和元年度 目標値	広島市民病院	99.8	安佐市民病院	100.4	舟入市民病院	102.9	リハビリテ- ション病院	93.6	率 (単位：%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>99.6</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>101.8</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>104.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテ- ション病院</td> <td>97.2</td> </tr> </tbody> </table>		区分	令和元年度 実績	広島市民病院	99.6	安佐市民病院	101.8	舟入市民病院	104.0	リハビリテ- ション病院	97.2		
区分	平成28年度 実績	令和1年度 目標値																																								
広島市民病院	98.4	100.4																																								
安佐市民病院	97.8	102.8																																								
舟入市民病院	103.5	103.3																																								
リハビリテ- ション病院	93.4	94.2																																								
区分	令和元年度 目標値																																									
広島市民病院	99.8																																									
安佐市民病院	100.4																																									
舟入市民病院	102.9																																									
リハビリテ- ション病院	93.6																																									
区分	令和元年度 実績																																									
広島市民病院	99.6																																									
安佐市民病院	101.8																																									
舟入市民病院	104.0																																									
リハビリテ- ション病院	97.2																																									
【目標値】病院ごとの医療収支比率 率 (単位：%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>令和1年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>93.3</td> <td>95.4</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>93.2</td> <td>98.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>72.4</td> <td>75.5</td> </tr> <tr> <td>リハビリテ- ション病院</td> <td>76.7</td> <td>74.7</td> </tr> </tbody> </table> ※医療収支比率＝(医療収益/医療費用)×100		区分	平成28年度 実績	令和1年度 目標値	広島市民病院	93.3	95.4	安佐市民病院	93.2	98.0	舟入市民病院	72.4	75.5	リハビリテ- ション病院	76.7	74.7	率 (単位：%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>95.1</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>97.4</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>74.9</td> </tr> <tr> <td>リハビリテ- ション病院</td> <td>75.0</td> </tr> </tbody> </table> ※医療収支比率＝(医療収益/医療費用)×100		区分	令和元年度 目標値	広島市民病院	95.1	安佐市民病院	97.4	舟入市民病院	74.9	リハビリテ- ション病院	75.0	率 (単位：%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>94.5</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>97.3</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>71.8</td> </tr> <tr> <td>リハビリテ- ション病院</td> <td>75.4</td> </tr> </tbody> </table> ※医療収支比率＝(医療収益/医療費用)×100		区分	令和元年度 実績	広島市民病院	94.5	安佐市民病院	97.3	舟入市民病院	71.8	リハビリテ- ション病院	75.4		
区分	平成28年度 実績	令和1年度 目標値																																								
広島市民病院	93.3	95.4																																								
安佐市民病院	93.2	98.0																																								
舟入市民病院	72.4	75.5																																								
リハビリテ- ション病院	76.7	74.7																																								
区分	令和元年度 目標値																																									
広島市民病院	95.1																																									
安佐市民病院	97.4																																									
舟入市民病院	74.9																																									
リハビリテ- ション病院	75.0																																									
区分	令和元年度 実績																																									
広島市民病院	94.5																																									
安佐市民病院	97.3																																									
舟入市民病院	71.8																																									
リハビリテ- ション病院	75.4																																									

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
				評価理由等		評価理由・コメント等	
				記号		記号	
<p>(2) 診療科別・部門別の収支状況の把握と迅速な対応(小項目)</p> <p>目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各病院の診療科別、部門別の収支状況を、常時把握、分析し、迅速に対応策を検討、実施します。 	<p>(2) 診療科別・部門別の収支状況の把握と迅速な対応(小項目)</p> <p>目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各病院の診療科別、部門別の収支状況を把握・分析し、迅速な対応策を検討・実施 	<p>【診療科別・部門別の収支状況の把握と迅速な対応】</p> <p>○ 広島市民病院では、「経営改善委員会」において、毎月の経営状況や新規取得可能な施設基準の抽出、既存項目のランクアップを図るとともに、稼働額が低迷している項目の実態調査を行い、関係部署と改善を図った。令和元年度の新規項目(国際標準検査管理加算等)と稼働額が低迷していた項目を合わせ約1,000万円の増収を得た。既存項目のランクアップを図った看護職員夜間配置加算16対1、急性期看護補助体制加算50対1及び輸血管理料IIは、3月末で要件が整い令和2年4月から看護職員夜間配置加算12対1、急性期看護補助体制加算25対1及び輸血管理料Iの施設基準を届出、約1億6,000万円の増収見込みである。</p> <p>医業経営コンサルティングの協力を得て、診療科別の収支状況を把握・分析し、それをもとに病院長による各科主任部長ヒヤリングを行い、収支改善に向けた検討を行った。また、DPC対象病棟(精神病棟以外20病棟)と医業支援センターを対象に病棟看護師長勉強会や入院退院支援ワーキングを行った。DPC入院期間を踏まえた既存パスの見直しを27件行い、在院日数の短縮により診療単価の増加に結びついた。</p> <p>○ 安佐市民病院では、診療科毎の原価計算を基に、各部門の収支状況等を各部門に提示するなど、収支改善に向けた準備・検討を行った。</p>	<p>3</p>	<p>(3) 経費の削減(小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各病院で使用する医薬品や診療材料の品目の共通化を進め、共同購入の拡大等に取り組みます。 診療経費の削減や患者負担の軽減の観点から、後発医薬品の採用拡大に取り組みます。 	<p>(3) 経費の削減(小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期・複合契約の推進 価格交渉落札方式による調達推進 同種の医療機器の共同購入及び医薬品、診療材料の品目の共通化の推進 	<p>【長期・複合契約の推進】</p> <p>○ 「安佐市民病院臨床検査管理システムの購入及び保守点検業務」他2件について、長期・複合契約により一括発注し、調達コスト及び管理コストの削減を図った。</p> <p>【価格交渉落札方式による調達推進】</p> <p>○ 予算額2,000万円以上の医療機器13件について、価格交渉落札方式により調達を行い、うち10件について入札参加者が価格交渉に応じた結果、396万1,130円の購入価格低減が図られた。</p> <p>【同種の医療機器の共同購入及び医薬品、診療材料の品目の共通化の推進】</p> <p>○ 複数病院における医療機器の共同購入については、全身用マルチスライスCT装置で実施準備を進め、翌年度に広島市民病院とリハビリテーション病院で実施することとした。</p>	<p>3</p>

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等																												
<p>【目標値】後発医薬品数量シェア (単位：%)</p> <table border="1" data-bbox="946 1760 1114 2078"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>令和3年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>74.1</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>76.9</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>—</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 数量シェア＝(後発医薬品の数量／(後発医薬品のある先発医薬品の数量＋後発医薬品の数量)) ×100</p> <p>※2 平成28年度実績＝平成27年10月から平成28年9月までの実績</p> <p>※3 令和3年度目標値は厚生労働省が定めた数量シェアの目標値</p>	区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値	広島市民病院	74.1	80.0	安佐市民病院	76.9	80.0	舟入市民病院	—	80.0	<p>令和元年度 年度計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 契約課と薬剤部共同による医薬品の価格交渉の実施 ・ 後発医薬品の使用量増加の推進 <p>【目標値】後発医薬品数量シェア (単位：%)</p> <table border="1" data-bbox="946 1507 1114 1731"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>75.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 数量シェア＝(後発医薬品の数量／(後発医薬品のある先発医薬品の数量＋後発医薬品の数量)) ×100</p>	区分	令和元年度 目標値	広島市民病院	80.0	安佐市民病院	80.0	舟入市民病院	75.0	<p>医薬品の共通化については、ある程度の統一感を持って実施した。また、診療材料の共通化については、広島市民病院と安佐市民病院において重点的に取り組む診療科を決め、SPD業者と連携を図りながら共通化を推進した。さらに、看護部で使用する病院負担分の診療材料について4病院の共通化、安価な材料との切り替えを行い、概ね統一した。</p> <p>【契約課と薬剤部共同による医薬品の価格交渉の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 契約課と薬剤部共同による価格交渉を上半期と下半期に分けて実施した結果、12.9%の値引率となり、平成30年度の値引率12.8%と比較して0.1ポイントのアップとなった。なお、令和元年度は、10月に▲2.4%の薬価改定が行われたことから、この影響を除くと、実質的には2.5ポイント以上の値引率アップが達成できたと考えている。 <p>【後発医薬品の使用量増加の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 先発医薬品から後発医薬品への切替え及び後発医薬品の使用量増加を推進した。安佐市民病院と舟入市民病院は目標値を達成したものの、広島市民病院では後発医薬品の抗菌薬などの供給が受けられなくなり、結果として先発医薬品に戻したことが影響し、目標値が達成できなかった。 <p>【実績】後発医薬品数量シェア (3月末実績) (単位：%)</p> <table border="1" data-bbox="946 1081 1114 1373"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>75.6</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>90.9</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>76.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※数量シェア＝(後発医薬品の数量／(後発医薬品のある先発医薬品の数量＋後発医薬品の数量)) ×100</p>	区分	令和元年度 実績	広島市民病院	75.6	安佐市民病院	90.9	舟入市民病院	76.1	<p>記号</p> <p>市長による評価 評価理由・コメント等</p>
区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値																													
広島市民病院	74.1	80.0																													
安佐市民病院	76.9	80.0																													
舟入市民病院	—	80.0																													
区分	令和元年度 目標値																														
広島市民病院	80.0																														
安佐市民病院	80.0																														
舟入市民病院	75.0																														
区分	令和元年度 実績																														
広島市民病院	75.6																														
安佐市民病院	90.9																														
舟入市民病院	76.1																														

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
【目標値】後発医薬品採用品目比率 (単位：%)		【目標値】後発医薬品採用品目比率 (単位：%)		評価理由等		評価理由・コメント等	
区分	平成21年度 実績	令和元年度 目標値	区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	記号
リハビリテー ション病院	27.2	29.0	リハビリテー ション病院	27.0	29.3	32.7	
※1 採用品目比率＝(後発医薬品 品目数/医薬品目数総数)× 100 ※2 平成28年度実績＝平成29 年3月末		※採用品目比率＝(後発医薬品目 数/医薬品目数総数)×100		【実績】後発医薬品採用品目比率(各年度3月末実績) (単位：%)		※採用品目比率＝(後発医薬品目数/医薬品目数総数)×100	
<ul style="list-style-type: none"> 医療の質の向上、医療安全の確保、患者サービスの向上などに十分に配慮した上で、職員の適正配置、長時間労働の是正などに努め、適正な人件費の維持に努めます。 		<ul style="list-style-type: none"> 職員の適正配置、長時間労働の是正等による適正な人件費の維持 		【適正な人件費の維持】 <ul style="list-style-type: none"> 職員の適正配置等により、適正な人件費の維持に努めた。 毎月、全職員の時間外勤務時間数を手エックし、基準を超える勤務時間の職員へは産業医による面談を受けさせることで、長時間労働が心身に与える悪影響や時間外勤務削減の必要性についての意識啓発、メンタルサポートに努めた。 広島市民病院では、長時間労働の是正のために、次の取組を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> 時間外にすぎないがやりやすい夕方以降の業務に対応するため、運出出勤の導入 土日祝日の患者説明は行わない。 土日祝日の病棟業務は当番医が行う。 後期研修医の救急夜勤時間の見直し(夜間の時間外勤務の短縮化) 毎月の時間外実績を各所属長へ送付し、長時間労働の職員への指導配慮 安佐市民病院では、運出出勤を導入したこと、土日祝日において患者説明を行わないこと及び病棟業務を当番医が行うことにより、時間外勤務削減に取り組んだ。 舟入市民病院では、業務分担や記録のあり方の見直しを行うとともに業務改善により時間外勤務の削減に努め、長時間労働の是正に向けて臨時職員の活用等を行った。 リハビリテーション病院では、院内の幹部会議及び病院・施設運営会議において、働き方改革に伴う労働基準法の改正について説明し職員に周知を図るとともに、適切な業務管理や人員配置などにより職員の負担軽減に努めた。結果、時間外勤務時間を削減することができた。特に平成30年度に職員数の減少により時間外勤務時間数が大きく増加した医師についても削減が図られた。 			

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
【目標値】 (単位：%)		【目標値】 (単位：%)		評価理由等		評価理由・コメント等	
区分	平成28年度 実績	令和元年度 目標値	区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	記号
給与費対医業収益比率	53.7	53.5	給与費対医業収益比率	53.4	52.2	51.8	
※1 給与費対医業収益比率＝ (給与費/医業収益)×100		※1 給与費対医業収益比率＝ (給与費/医業収益)×100		※給与費は、退職手当を除く。		※給与費は、退職手当を除く。	
※2 給与費は、退職手当を除く。		※2 給与費は、退職手当を除く。					
【(4) 収入の確保 (小項目)】		【(4) 収入の確保 (小項目)】				3	
<ul style="list-style-type: none"> 今後の疾病動向や診療報酬改定の情報収集、分析を行い、それらに迅速かつ的確に対応した病院経営を行います。 効果的な経営戦略を企画立案し、経営改善に取り組み、必要に応じて診療経営コンサルタント等を活用します。 地域の医療機関との役割分担と連携の下、適正な在院日数や病床管理による病床利用率の向上に取り組み、診療報酬収入の確保に努めます。 		<ul style="list-style-type: none"> 疾病動向の変化や診療報酬改定への対応 医療経営コンサルタント等を活用した、適正な在院日数や病床管理による診療報酬収入の確保 		<p>【疾病動向の変化や診療報酬改定への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療報酬改定に関する調査・分析・検証を行うとともに、施設基準取得のため、職員配置等の検討や必要な研修へ医師等を派遣するなど、収入確保に向けた取組を進めた。 <p>【医療経営コンサルタント等を活用した診療報酬収入の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広島市民病院では、医療経営コンサルタントの協力を得て、診療科別収益状況、収益の月次推移、DPC、入院期間及び定義副傷病名について分析し、その結果を基に、病院長及び事務長による9科、延べ10回のヒヤリングと病棟看護師長勉強会（医療支援センター含む）を延べ24回行い、クリニカルパスの見直し等に結びつけるなどし、診療単価増や診療報酬増につながった。 安佐市民病院では、過去の医療経営コンサルタントからの助言等に基づき、分析ツール等を利用して、毎週前日までのデータを使って「病棟別患者状況一覧」を作成し、病棟看護師長・各科主任部長等に情報提供を行うことにより、適正な在院日数や病床管理に向けて活用を行った。 			

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
【目標値】病床利用率(単位：%)		【目標値】病床利用率(単位：%)		【実績】病床利用率(単位：%)		評価理由・コメント等	
区分	平成21年度 実績	令和元年度 目標値	区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	記号
広島市民病院 (一般病床)	96.1	97.5	広島市民病院 (一般病床)	96.7	96.4	95.2	
安佐市民病院	85.7	90.3	安佐市民病院	88.5	87.9	87.7	
舟入市民病院 (内科、外科)	82.9	85.0	舟入市民病院 (内科、外科)	76.1	76.8	73.4	
リハビリテー ション病院	96.5	96.5	リハビリテー ション病院	95.1	94.4	95.3	
<p>※1 病床利用率＝(入院延べ患者数/診療日数)÷病床数</p> <p>※2 入院延べ患者数は退院日を含む。</p>		<p>※病床利用率＝(入院延べ患者数/診療日数)÷病床数</p> <p>※入院延べ患者数は退院日を含む。</p> <p>※舟入市民病院の病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率を含む。</p>		<p>※病床利用率＝(入院延べ患者数/診療日数)÷病床数</p> <p>※入院延べ患者数は退院日を含む。</p> <p>※舟入市民病院の病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率(新型コロナウイルス感染症患者を含む)</p>			
<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬制度に基づく適正な診療、事務処理を徹底し、請求漏れの解消、査定減(診療報酬を支払基金等に請求した際の減額)の縮減を図ります。 収入の確保及び公平性の観点から、医療費個人負担分に係る未収金の発生防止に取り組みとともに、回収困難な事案については弁護士法人への回収委託等を行うなど、発生した未収金の早期回収に取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬制度に基づく適正な診療及び事務処理の徹底 医療費個人負担分に係る未収金の発生防止及び早期回収 回収困難な事案について弁護士法人への回収委託 	<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬制度に基づく適正な診療及び事務処理の徹底 医療費個人負担分に係る未収金の発生防止及び早期回収 回収困難な事案について弁護士法人への回収委託 	<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬制度に基づく適正な診療及び事務処理の徹底 診療報酬の支払基金等への請求に当たっては、医師及び事務職員による診療の妥当性や算定額りのチェックを行い、適正な請求に努めた。また、査定資料を医師に情報提供し、請求漏れや査定減の縮減に努めた。 医療費個人負担分に係る未収金の発生防止及び早期回収 従来から医療費個人負担分に係る未収金の発生防止に取り組みとともに、回収困難な事案については弁護士法人への回収委託等を行うなど、発生した未収金の早期回収に取り組み、収納率は、安佐市民病院及び舟入市民病院で目標を達成することができた。 【医療費個人負担分に係る未収金の発生防止及び早期回収】 【回収困難な事案について弁護士法人への回収委託】 	<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬制度に基づく適正な診療及び事務処理の徹底 診療報酬の支払基金等への請求に当たっては、医師及び事務職員による診療の妥当性や算定額りのチェックを行い、適正な請求に努めた。また、査定資料を医師に情報提供し、請求漏れや査定減の縮減に努めた。 医療費個人負担分に係る未収金の発生防止及び早期回収 従来から医療費個人負担分に係る未収金の発生防止に取り組みとともに、回収困難な事案については弁護士法人への回収委託等を行うなど、発生した未収金の早期回収に取り組み、収納率は、安佐市民病院及び舟入市民病院で目標を達成することができた。 【医療費個人負担分に係る未収金の発生防止及び早期回収】 【回収困難な事案について弁護士法人への回収委託】 	<ul style="list-style-type: none"> 広島市民病院では、令和元年度は、88万360円を回収し、新規に237万1,021円の回収を委託した。 安佐市民病院では、令和元年度は、31万1,090円を回収し、新規に53万7,713円の回収を委託した。 舟入市民病院では、令和元年度は、25万4,150円を回収し、新規に43万1,870円の回収を委託した。 		

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとすべき措置
安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充

中期目標
本市が示した機能分化整備方針を踏まえ、本市と十分に連携を図りながら、安佐市民病院の建替えを進めること。

中期計画		令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号
<p>第5 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとすべき措置</p> <p>1 安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充（小項目） (1) 基本的な考え方 耐震性の向上と老朽化・狭あい化の解消、高度で先進的な医療機能の拡充等を図るため、安佐市民病院の建替えを進めます。 建替えに当たっては、広島市の機能分化整備方針に基づき、高度で先進的な医療機能、災害拠点病院としての機能及びへき地医療拠点病院としての機能を荒下地区に、日常的に高齢者などの地域住民が受診できる医療機能等を現在の北館にそれぞれ整備します。 現在の北館に整備する病院は、広島市の要請により一般社団法人安佐医師会が設置運営を行い、同医師会に対し広島市と共に必要な支援</p>	<p>第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとすべき措置</p> <p>安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充（大項目）</p>	<p>安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充（小項目） 耐震性の向上と老朽化・狭あい化の解消、高度で先進的な医療機能の拡充等安佐市民病院が担うべき医療機能の拡充への対応を図るため、安佐市民病院の建替えを進めます。 建替えに当たっては、高度で先進的な医療機能災害拠点病院としての機能を荒下地区に、日常的に高齢者などの地域住民が受診できる医療機能等を現在の北館に整備します。 (令和元年度の取組) (1) 執行体制の充実及び効率的な業務の推進 ・安佐市民病院整備室に、用地取得のための職員を増員</p>	<p>【執行体制の充実及び効率化】 ○ 安佐市民病院整備室に、用地取得のための職員を増員し執行体制の充実を図った。 また、平成29年度より設計、工事等の各段階におけるスケジュール、コスト、品質管理等のマネジメントを民間委託するCM（コンストラクション・マネジメント）方式を導入しており、限られた人員で業務を推進できる体制を構築することで、執行体制の効率化を図っている。</p>		3

中期計画	令和元年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価 評価理由・コメント等	記号
<p>を行います。</p> <p>(2) 整備する場所</p> <p>ア 高度で先進的な医療機能等の主要な医療機能 広島市安佐北区亀山南一丁目「荒下地区」</p> <p>イ 日常的に高齢者などの地域住民が受診できる医療機能等 広島市安佐北区可部南二丁目「現在地」</p> <p>2. 荒下地区に整備する病院</p> <p>(1) 担うべき医療の基本的な方向性</p> <p>ア 高度で先進的な医療の拡充 救命救急センター、ヘリポートの整備等</p> <p>イ 災害拠点病院としての機能の拡充 免震構造の採用、1階部分に災害傷病者の受入れスペース及び設備の整備、災害備蓄倉庫の整備等</p> <p>ウ 東北西部地域等の病院支援と患者の受入れの拡充 ・医師の派遣等の支援、研修機能等の充実等 ・東北西部地域の公立病院等との連携強化</p> <p>(2) 整備概要</p> <p>ア 敷地面積 約40,000㎡</p> <p>イ 建物(病院本体)</p>	<p>ことによる限られた人員での業務の推進</p> <p>(2) 建替え業務の着実な推進</p> <p>① 荒下地区 ・建設工事(R1~3) 事業費 (R1) 2,253,900千円 ・工事監理等 (R1~4) 事業費 (R1) 373,587千円 ・用地取得 (R1・2) 事業費 (R1) 960,000千円</p> <p>② 現在地 ・実施設計等 (H30~R1) 事業費 (R1) 110,000千円</p>	<p>【建替え事業の着実な推進】</p> <p>○ 建替え事業の状況は、次のとおりである。</p> <p>① 荒下地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年6月に建設工事に着手するとともに、工事監理を行っている。 ・令和2年3月に病院敷地の一部として、広島市荒下土地区画整理組合から約19,500㎡の土地を購入した。 <p>② 現在地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年9月に実施設計を終えた。 		

令和元年度 年度計画		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
中期計画		平成30年度		平成31年度		令和元年度		令和2年度	
市長による評価		記号		記号		記号		記号	
市長による評価		評価理由・コメント等		評価理由等		評価理由等		評価理由等	
・面積 延床面積 約40,000㎡ (建築面積 約15,000㎡) ・構造 鉄骨造・鉄筋コンクリート造 ウ 医療機能 ・病床数 450床 [うちICU 8床、HCU 19床] ・診療科 32診療科 (3) 整備スケジュール									
平成29年度まで 基本計画 基本設計		平成30年度 実施設計		令和元年度 建設工事		令和2年度 令和3年度 令和4年度 令和5年度		令和4年度 令和5年度	

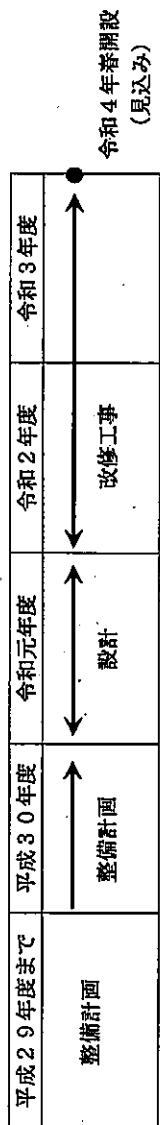
令和4年春開設
(見込み)

(4) 整備費

(単位：百万円)

区分	平成29年度まで	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	合計
基本計画	20							20
基本設計	152							152
工事監理等	66	147	188	282	270	887	5	958
実施設計		400				400		400
建設費			2,254	8,196	10,040	20,490		20,490
小計	218	547	2,442	8,478	10,310	21,777	5	22,000
土地購入費			1,920			1,920		1,920
医療機器購入費					7,330	7,330		7,330
合計	218	547	4,362	8,478	17,640	31,027	5	31,250
運営費負担金	238	547	4,362	8,478	17,640	31,027	5	31,270
長期借入金	109	4	4	5	7	20	1	130
自己財源	129	539	4,354	8,468	17,425	30,786	3	30,789
補助金(へき地)		4	4	5	8	21	1	151
補助金(へき地)					200	200		200

中期計画		令和元年度 年度計画		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
				評価理由等		評価理由・コメント等	
				記号		記号	
<p>3 現在の北館に整備する病院 (1) 担うべき医療の基本的な方向性 日元的に高齢者などの地域住民が受診できる医療機能の拡充等</p> <p>(2) 整備概要 ア 敷地面積 約10,000㎡ イ 建物(病院部分) ・面積 延床面積 約7,000㎡ ・構造 鉄骨鉄筋コンクリート造</p> <p>ウ 医療機能 ・病床数 77床[地域包括ケア病床 57床、緩和ケア病 床 20床]</p> <p>・診療科 総合内科</p> <p>(3) 整備スケジュール</p>							



中期計画	令和元年度		令和2年度		令和3年度		計	市長による評価	
	年度計画	年度計画	年度計画	年度計画	年度計画	年度計画			
(4) 整備費									
	(単位：百万円)								
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和3年度	計			
整備計画	17					17			
工事監理等			3	12		15			
実施設計		41				41			
建設費			182	735		917			
合計	17	41	185	747		990			
運営費負担金	17	41	185	747		990			
財源									
<p>(5) 現在の北館に整備する病院への支援の基本的な考え方は、広島市の支援の下、医療に関する地域支援を行うため、現在の北館に整備する病院への支援を行います。</p>									